ゲスト OS インストール ガイド

2009年11月19日

注意:

『ゲスト OS インストール ガイド』の内容は変更されています。本書の新しいバージョンには、 ゲスト OS のインストールだけに該当する情報および説明が記載されています。 ゲスト OS のサポート情報については、「ゲスト OS およびホスト OS 互換性ガイド (Guest/Host OS VMware Compatibility Guide)」を参照してください。 VMware Tools の情報については、ヴイエムウェアのドキュメント Web サイト (http://www.vmware.com/jp/support/pubs/)で、該当する製品のドキュメントを参照してくだ さい。既知の問題については、VMware のナレッジベース (http://kb.vmware.com/)を参照し てください。廃止予定の『ゲスト OS インストール ガイド』、新しいバージョンの『ゲスト OS インストール ガイド』、および新しい「ゲスト OS およびホスト OS 互換性ガイド (Guest/Host OS VMware Compatibility Guide)」はすべて、次の URL で参照できます。 http://www.vmware.com/resources/compatibility/search.php?deviceCategory=software

GSTOS-JPN-Q409-200



最新情報を反映したテクニカル ドキュメントは、ヴイエムウェアの Web サイトにてご覧いただけます。

http://www.vmware.com/jp/support

ヴイエムウェアの Web サイトでは、最新の製品アップデート情報も提供しています。 本書に関するコメントがございましたら、次のメールアドレスまでご連絡ください。

docfeedback@vmware.com

©2006 -2010 VMware, Inc. All rights reserved. この製品は、米国および国際著作権法ならびに知的財産法によって保護されています。ヴイエムウェアの製品は、

http://www.vmware.com/go/patents に記載されている1つまたは複数の特許により保護されています。

VMware、VMware「ボックス」ロゴとデザイン、Virtual SMP、および VMotion は、VMware, Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。ここに記載されているその他 の名称およびマークは各社の商標です。

VMware, Inc.

3401 Hillview Ave Palo Alto, CA 94304 www.vmware.com

ヴイエムウェア株式会社

105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5 浜松町スクエア 13F www.vmware.com/jp

本書について13

サポート対象のゲスト OS のインストール 17 最新の更新情報 18 サポート対象のゲストに関する一般的なガイドライン 18 仮想マシンのメモリ設定 18 GSX Server および VMware Server のサウンド アダプタ 18 ゲスト OS の実行 18 64 ビット Linux ゲストおよび ED (Execute Disable) 機能 18 VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順 19 通常のインストール 19 ISOによるインストール 20 PXFによるインストール 20 Windows 7 21 インストールの手順 21 VMware Tools 21 Windows Preinstallation Environment 22 インストールの手順 23 VMware Tools 23 Windows Recovery Environment 24 VMware Tools 24 Windows Server 2008 25 インストールの手順 26 VMware Tools 26 Windows Vista 27 インストールの手順 27 VMware Tools 27 Windows Server 2003 29 インストールの手順 29 VMware Tools 30 Windows XP 31 インストールの手順 32

```
VMware Tools 32
Windows 2000 33
  インストールの手順 33
  VMware Tools 33
Windows NT 4 0 34
  インストールの手順 34
  インストール後の手順 35
    Windows NT 4.0 のインストール後のネットワークの有効化 35
  VMware Tools 36
Windows Me 37
  インストールの手順 37
  VMware Tools 37
Windows 98 38
  インストールの手順 38
  インストール後の手順 39
    Windows 98 のインストール後のネットワークの有効化 39
  VMware Tools 39
Windows 95 40
  インストールの手順 40
  インストール後の手順 42
    Windows 95 のインストール後のネットワークの有効化 42
  VMware Tools 43
MS-DOS 6.22 および Windows 3.1x 44
  MS-DOS 6.22 および Windows 3.1x のインストール 44
  MS-DOS 6.22 および Windows 3.1 x のインストール後の考慮事項 46
  VMware Tools 46
Asianux Server 3.0 47
  インストールの手順 47
  VMware Tools 48
CentOS 5.0 49
  インストールの手順 49
  VMware Tools 50
CentOS 4.0 51
  インストールの手順 51
  VMware Tools 52
Debian 5.0 53
  インストールの手順 53
  VMware Tools 53
Debian 4.0 54
```

インストールの手順 54 VMware Tools 54 IBM OS/2 Warp 4.5.2 55 インストールの手順 55 記動ディスクの作成 56 VMware Tools 56 IBM OS/2 Warp 4.0 57 インストールの手順 57 起動ディスクの作成 58 VMware Tools 58 Mac OS X Server 10.5 59 インストールの手順 59 VMware Tools 61 Mandriva Corporate Desktop 4 62 インストールの手順 62 VMware Tools 63 Mandriva Corporate Server 4 64 インストールの手順 64 VMware Tools 65 Mandriva Linux 2008 66 インストールの手順 66 VMware Tools 67 Mandriva Linux 2007 68 インストールの手順 68 VMware Tools 69 Mandriva Linux 2006 70 インストールの手順 70 VMware Tools 71 Mandrake Linux 10.1 72 インストールの手順 72 VMware Tools 73 Mandrake Linux 10 74 インストールの手順 74 VMware Tools 75 Mandrake Linux 9.2 76 インストールの手順 76 VMware Tools 78 Mandrake Linux 9.1 79 インストールの手順 79

VMware Tools 80 Mandrake Linux 9.0 81 インストールの手順 81 VMware Tools 82 Mandrake Linux 82 83 インストールの手順 83 VMware Tools 84 Mandrake Linux 8.0 および 8.1 85 インストールの手順 85 VMware Tools 86 XFree86 へのシンボリック リンクの設定 86 Novell Linux Desktop 9 87 インストールの手順 87 VMware Tools 87 Oracle Enterprise Linux 5 88 インストールの手順 88 VMware Tools 89 Oracle Enterprise Linux 4 90 インストールの手順 90 VMware Tools 91 Red Hat Enterprise Linux 5 92 インストールの手順 92 VMware Tools 93 Red Hat Enterprise Linux 4 94 インストールの手順 95 VMware Tools 96 Red Hat Enterprise Linux 3 97 インストールの手順 97 VMware Tools 99 Red Hat Enterprise Linux 2.1 100 インストールの手順 101 VMware Tools 103 Red Hat Linux 9.0 104 インストールの手順 104 VMware Tools 105 Red Hat Linux 8.0 107 インストールの手順 107 VMware Tools 108 Red Hat Linux 7.3 109

インストールの手順 109 VMware Tools 110 Red Hat Linux 7.2 111 インストールの手順 111 VMware Tools 112 Red Hat Linux 7.1 113 インストールの手順 113 VMware Tools 114 Red Hat Linux 7.0 115 インストールの手順 115 VMware Tools 116 Red Hat Linux 6.2 117 インストールの手順 118 VMware Tools 119 Sun Java Desktop System 2 120 インストールの手順 120 VMware Tools 120 SCO OpenServer 5.0 121 インストールの手順 122 Maintenance Pack 5 のインストール 124 VMware Tools 124 SCO UnixWare 7 125 インストールの手順 125 SCO UnixWare メンテナンス パックのインストール 125 SMP のインストールと構成 126 VMware Tools 126 SUSE Linux Enterprise Desktop 11 127 インストールの手順 127 VMware Tools 127 SUSE Linux Enterprise Desktop 10 128 インストールの手順 128 VMware Tools 129 SUSE Linux Enterprise Server 11 130 インストールの手順 130 VMware Tools 130 SUSE Linux Enterprise Server 10 131 インストールの手順 131 VMware Tools 132 SUSE Linux Enterprise Server 9 133

インストールの手順 133 VMware Tools 134 SUSE Linux Enterprise Server 8 135 インストールの手順 135 VMware Tools 136 SUSE Linux Enterprise Server 7 137 インストールの手順 137 VMware Tools 138 Open SUSE Linux 11.1 139 インストールの手順 139 VMware Tools 140 Open SUSE Linux 10.3 141 インストールの手順 141 VMware Tools 142 Open SUSE Linux 10.2 143 インストールの手順 143 VMware Tools 144 SUSE Linux 10.1 145 インストールの手順 145 VMware Tools 146 SUSE Linux 10 147 インストールの手順 147 VMware Tools 148 SUSE Linux 9.3 149 インストールの手順 149 VMware Tools 149 SUSE Linux 9.2 150 インストールの手順 150 VMware Tools 150 SUSE Linux 9.1 151 インストールの手順 151 VMware Tools 151 SUSE Linux 9.0 152 インストールの手順 152 VMware Tools 152 SUSE Linux 8.2 154 インストールの手順 154 VMware Tools 155 SUSE Linux 8.1 156

インストールの手順 156 VMware Tools 157 SUSE Linux 8.0 158 インストールの手順 158 VMware Tools 159 SUSE Linux 7.3 160 インストールの手順 160 VMware Tools 161 Turbolinux 10 Server 162 インストール上の注意点 162 インストールの手順 162 VMware Tools 162 Turbolinux 10 Desktop 163 インストールの手順 163 VMware Tools 163 Turbolinux Enterprise Server 8 164 インストールの手順 164 VMware Tools 165 Turbolinux Workstation 8 166 インストールの手順 166 VMware Tools 167 Turbolinux 7.0 168 インストールの手順 168 VMware Tools 169 Ubuntu 9.10 170 インストールの手順 170 VMware Tools 170 Ubuntu 9.04 172 インストールの手順 172 VMware Tools 172 Ubuntu 8.10 174 インストールの手順 174 VMware Tools 174 Ubuntu 8.04 LTS 176 インストールの手順 176 VMware Tools 176 Ubuntu Linux 7.10 178 インストールの手順 178 VMware Tools 178

Ubuntu Linux 7.04 180 インストールの手順 180 VMware Tools 180 Ubuntu Linux 6.10 182 インストールの手順 182 VMware Tools 182 Ubuntu Linux 6.06 184 インストールの手順 184 VMware Tools 184 Ubuntu Linux 5.10 186 インストールの手順 186 VMware Tools 186 VMware Tools と 64 ビット版の Ubuntu Linux 5.10 187 Ubuntu Linux 5.04 188 インストールの手順 188 VMware Tools 188 FreeBSD 7.2 190 インストールの手順 191 VMware Tools 191 FreeBSD 7.1 192 インストールの手順 193 VMware Tools 193 FreeBSD 7.0 194 インストールの手順 194 VMware Tools 194 FreeBSD 6.4 195 インストールの手順 196 VMware Tools 196 FreeBSD 6.3 197 インストールの手順 198 VMware Tools 198 FreeBSD 6.2 199 インストールの手順 199 VMware Tools 199 FreeBSD 6.1 200 インストールの手順 200 VMware Tools 200 FreeBSD 6.0 201 インストールの手順 201

VMware Tools 201 FreeBSD 5.5 202 インストールの手順 202 VMware Tools 202 FreeBSD 5.4 203 インストールの手順 203 VMware Tools 203 FreeBSD 5.3 204 インストールの手順 204 VMware Tools 204 FreeBSD 5.2 205 インストールの手順 205 VMware Tools 205 FreeBSD 5.1 206 インストールの手順 206 VMware Tools 206 FreeBSD 5.0 207 インストールの手順 207 VMware Tools 207 FreeBSD 4.11 208 インストールの手順 208 VMware Tools 208 FreeBSD 4.10 209 インストールの手順 209 VMware Tools 209 FreeBSD 4.9 210 インストールの手順 210 VMware Tools 210 FreeBSD 4.4、 4.5、 4.6.2、 4.8 211 インストールの手順 211 VMware Tools 211 FreeBSD 4.0、4.1、4.2、4.3 212 インストールの手順 212 FreeBSD の SCSI 仮想ディスク用のディスク ジオメトリの設定 212 VMware Tools 214 NetWare 6.5 Server 215 インストールの手順 215 VMware Tools 217 NetWare 6.0 Server 218

インストールの手順 218 VMware Tools 220 NetWare 5.1 Server 221 インストールの手順 221 VMware Tools 223 NetWare 4.2 Server 224 インストールの手順 224 VMware Tools 227 Solaris 10 オペレーティング システム x86 プラットフォーム版 228 インストールの手順 228 VMware Tools (ESX Server 3.xのみ) 229 Solaris 9 オペレーティング システム x86 プラットフォーム版 230 インストールの手順 230 VMware Tools 232 Solaris 8 オペレーティング システム x86 プラットフォーム版 233 インストールの手順 233 SCSI ドライバの追加 235 VMware Tools 235

インデックス 237

本書について

本『ゲスト OS インストール ガイド』では、VMware ESX Server、VMware GSX Server、 VMware Server、VMware ACE、VMware Workstation、および VMware Fusion のユー ザーを対象に、VMware 仮想マシンへのゲスト OS のインストールに関する情報を提 供します。

改訂履歴

本ガイドは改訂版です。インストールに関する説明が必要な新しくサポートされたゲスト OS についてそれぞれ追記されています。

表 1. 改訂履歴

リビジョン		
20091119	Oracle Enterprise Linux 4、Ubuntu 9.10、および FreeBSD 7.2 の手順を新しく追加。	
20090902	 MS-DOS 2.66 および MS-DOS 3.1x のインストール手順を修正。 SUSE Linux Enterprise Server 10 および 9 のインストール手順で、LILO ではなく、GRUB BootLoader を使用するように修正。 SUSE Linux Enterprise Server 10 の情報の一部を編集上修正。 	
20090716	 サポートされるゲスト OS のインストールに関連する情報のみを記載するように、『ゲスト OS インストール ガイド』を再編成。本ガイドから削除された情報およびサポートのデータ検索は、次の場所を参照してください。 『ゲスト OS インストール ガイド』(廃止予定): 2009 年 6 月 16 日より前にこのガイドで公開された情報について。 オンラインの「ゲスト OS およびホスト OS 互換性ガイド(Guest/Host OS VMware Compatibility Guide)」: サポート対象のゲスト OS の詳細および基本的な情報について。 ナレッジベース: ゲストの操作に影響を与える既存の問題について。 	

対象読者

本ガイドは、VMware 仮想マシンにオペレーティング システムをインストールする ユーザーを対象としています。

本書へのフィードバック

ドキュメントの向上にご協力ください。本書に関するコメントがございましたら、次の電子メールアドレスまでフィードバックをお寄せください。 docfeedback@vmware.com

テクニカル サポートおよびエデュケーション リソース

ここでは、お客様にご利用いただけるテクニカルサポート リソースを紹介します。 本書やその他の文書の最新バージョンは、次の URL をご覧ください。 http://www.vmware.com/jp/support/pubs

オンライン サポートおよび電話によるサポート

テクニカル サポート リクエストの提出や、製品および契約情報の確認、製品の登録 をオンラインで行うことができます。詳細は次の URL をご覧ください。 http://www.vmware.com/jp/support 該当するサポート契約を結んでいるお客様の場合、迅速な対応が必要な Severity 1 の 問題に関しては電話でのサポートをご利用ください。詳細は次の URL をご覧くださ い。

http://www.vmware.com/support/japan.html

サポート サービス

お客様のビジネスニーズに適した各種サポートの詳細については、次の URL をご覧 ください。

http://www.vmware.com/jp/support/services

ヴイエムウェア プロフェッショナル サービス

ヴイエムウェアの教育サービスコースでは、広範なハンズオンラボやケーススタ ディをご紹介します。また、業務の際のリファレンスとしてお使いいただける資料も 提供しています。トレーニングは、オンサイト、講義形式、およびライブオンライ ンで受講できます。オンサイトのパイロットプログラムおよび実装のベストプラク ティスについては、ヴイエムウェアコンサルティングサービスがご使用の仮想環境 の評価、計画、構築、および管理に役立つサービスを提供しています。教育コース、 認定プログラム、およびコンサルティングサービスについては、次の URL をご覧く ださい。

http://www.vmware.com/jp/services

ゲスト OS インストール ガイド

サポート対象のゲスト OS の インストール

『ゲスト OS インストール ガイド』には、次の VMware 製品にサポート対象のゲスト OS をインストールするためのインストール手順が記載されています。

- VMware ESX Server 2.0 以降
- VMware ESXi/ESX 3.5 以降
- VMware Workstation 4.0 以降
- VMware Server 1.0 以降
- VMware Fusion1.0 以降
- VMware ACE 1.0 以降
- VMware GSX Server 3.0 以降

VMware Workstation 3.x 以前、VMware GSX Server 2.x 以前、または VMware ESX Server 1.x 以前の VMware 製品を使用している場合、各製品がサポートするゲスト OS のインストール手順については、製品に付属しているユーザー マニュアルを参照し てください。

本ガイドに記載されていないオペレーティングシステムはサポートされていません。

インストールするゲストに該当する可能性のある情報については、「VMware 製品す べてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」を参照してください。また、本ガ イドに最近加えられた変更については、「最新の更新情報(P.18)」を参照してください。

最新の更新情報

ヴイエムウェアの Web サイト (http://www.vmware.com/jp/support/pubs) で、『ゲ スト OS インストール ガイド』の最新版を確認してください。表紙にある日付を確認 して、お手元のマニュアルが最新版であることをご確認ください。前回 『ゲスト OS インストールガイド』を公開してから、変更または更新された箇所があります。

 「Oracle Enterprise Linux 4 (P.90)」、「Ubuntu 9.10 (P.170)」、および「FreeBSD 7.2 (P.190)」の手順を新しく追加。

サポート対象のゲストに関する一般的なガイドライン

構成、サポート、およびハードウェアによって、サポート対象のゲスト OS のインストール方法が異なります。

仮想マシンのメモリ設定

仮想マシンにメモリ設定を構成する際は、その仮想マシンで実行するゲスト OS のド キュメントを参考にしてください。VMware 製品のユーザー インターフェイスに、必 要なメモリ容量に関する一般的なガイドラインが表示されます。インターフェイスに 表示される情報が、ご使用のオペレーティングシステムのドキュメントと一致しな い場合は、オペレーティングシステムのドキュメントの情報を優先してください。

GSX Server および VMware Server のサウンド アダプタ

GSX Server または VMware Server の仮想マシンには、サウンド アダプタはデフォルト ではインストールされません。サウンド アダプタを追加するには、オペレーティング システムのインストール後に、仮想マシンの設定エディタ([仮想マシン(VM)]-[設定(Settings)])を使用します。GSX Server または VMware Server にある仮想マシ ンのサウンドの設定については、対応するサーバのドキュメントを参照してくださ い。

ゲスト OS の実行

ゲスト OS の実行とその機能の使用については、各オペレーティングシステムのベンダーが提供するドキュメントを参照してください。

64 ビット Linux ゲストおよび ED (Execute Disable) 機能

EM64T ハードウェアで 64 ビット Linux ゲスト OS を実行する場合は、ホストの BIOS で ED (Execute Disable)機能が有効になっていることを確認してください。これに より、Linux ゲスト OS が中断されることなく確実に実行されます。

VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順

ゲスト OS をインストールする前に、仮想マシンを作成し、仮想マシンのデバイスが 正しく設定されていることを確認します。たとえば、ゲスト OS のインストール時に ネットワーク ソフトウェアをインストールし、仮想マシンにイーサネット アダプタ を構成して有効にします。

仮想マシンの構成に使用するツールまたはインターフェイスは、実行する VMware 製品によって異なります。

新しい仮想マシンは、空のハードディスクを持つ物理コンピュータと考えることが できます。使用するには、まず仮想ディスクのパーティショニングおよびフォーマッ トを実行し、オペレーティングシステムをインストールする必要があります。オペ レーティングシステムのインストールプログラムが、このパーティショニングおよ びフォーマットを実行することがあります。

注意 ホストシステムで稼動しているスクリーン セーバーをオフにしてから、ゲスト OS を インストールしてください。

ゲスト OS は、基本的には物理コンピュータにインストールする場合と同じ手順で仮想マシンにインストールします。

通常のインストール

ー般的なオペレーティングシステムをインストールする基本的な手順は次のとおり です。

- 1 VMware 製品を起動し、仮想マシンに接続します。
- 2 仮想マシンに接続された CD-ROM ドライブまたはディスク ドライブに、ゲスト OS のインストール CD-ROM またはディスクを挿入します。

ESX Server 2.x:該当する仮想マシンを実行しているサーバのドライブに、イン ストール CD-ROM またはディスクを挿入します。管理ワークステーションのド ライブは使用できません。

GSX Server: ゲスト OS にディスクが必要な場合は、該当する仮想マシンを実行 しているサーバのドライブにディスクを挿入します。管理ワークステーションの ディスク ドライブは使用できません。

- 3 [パワーオン (Power On)]ボタンをクリックして仮想マシンをオンにします。
- 4 オペレーティングシステムのベンダーの指示に従います。

物理コンピュータと同様に、オペレーティングシステムでは、実行する仮想マシン ごとに個別のライセンスが必要です。 注意 最近のコンピュータに付属されている Microsoft Windows OEM ディスクには、そのコンピュータ向けにカスタマイズされ、そのハードウェアシステムに固有のデバイスドライバやその他のユーティリティが含まれているものもあります。このようなWindows オペレーティングシステムは、物理コンピュータにはインストールできる場合でも、仮想マシンにインストールできない可能性があります。この場合は、仮想マシンにインストールする別の Windows を購入する必要があります。

ISO によるインストール

物理 CD-ROM から起動する代わりに、インストール CD-ROM から ISO イメージファ イルを作成できます。ISO イメージファイルは、ホスト マシン、またはホストマシン からアクセス可能なネットワーク ドライブに格納できます。VMware 製品の構成ツー ルを使用して、ISO イメージファイルに仮想マシンの CD ドライブを接続してから、 仮想マシンをオンにします。

複数の仮想マシンに同一のオペレーティングシステムをインストールする場合、ISO イメージファイルを使用すると便利です。また、仮想マシンがインストール CD-ROMから起動できないという問題が発生するようなホスト構成の場合、この問題 を回避する方法としても有効です。

PXE によるインストール

PXE サーバからネットワークを介してゲスト OS をインストールする場合は、そのオペレーティング システムのインストール メディアは必要ありません。仮想マシンを オンにすると、仮想マシンが PXE サーバを検出します。

Windows 7

このゲスト OS をインストールする前に、「サポート対象のゲストに関する一般的な ガイドライン(P.18)」とこのセクションに目を通してください。

Windows 7 の各ディストリビューション CD を使用して、仮想マシンに Windows 7 を インストールします。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合 は、PXE サーバからインストールすることもできます。

Windows7をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

- 新規仮想マシンを作成し、構成する。
- 32 ビット ゲストの場合 1GB 以上の RAM、64 ビット ゲストの場合 2GB 以上の RAM が仮想マシンにあることを確認する。
- 32 ビット版の Windows 7 の場合、仮想マシンのハード ドライブは必ず 24GB 以上に設定する。
- 64 ビット版の Windows 7 の場合、仮想マシンのハード ドライブは必ず 32GB 以 上に設定する。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Windows 7 の CD または DVD を挿入します。
- 2 仮想マシンをオンにして、Windows 7 のインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

ゲスト OS に VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナレッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340)を参照してください。

Windows Preinstallation Environment

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに目を通してください。

Windows Preinstallation Environment をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

- 新規仮想マシンを作成し、構成する。
- ゲスト OS の選択で、Windows Vista を選択する。Windows PE は選択できません。
- Windows Server 2008 カーネルから構築した Windows AIK 1.1 (WAIK1.1) ソフト ウェアを、次の Microsoft 社の Web サイトからダウンロードする。

http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=94BB6E34-D890-493 2-81A5-5B50C657DE08&displaylang=en

■ Windows PE 2.1 ISO イメージを作成する。

Windows PE 2.1 ISO イメージを作成するには

- 1 Windows 2008 仮想マシンを作成して、WAIK 1.1 をインストールします。
- 2 [スタート]-[すべてのプログラム]-[Microsoft Windows AlK]-[Windows PE Tools コマンドプロンプト]を選択して、Windows PE Tools コマンドプロンプトを開 きます。
- 3 次のいずれかのコマンドを入力して、x86 または amd64 マシンの Windows PE ビ ルド環境を winpe-x86 フォルダに作成します。

プラットフォーム	コマンド
32 ビット	copype x86 C:¥Winpe-x86
64 ビット	copype amd64 C:¥Winpe-amd64

4 次のコマンドを入力して、Windows PE 2.1 の起動可能な ISO イメージを作成しま す。

oscdimg _n _h _bc:\u00e4winpe_x86\u00e4etfsboot.com c:\u00e4winpe_x86\u00e4iso c:\u00e4winpe_x86\u00e4winpe_x86.iso

インストールの手順

- 1 Windows PE 2.1 の ISO イメージから、仮想マシンを起動します。
- 2 起動プロセスが完了したら、コマンドプロンプトが表示されます。

Windows PEを使用して仮想マシンを準備し、Windows オペレーティングシステムをインストールします。

VMware Tools

Windows Preinstallation Environment をサポートする VMware Tools のバージョンはありません。

Windows Recovery Environment

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに目を通してください。

Windows Recovery Environment に固有の手順については、付属するオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

VMware Tools

Windows Recovery Environment をサポートする VMware Tools のバージョンはありません。

Windows Server 2008

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Windows Server 2008 は、Windows Server 2008 ディストリビューション CD を使用して仮想マシンにインストールできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストールすることもできます。

Windows Server 2008 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

- 新規仮想マシンを作成し、構成する。
- 仮想マシンには必ず 512MB 以上の RAM を使用する。ホスト コンピュータに 512MB 以上の RAM が存在しない場合、次のような設定ができません。
- 32 ビット版の Windows Server 2008 の場合、仮想マシンのハード ドライブは必ず 16GB 以上に設定する。
- 64 ビット版の Windows Server 2008 の場合、仮想マシンのハード ドライブは必ず 24GB 以上に設定する。

Windows Server 2008 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- 32 ビット Windows Server 2008 ゲストのインストール中にインターネット接続が 利用できない場合は、マルチメディアオーディオ コントローラのドライバがイ ンストールされません。Windows デバイスマネージャから、マルチメディア オーディオ コントローラのドライバが不足していることが通知されます。必要 なドライバをインストールするには、インターネット接続を構成し、Windows Server 2008 仮想マシンで Windows Update を実行します。
- Windows 2008 Server の Standard、Datacenter、Enterprise Edition で使用可能な Server Core ロールは、ESX でサポートされています。VMware Tools で明確にサ ポートされているオペレーティングシステムの一部を Server Core が無効にしな いかぎり、VMware Tools は使用できます。Server Core の詳細については、 MSDN (Microsoft Developer Network)の Web サイトを参照してください。 http://msdn.microsoft.com/en-us/library/ms723891(VS.85).aspx

Windows Server 2008 R2 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

- 新規仮想マシンを作成し、構成する。
- 仮想マシンには必ず 512MB 以上の RAM を使用する。ホスト コンピュータに 512MB 以上の RAM が存在しない場合、次のような設定ができません。

 64 ビット版の Windows Server 2008 R2 の場合、仮想マシンのハード ドライブは 必ず 40GB 以上に設定する。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Windows Server 2008 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Windows Server 2008 のインストールを開始しま す。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Windows Vista

このゲストOSをインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Windows Vista は、Windows Vista の各ディストリビューション CD を使用して仮想マシンにインストールできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストールすることもできます。

Windows Vista をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

- 新規仮想マシンを作成し、構成する。
- 仮想マシンには必ず 512MB 以上の RAM を使用する。ホスト コンピュータに 512MB 以上の RAM が存在しない場合、次のような設定ができません。
- 32 ビット版の Windows Vista の場合、仮想マシンのハード ドライブは必ず 16GB 以上に設定する。
- 64 ビット版の Windows Vista の場合、仮想マシンのハード ドライブは必ず 24GB 以上に設定する。

Windows Vista のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 32 ビット Windows Vista ゲストのインストール中にインターネット接続が利用で きない場合は、マルチメディアオーディオ コントローラのドライバがインス トールされません。Windows デバイス マネージャから、マルチメディアオー ディオ コントローラのドライバが不足していることが通知されます。必要なド ライバをインストールするには、インターネット接続を構成し、Windows Vista 仮想マシンで Windows Update を実行します。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Windows Vista CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Windows Vista のインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。 注意 Windows Vista Service Pack (SP1) 仮想マシンに VMware Tools をインストールしたあ と、画面解像度が自動的に 1024 x 768 ピクセルに変更されることはありません。ナ レッジ ベースの記事 1004780 (http://kb.vmware.com/kb/1004780) を参照してくだ さい。

Windows Server 2003

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Windows Server 2003 は、Windows Server 2003 の各ディストリビューション CD を使用して仮想マシンにインストールできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストールすることもできます。

Windows Server 2003 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Windows Server 2003 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- Windows Server 2003 ゲストのインストール中にインターネット接続が利用できない場合は、マルチメディアオーディオコントローラのドライバがインストールされません。Windows デバイスマネージャから、マルチメディアオーディオコントローラのドライバが不足していることが通知されます。必要なドライバをインストールするには、インターネット接続を構成し、Windows Server 2003 仮想マシンで Windows Update を実行します。
- 仮想LSI Logic SCSI アダプタを使用している場合、ゲスト OS のインストール時 に、Windows Server 2003 が自動的に SCSI ドライバをインストールします。仮想 BusLogic SCSI アダプタを使用する場合、専用の SCSI ドライバが必要です。これ は、ヴイエムウェアの Web サイトのダウンロードのセクション (www.vmware.com/jp/download) からダウンロードできます。新規インストー ルした Windows Server 2003 でこのドライバを使用する場合、Web サイトの指示 に従ってください。
- 旧バージョンの Windows がゲスト OS としてインストールされ、SCSI 仮想ディ スクが構成されている仮想マシンを Windows Server 2003 にアップグレードする 場合は、オペレーティングシステムをアップグレードする前に新しい SCSI ドラ イバをインストールします。
- ESX 3.0.2 で Windows Server 2003 Datacenter Edition をサポートするには、e1000 ネットワーク アダプタ ドライバを手動で構成する必要があります。ナレッジ ベースの記事 1003020 (http://kb.vmware.com/kb/1003020)を参照してください。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Windows Server 2003 の CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Windows Server 2003 のインストールを開始しま す。

- 3 ヴイエムウェアの Web サイトからダウンロードした仮想 BusLogic SCSI ドライバ を使用する場合、この時点で特別な作業を行う必要があります。
- 4 Windows Server 2003 インス トーラのロード中に <F6> キーを押します。

これで、インストールに必要な SCSI ドライバを追加で選択できるようになりま す。

- 5 <S> キーを押して追加のドライバを指定します。
- 6 該当する SCSI ドライバを指定したら、<Enter> キーを押してセットアップを続 行します。
- 7 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Windows XP

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Windows XP Home Edition または Professional は、Windows XP の各ディストリビュー ション CD を使用して仮想マシンにインストールできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストールすることもで きます。

Windows XP をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Windows XP のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- ESX、VMware Workstation、VMware ACE、および VMware GSX Server: Windows XP 仮想マシンで仮想 BusLogic SCSI アダプタを使用する場合、専用の SCSI ドライバが必要です。これは、ヴイエムウェアの Web サイトのダウンロー ドのセクション (www.vmware.com/jp/download) からダウンロードできます。 新規インストールした Windows XP でこのドライバを使用する場合、Web サイト の指示に従ってください。
- ESX および GSX Server: Windows XP 仮想マシンで仮想 LSI Logic SCSI アダプタを 使用する場合、LSI Logic 社の Web サイトのダウンロード センターからドライバ をダウンロードします。http://www.lsi.com/cm/DownloadSearch.do?locale=EN から、該当するゲスト OS 向けの LSI20320-R SCSI アダプタ ドライバをダウンロー ドしてください。

LSI Logic 社の Web サイトでは、ドライバのインストールに関するガイドも提供 しています。http://www.lsi.com/を参照し、[Support & Downloads] -[Documentation]を選択します。検索用語として Fusion MPT と入力し、 『Fusion-MPT デバイス管理ユーザー ガイド (Fusion-MPT Device Management User Guide)』を検索します。

- ESX: ESX ソフトウェアに含まれているフロッピーイメージの、仮想 BusLogic SCSI アダプタ用 vmscsi SCSI ドライバを使用することもできます。
- 旧バージョンの Windows がゲスト OS としてインストールされ、SCSI 仮想ディ スクが構成されている仮想マシンを Windows XP にアップグレードする場合は、 オペレーティング システムをアップグレードする前に新しい SCSI ドライバをイ ンストールします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブにインストール CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、ゲスト OS のインストールを開始します。

ヴイエムウェアの Web サイトからダウンロードした仮想 BusLogic SCSI ドライ バ、または LSI Logic 社の Web サイトからダウンロードした LSI Logic SCSI ドライ バを使用する場合、この時点で特別な作業を行う必要があります。

3 Windows XP インストーラのロード中に <F6> キーを押します。

これで、インストールに必要な SCSI ドライバを追加で選択できるようになります。

- 4 <S>キーを押して追加するドライバを指定し、<Enter>キーを押してセットアップを続行します。
- 5 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Windows 2000

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

サポート対象のバージョンの Windows 2000 は、Windows 2000 の各ディストリ ビューション CD を使用して仮想マシンにインストールできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストールするこ ともできます。

Windows 2000 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Windows 2000 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 ESX Server、VirtualCenter、または vCenter Server: 仮想 LSI Logic SCSI アダプタ を使用する場合、LSI Logic 社の Web サイトのダウンロード センターからドライ バをダウンロードする必要があります。 http://www.lsi.com/cm/DownloadSearch.do?locale=EN から、該当するゲスト OS 向けの LSI20320-R SCSI アダプタ ドライバをダウンロードしてください。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Windows 2000 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Windows 2000 のインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

VMware Tools をインストールしたあと、Windows 2000 の画面領域を 640 x 480 ピク セル以上に変更します。この変更を行わないと、Windows 2000 が標準 VGA ドライバ を使用するので、望ましいパフォーマンスが得られません。

Windows NT 4.0

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Windows NT 4.0 (Workstation または Server) は、標準の Windows NT の CD を使用して仮想マシンにインストールできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストールすることもできます。

Windows NT 4.0 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Windows NT 4.0 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- Windows NT 4.0 を実行して複数のディスクを使用する仮想マシンを設定するには、まずディスクが1つだけ設定された仮想マシンを作成する必要があります。 そのディスクに Windows NT をインストールします。次に、ご使用の VMware 製品の構成ツールを使用してディスクを追加します。
- Windows NT 4.0 ゲストに SCSI 仮想ディスクが設定されている場合、構成に SCSI ディスクと IDE ディスクの両方をさらに追加することはできません。
- マルチプロセッサのホスト コンピュータ上で IDE 仮想ディスクを使用して Windows NT 仮想マシンを実行する場合、ディスクの入出力速度が予想よりも遅 くなることがあります。詳細は、GSX Server のドキュメントの「マルチプロ セッサホストでの Windows NT ゲストのディスク パフォーマンス」を参照してく ださい。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Windows NT 4.0 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Windows NT 4.0 のインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。
- 4 仮想ディスクは、パフォーマンスを向上させるために DMA 転送をサポートして います。

この機能は、Windows NT 4.0 をインストールしたあとに有効にすることができ ます。このオプションを有効にするには、NT Service Pack 3 または 4 の CD が必 要です。仮想マシンで Windows NT を実行し、ドライブに SP3 または SP4 の CD を挿入してから、CD の **¥SUPPORT¥UTILS¥I386** フォルダから **DMACHECK.EXE** を 実行します。次に、仮想ディスクに構成されている IDE コントローラ / チャネル の[有効にする (Enabled)]オプションをクリックします (仮想マシンに複数 の仮想ディスクが構成されていないかぎり、通常はチャネル 0 のみです)。 注意 CD-ROM ドライブが構成された IDE チャネルでは、DMA オプションを有効にしないでください。このような構成で DMA を有効にすると、エラーの原因になります。プライマリ IDE コントローラ (チャネル 0) にマスタ / スレーブ方式で仮想ディスクと CD-ROM が接続されている場合、DMA を有効にするには、仮想マシンをパワーオフして、構成エディタを使用してその CD-ROM を IDE 1:0 のセカンダリ IDE コントローラ (チャネル 1) に移動します。次に、Windows NT ゲストの仮想マシンを起動し、DMACHECK を実行してチャネル 0 に対してのみ DMA を有効にします。

SCSI 仮想ディスクでは、DMA は常に有効です。

インストール後の手順

Windows NT 4.0 のインストール後のネットワークの有効化

Windows NT のインストール中にネットワークが無効になっている場合でも、インス トール完了後に有効にすることができます。まず Windows NT をシャットダウンして から仮想マシンをパワーオフします。次に、仮想マシンの構成にネットワーク アダ プタを追加してから、次の手順で Windows NT ゲスト OS にネットワーク ドライバを インストールします。

- 1 仮想マシンをパワーオンします。
- 2 Windows NTの起動中に、CD-ROM ドライブに Windows NT 4.0 の CD を挿入しま す。
- 3 Windows NT にログインし、AMD PCNET ドライバをインストールします。
 - a コントロールパネルの[ネットワーク]アイコンをダブルクリックすると、
 [ネットワークのプロパティ]ページが表示されます。[アダプタ]タブをクリックして、[ネットワークアダプタ]画面に移動してください。
 - b [追加]ボタンをクリックし、一覧から [AMD PCNET Family Ethernet Adapter]
 を選択します。
 - c Windows NT ファイルへのパスの入力を求めるメッセージが表示されます。
 CD 上の ¥i386 フォルダへのパス (たとえば、CD がドライブ D にある場合は D:¥i386)を入力します。次に、[続行]をクリックします。
 - d Windows NT ファイルのパスを再度確認するメッセージが表示されます。 [続行]をクリックします。
 - e デフォルトのアダプタ設定を使用します。設定を変更する必要はありません。Windows NT ファイルのパスを再度確認するメッセージが表示されます。[続行]をクリックしてドライバのインストールを完了します。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

注意 Windows NT 4.0 ゲストで VMware Tools のオンライン ヘルプを表示するには、 Windows NT 4.0 に Internet Explorer 4.0 以降がインストールされている必要がありま す。
Windows Me

このゲストOSをインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Windows Millennium Edition は、標準の Windows Me の CD を使用して仮想マシンに インストールできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場 合は、PXE サーバからインストールすることもできます。

Windows Me をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Windows Me CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Windows Me のインストールを開始します。
- 3 CD-ROM からの起動を選択し、次に [CD-ROM から Windows Me セットアップを 開始]を選択します。セットアッププログラムが FDISK を実行して再起動しま す。
- 4 再度 CD-ROM からの起動を選択し、[CD-ROM から Windows Me セットアップを 開始]を選択します。セットアッププログラムが Windows Me のインストールを 続行します。
- 5 Windows Me の残りのインストール手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Windows 98

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Windows 98 は、標準の Windows 98 の CD を使用して仮想マシンにインストールでき ます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバ からインストールすることもできます。

Windows 98 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

- 1 CD-ROM ドライブに Windows 98 CD を挿入します。
- 注意 一部の Windows 98 パッケージでは、フロッピー ディスクから起動するよう求められます。この場合、フロッピー ディスク ドライブに起動フロッピーを挿入し、 画面の指示に従ってください。インストーラが求めたときに必ず FDISK および FORMAT を実行してください。
 - 2 仮想マシンをパワーオンして、Windows 98 のインストールを開始します。
 - 3 CD-ROM からの起動を選択し、次に [CD-ROM から Windows 98 セットアップを 開始]を選択します。セットアップ プログラムが FDISK を実行して再起動しま す。
 - 4 再度 CD-ROM からの起動を選択し、[CD-ROM から Windows 98 セットアップを 開始]を選択します。セットアッププログラムが Windows 98 のインストールを 続行します。
 - 5 Windows 98 の残りのインストール手順は、物理マシンでインストールを行う場 合と同じです。

インストール後の手順

Windows 98 のインストール後のネットワークの有効化

Windows 98 のインストール中にネットワークが無効になっている場合でも、インス トール完了後に有効にすることができます。仮想マシンにネットワーク環境を設定す るには、仮想マシンをパワーオフして、構成にネットワークアダプタを追加します。 仮想マシンをパワーオンすると、Windows 98 が自動的に AMD PCNET Family Ethernet Adapter (PCI-ISA)を検出し、ドライバをインストールするために Windows 98 CD-ROM を挿入するよう求めます。デフォルトで最適のイーサネット アダプタ設定 が選択されるため、設定を変更する必要はありません。Windows 98 コントロールパ ネルのネットワークアイコンを使用すると、ネットワーク設定を表示したり、変更 したりすることができます。たとえば、Windows 98 は TCP/IP プロトコルをデフォル トではインストールしないため、追加する必要がある場合があります。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Windows 95

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Windows 95 は、標準の Windows 95 起動フロッピーおよび CD-ROM を使用して仮想 マシンにインストールできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされ ている場合は、PXE サーバからインストールすることもできます。

Windows 95 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Windows 95 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- この場合、Windows 95 のセットアップを実行する前に、仮想ハードディスクド ライブに対して FDISK および FORMAT を行う必要がありますので注意してください。一部の Windows 95 ディストリビューションでは、C:ドライブで FDISK および FORMAT が実行されません。
- ここで説明するインストール手順は、仮想 IDE ハードドライブ1個と仮想 IDE CD-ROMドライブ1個を使用する最もシンプルな構成を対象としています。複数の IDE ハードドライブを使用する仮想マシンを構成した場合は、それらのドライ ブでも FDISK および FORMAT を実行してから Windows 95 をインストールする必 要があります。複数の仮想ハードドライブまたは複数の仮想 CD-ROM を使用す る仮想マシンを構成した場合は、後述の手順とは異なるドライブレターを使用 する必要がある場合があります。

インストールの手順

- 1 仮想マシンが使用するフロッピー ドライブ A: に Windows 95 CD-ROM セット アップ起動ディスクを、CD-ROM ドライブに Windows 95 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Windows 95 のインストールを開始します。
- 3 仮想マシンの起動後に CD-ROM ドライバの選択を求められたら、一覧から最初の IDE ドライバを選択します (コンピュータが SCSI CD-ROM ドライブを使用している場合も同様に行う)。
- 4 次のコマンドで仮想ディスクのパーティショニングを行います。

A:¥> FDISK

質問に答えます。

- **注意** 作成したプライマリパーティションのサイズが仮想ディスクよりも小さい場合 は、そのパーティションに [有効] という印が付けられていることを確認してく ださい。
 - 5 Windows 95 を再起動します。マウスのカーソルが仮想マシンのウィンドウ内に 表示されていない場合は、仮想マシンの画面をクリックしてから、Windowsホ ストの場合は <Ctrl> + <Alt> + <Ins> キーを押し、Linuxホストの場合は <Ctrl> + <Alt> + キーを押します。再起動時に CD-ROM ドライバの選択を求められ た場合は、一覧から最初の IDE CD-ROM ドライバを選択します。
 - 6 C: ドライブをフォーマットします。

A:¥> FORMAT C: /S

7 次のコマンドで Windows 95 のインストールを開始します。

A:¥> D:¥WIN95¥SETUP /IS

仮想マシンに Windows 95 をインストールしているときに、インストールが中断 されることがあります。これは、Windows 95 セットアップ プログラムの開始直 後にスキャンディスクが完了し、Windows 95 セットアップ プログラムのグラ フィック ユーザーインターフェイスが起動する際に、仮想マシンが MS-DOS プ ロンプトに戻ってしまうためです。この場合、仮想マシンを再起動して Windows 95 セットアップを再実行することをお勧めします。このとき、ドライ ブに対して FDISK および FORMAT を再度実行する必要はありません。この問題が 繰り返し発生する場合は、ヴイエムウェア テクニカル サポートまでご連絡くだ さい。

- 8 仮想マシンのイーサネット アダプタが有効になっている場合は、イーサネット ドライバを手動で追加します。Windows 95 は、コンピュータの分析段階でイー サネットドライバを検出しません(ネットワークアダプタ検出オプションを選 択している場合も同様)。次の手順でネットワークを有効にします。
 - a Windows 95 のインストールを続行します。[Windows 95 セットアップウィ ザード/セットアップオプション] 画面が表示されたら、デフォルト設定を [標準]から[カスタム]に変更し、[次へ]をクリックして処理を続行しま す。
 - b コンピュータの分析段階のあとに表示される[ネットワーク構成]画面で、 [追加]をクリックして[アダプタコンポーネント]を選択します。次に、製造元のウィンドウから [Advanced Micro Devices]を、ネットワークアダプタのウィンドウから [AMD PCNET Family Ethernet Adapter (PCI&ISA)]を選択します。

c TCP/IP ネットワークが必要な場合は、[ネットワーク構成]画面から追加し ます(Windows 95 セットアップのデフォルト構成では TCP/IP は有効になり ません)。この作業を行わないと、Windows 95 のインストールの初期段階 で、あとで必要になるファイルの一部がコピーされず、インストールが完全 に実行されません。

また、Microsoft NetBEUI プロトコルがインストールされているかを必ず確認して ください。Microsoft NetBEUI プロトコルは、デフォルトではインストールされな い場合があります。

- 9 Windows 95 のインストールを完了します。
- 10 VMware 仮想ディスクは、パフォーマンスを向上させるために DMA 転送をサ ポートしています。この機能は、Windows 95 が仮想 IDE ディスクにインストー ルされたあとに、次の手順で有効にすることができます。
 - a [マイコンピュータ]を右クリックし、[プロパティ]を選択します。
 - b [システムのプロパティ]ダイアログボックスの[デバイスマネージャ]タ ブをクリックします。
 - c [ディスク ドライブ]のデバイスのカテゴリをダブルクリックします。
 - d [GENERIC IDE DISK TYPE01] デバイスをダブルクリックします。
 - e [設定]タブをクリックして、[DMA] チェック ボックスを選択します。

インストール後の手順

Windows 95 のインストール後のネットワークの有効化

Windows 95 のインストール中にネットワークが無効になっている場合でも、インス トール完了後に有効にすることができます。まず Windows 95 をシャットダウンして から仮想マシンをパワーオフします。次に、仮想マシンの構成にネットワーク アダ プタを追加してから、次の手順で Windows 95 ゲスト OS にネットワーク ドライバを インストールします。

- 1 仮想マシンをパワーオンします。
- 2 起動後、Windows 95 が自動的に AMD PCNET Family Ethernet Adapter (PCI&ISA) を検出し、ドライバをインストールするために Windows 95 CD-ROM を挿入する よう求めます。デフォルトで最適のイーサネット アダプタ設定が選択されるた め、設定を変更する必要はありません。
- 3 コントロールパネルのネットワークアイコンをダブルクリックすると、ネット ワーク設定を表示したり、変更したりすることができます。たとえば、 Windows 95 は TCP/IP プロトコルをデフォルトではインストールしないため、追 加する必要がある場合があります。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

MS-DOS 6.22 および Windows 3.1x

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

MS-DOS 6.22 および Windows 3.1.x をインストールするには、次の要件を満たす必要 があります。

- 新しく構成した仮想マシン。
- フルバージョンの Microsoft MS-DOS 6.22 インストールディスク。
- 標準の Windows 3.1x インストール ディスク。
- CD-ROM ドライバ。デフォルトで、OAKCDROM.sys ドライバが MS-DOS 起動ディ スクに提供されます。たとえば AOATAPI.SYS など、その他の利用可能なドライ バを使用することもできます。または、Web からドライバをダウンロードする こともできます。これらのドライバは、通常、C:¥CONFIG.SYS および C:¥AUTOEXEC.BAT マシン ファイルに一連のエントリを作成することにより、シ ステム起動時にロードされます。

MS-DOS 6.22 および Windows 3.1x のインストール

MS-DOS 6.22 は、Microsoft 社のフルバージョンの MS-DOS 6.22 インストール ディス クを使用して仮想マシンにインストールできます。アップグレード用のディスクを使 用する場合は、アップグレードを行う前に旧バージョンの MS-DOS 6.22 をインストー ルする必要があります。

注意 HIMEM.SYS ファイルは MS-DOS と同梱です。これは MSCDEX.EXE の上位メモリを有効 にします。

VMware Workstation、VMware ACE、および GSX Server 仮想マシンは、Windows 3.11 (または Windows for Workgroups)のネットワーク機能をサポートしています。イン ストール後に、ネットワーク オプションで [Advanced Micro Devices PCNET Family (NDIS2/NDIS3)]イーサネット ドライバを選択します。

次の記事では、DOS 6.22 および Win 3.1x 環境でのネットワークの構成に関する情報 が提供されています。

- 仮想マシンでの DOS Network ドライバのロード: http://communities.vmware.com/message/109168
- VMware Workstation ネットワーク起動ディスクの作成: http://communities.vmware.com/message/38060

MS-DOS 6.22 をインストールするには

- 1 ディスク ドライブに MS-DOS ディスクを挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、MS-DOSのインストールを開始します。
- 3 インストールが完了したら、ゲストを再起動します。 コマンドプロンプトが表示されます。

MS-DOS のインストールを完了するには

1 起動デバイスのルートディレクトリに、次のファイルがインストールされてい ることを確認します。

C:¥のMSCDEX.EXE、AUTOEXEC.BAT、および CONFIG.SYS ファイル

- 2 ディスクに OAKCDROM. SYS CD-ROM ドライバファイルをコピーします。
- ドライバファイルがあるディスクをディスクドライブに挿入し、[仮想マシン (VM)]-[設定 (Settings)]メニューからディスクをゲストに接続します。
- 4 コマンドプロンプトで、ドライブAのファイルをドライブCにコピーします。A:¥OAKCDROM.SYS C:DOS¥
- 5 MS-DOS AUTOEXEC.BAT ファイルを開いて編集します。次の行を追加します。

LH C:¥DOS¥MSCDEX.EXE /D:mscd001 /l:D

- 6 ファイルを保存して終了します。
- 7 CONFIG.SYS ファイルを開いて編集します。次の行を追加します。

DEVICE=C:¥DOS¥HIMEM.SYS DEVICEHIGH=C:¥DOS¥oakcdrom.sys /D:mscd001 LAST DRIVE=Z

- 8 ファイルを保存して終了します。
- 9 MS-DOS 6.22 仮想マシンを再起動します。

インストールで AUTOEXEC.BAT および CONFIG.SYS ファイルが構成されると、 CD-ROM ドライバがゲストに表示されます。

Windows 3.1x をインストールするには

- 標準の Windows 3.1x インストール ディスクをディスク ドライブに挿入し、[仮 想マシン (VM)]-[設定 (Settings)]メニューからディスクをゲストに接続し ます。
- 2 SETUP プログラムを実行し、プロンプトに従ってインストールを完了します。

3 インストールが完了したら、ゲストを再起動します。

MS-DOS 6.22 および Windows 3.1.x のインストール後の考慮事項

MS-DOS 6.22 のインストールが完了したら、仮想マシンに CPU アイドル プログラム をインストールすることをお勧めします。ほとんどのバージョンの MS-DOS 6.22 は、 アイドル状態のときも CPU を使用します。そのため、仮想マシンで MS-DOS 6.22 を 実行すると、MS-DOS 6.22 がアイドル状態のときも仮想マシンがホストの CPU 時間を 消費します。VMware 製品では、仮想マシンがアイドル状態になったときに、ゲスト OS が Halt 命令または APM を使用して仮想マシンのスケジュールを変更するものと想 定されています。

断続的に発生する不安定なマウスの動作を回避するために、フル スクリーン モード で Windows 3.1x を実行します。

VMware Tools

MS-DOS 6.22 や Windows 3.1x ゲスト OS 向けの VMware Tools パッケージはありません。そのため、Windows 3.1x のグラフィックスは VGA モードに限定されます。また、 MS-DOS 6.22 または Windows 3.1x の仮想マシンからマウスを解放するには、常に <Ctrl> + <Alt> キーの組み合わせを使用する必要があります。

Asianux Server 3.0

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Asianux Server 3.0 は、標準の Asianux ディストリビューション CD を使用して仮想マ シンにインストールするのが最も簡単な方法です。Asianux 3.0 は、起動フロッピー またはネットワークを使用してインストールすることもできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストールするこ ともできます。

Asianux Server 3.0 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Asianux Server 3.0 CD-ROM を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Asianux Server 3.0 のインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 [Package Group Selection] 画面では、[Software Development] を選択してから 個々のパッケージを選択します。[Individual Package Selection] 画面ではカーソル キーを使用して [System Environment/Kernel] まで下方向に移動し、<Enter> キー を押します。[kernel-smp] の選択が解除されていることを必ず確認してください (角括弧の中にアスタリスクが表示されないようにする)。SMP カーネルは、仮 想マシンではサポートされていません。ほかの選択を変更する必要はありませ ん。
- 5 [Automatic Partitioning] 画面で、ディスクの自動パーティショニングを許可します。Asianuxのデフォルトを使用しない場合は、手動で仮想ディスクのパーティショニングを行うこともできます。

「The partition table on device <デバイス名 > was unreadable. To create new partitions it must be initialized, causing the loss of ALL DATA on the drive.」で始まる警告が表示されることがあります。この警告が表示されても、物理コンピュータのハードドライブに問題が発生しているわけではありません。仮想マシンの仮想ハードドライブに対してパーティショニングおよびフォーマットを行う必要があると警告しているだけです。

6 [Yes] をクリックしてドライブのパーティショニングを行います。

7 使用中のコンピュータが DHCP に対応した LAN に接続されている場合は、 [Network Configuration] 画面から [Use bootp/dhcp] オプションを選択することが できます。また、ネットワーク パラメータを手動で設定することもできます。

これでゲスト OS としての Asianux Server 3.0 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

VMware Tools をインストールするまでは、ゲスト OS で X サーバを起動しないでくだ さい。

CentOS 5.0

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

CentOS 5.0 は、標準の CentOS ディストリビューション CD を使用して仮想マシンに インストールするのが最も簡単な方法です。CentOS 5.0 は、起動フロッピーまたは ネットワークを使用してインストールすることもできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストールすることもで きます。

CentOS 5.0 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

CentOS 5.0 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- 仮想マシンの作成時に、ゲスト OS として Red Hat Enterprise Linux 5 または 64
 ビットの Red Hat Enterprise Linux 5 を選択します。CentOS 5 はオプションとして 表示されません。
- 512MB 以上のメモリを持つ仮想マシンを構成します。仮想マシンのメモリが 512MB よりも少ないと、CentOS 5.0 が、一部の VMware ドライバのロード中に エラーメッセージを表示します。
- LSI Logic SCSI アダプタを使用します。CentOS 5.0 には、BusLogic SCSI アダプタのドライバが含まれていません。
- XFree86 3.x X サーバを稼動する Linux ホストでは、ゲスト OS でスクリーン セー バーを実行しないでください。ゲストでスクリーン セーバーを使用すると、大 量の処理能力が必要なため、ホストの X サーバがフリーズする可能性がありま す。

- 1 CD-ROM ドライブに CentOS 5.0 CD-ROM を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、CentOS 5.0 のインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 インストール時に [Virtualization Option] を選択しないでください。詳細は、ナ レッジベースの記事 9134325 (http://kb.vmware.com/kb/9134325) を参照して ください。

5 [Automatic Partitioning] 画面で、ディスクの自動パーティショニングを許可します。CentOSのデフォルトを使用しない場合は、手動で仮想ディスクのパーティショニングを行うこともできます。

「The partition table on device <デバイス名> was unreadable. To create new partitions it must be initialized, causing the loss of ALL DATA on the drive.」で始まる警告が表示されることがあります。この警告が表示されても、物理コンピュータのハードドライブに問題が発生しているわけではありません。仮想マシンの仮想ハードドライブに対してパーティショニングおよびフォーマットを行う必要があると警告しているだけです。

6 [Yes] をクリックしてドライブのパーティショニングを行います。

これでゲスト OS としての CentOS 5.0 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

VMware Tools をインストールするまでは、ゲスト OS で X サーバを起動しないでくだ さい。

CentOS 4.0

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

CentOS 4.0 は、標準の CentOS ディストリビューション CD を使用して仮想マシンに インストールするのが最も簡単な方法です。CentOS 4.0 は、起動フロッピーまたは ネットワークを使用してインストールすることもできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストールすることもで きます。

CentOS 4.0 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

CentOS 4.0 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- ゲスト OS に Red Hat Enterprise Linux 4 または 64 ビットの Red Hat Enterprise Linux 4 を選択します。CentOS 4 はオプションとして表示されません。
- 512MB以上のメモリを持つ仮想マシンを構成します。仮想マシンのメモリが 512MBよりも少ないと、CentOS 4.0 が、一部の VMware ドライバのロード中に エラーメッセージを表示します。
- LSI Logic SCSI アダプタを選択します。CentOS 4.0 には、BusLogic SCSI アダプタのドライバが含まれていません。

- 1 CD-ROM ドライブに CentOS 4.0 CD-ROM を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、CentOS 4.0 のインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 インストール時に [Virtualization Option] を選択しないでください。詳細は、ナ レッジベースの記事 9134325 (http://kb.vmware.com/kb/9134325) を参照して ください。

5 [Automatic Partitioning] 画面で、ディスクの自動パーティショニングを許可します。CentOSのデフォルトを使用しない場合は、手動で仮想ディスクのパーティショニングを行うこともできます。

「The partition table on device <デバイス名> was unreadable. To create new partitions it must be initialized, causing the loss of ALL DATA on the drive.」で始まる警告が表示されることがあります。この警告が表示されても、物理コンピュータのハードドライブに問題が発生しているわけではありません。仮想マシンの仮想ハードドライブに対してパーティショニングおよびフォーマットを行う必要があると警告しているだけです。

6 [Yes] をクリックしてドライブのパーティショニングを行います。

これでゲスト OS としての CentOS 4.0 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

VMware Tools をインストールするまでは、ゲスト OS で X サーバを起動しないでくだ さい。

Debian 5.0

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Debian 5.0 は、標準の Debian 5.0 ディストリビューション CD を使用して仮想マシン にインストールするのが最も簡単な方法です。

Debian 5.0 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Debian 5.0 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Debian 5.0 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Debian 5.0 のインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。
- 注意 インストール中に、メッセージ「Configuring apt/ Scanning the mirror」が表示されます。これは、ネットワークのスキャン中であることを示します。使用環境で HTTP プロキシを使用していると、このメッセージが 10 分以上表示されることがあり ます。これは、インストールが遅延していることを意味します。しばらくそのままに しておくと、ネットワークのスキャンが終了し、インストールがレジュームされま す。インストールが完了したら、Debian 5.0 ユーザーインターフェイスから、 [System] - [Preferences] - [Network Proxy] を選択し、[Network Proxy Preferences] ダイア ログ ボックスで HTTP プロキシを設定します。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

注意 Debian 5.0 の場合、tar インストーラを使用して VMware Tools をインストールします。

Debian 4.0

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Debian 4.0 は、標準の Debian 4.0 ディストリビューション CD を使用して仮想マシン にインストールするのが最も簡単な方法です。

Debian 4.0 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Debian 4.0 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Debian 4.0 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Debian 4.0 のインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。
- 注意 インストール中に、メッセージ「Configuring apt/ Scanning the mirror」が表示されます。これは、ネットワークのスキャン中であることを示します。使用環境で HTTP プロキシを使用していると、このメッセージが 10 分以上表示されることがあり ます。これは、インストールが遅延していることを意味します。しばらくそのままに しておくと、ネットワークのスキャンが終了し、インストールがレジュームされま す。インストールが完了したら、Debian 4.0 ユーザーインターフェイスから、 [System] - [Preferences] - [Network Proxy] を選択し、[Network Proxy Preferences] ダイア ログ ボックスで HTTP プロキシを設定します。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

注意 Debian 4.0 の場合、tar インストーラを使用して VMware Tools をインストールします。

IBM OS/2 Warp 4.5.2

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

IBM OS/2 Warp 4.5.2 は、標準のディストリビューション CD を使用して仮想マシンに インストールするのが最も簡単な方法です。

OS/2 Warp 4.5.2 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

- 仮想マシンを作成し、構成する。
- OS の swap に 120MB 以上の領域を設定する。
- インストールで、OS/2 Warp 4.5.2 起動ディスク CD および OS/2 Warp 4.5.2 インス トール CD の両方を使用できるようにする。

IBM OS/2 Warp 4.5.2 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- 追加のディスクは 528MB 以下にする必要があります。
- 仮想ディスクは、仮想マシンですでに使用されているいずれかのものと同じ種類にする必要があります。たとえば、IBM OS/2 Warp ゲストが BusLogic ディスクにインストールされている場合、追加ディスクも BusLogic ディスクにします。LSILogic と IDE についても同様です。

インストールの手順

- 1 CD ドライブに OS/2 Warp 4.5.2 起動ディスクを挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、IBM OS/2 Warp 4.5.2 のインストールを開始しま す。
- 3 BIOS 設定の [Boot from CDROM Drive] が有効になっていることを確認します。
- 4 起動ディスク CD から必要なドライバをインストールしたあと、CD ドライブに OS/2 Warp 4.5.2 インストール CD を挿入します。
- 5 <F3> キーを押してコマンド ライン インターフェイスを使用し、ハード ドライ ブをパーティショニングします。

または、<Enter> キーを押して GUI モードを選択します。

- 6 FDISK ユーティリティを使用してハード ディスク ドライブをパーティショニン グします。ゲストのインストール先に適切な起動ボリュームを作成し、FDSIK 設 定を保存します。
- 7 CD ドライブに OS/2 Warp 4.5.2 起動ディスクを再挿入し、ゲストを再起動しま す。

8 初期起動が完了したら、CD ドライブに OS/2 Warp 4.5.2 インストール CD を挿入 します。

画面に起動ボリュームが表示されます。

- 9 ゲストのインストールに適したボリュームを選択します。
- 10 ファイルアロケーションテーブル (FAT) ファイルシステムまたは高性能ファイ ルシステム (HPFS)を使用して、ファイルシステムをフォーマットします。
- 11 コンポーネント、ユーティリティ、およびその他のリソースを選択して、インストールを続行します。
- 12 インストールが完了したら、ゲストを再起動します。

起動ディスクの作成

稼働中の OS/2 Warp 4.5.2 ゲストで、CDINST ユーティリティを使用して、32 ビット OS/2 Warp 4.5.2 インストール CD から起動ディスクを作成します。

- 1 32 ビット OS/2 Warp 4.5.2 がインストールされているシステムをパワーオンします。
- 2 CD ドライブに 32 ビット OS/2 Warp 4.5.2 インストール CD を挿入します。
- 3 root ディレクトリにある CDINST ユーティリティをダブル クリックします。
- 空のディスクを1つずつ挿入します。
 これで、32ビット OS/2 Warp 4.5.2 用の起動可能なディスクが作成されます。

VMware Tools

IBM OS/2 Warp 4.5.2 をサポートする VMware Tools のバージョンはありません。

IBM OS/2 Warp 4.0

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

IBM OS/2 Warp 4.0 は、標準のディストリビューション CD を使用して仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。

OS/2 Warp 4.0 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

- 新規仮想マシンを作成し、構成する。
- OSの swap に 120MB の領域を作成する。
- インストールで、OS/2 Warp 4.0 起動ディスク CD および OS/2 Warp 4.0 インス トール CD の両方を使用できるようにする。

IBM OS/2 Warp 4.0 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- 追加ディスクのサイズは 528MB 以下にする必要があります。
- 仮想ディスクは、仮想マシンですでに使用されているいずれかのものと同じ種類 にする必要があります。たとえば、IBM OS/2 Warp ゲストが BusLogic ディスクに インストールされている場合、追加ディスクも BusLogic ディスクにします。LSI Logic と IDE についても同様です。

インストールの手順

- 1 ディスク ドライブに OS/2 Warp 4.0 インストール ディスクを挿入します。
- 2 BIOS 設定で、[Boot from Removable Devices-Legacy Floppy Drives] が有効になっていることを確認します。
- 3 プロンプトが表示されたら、2番目および3番目のインストールディスクを挿入 します。
- 4 3番目のディスクから必要なドライバをインストールしたあと、CDドライブに OS/2 Warp 4.0 インストール CD を挿入します。
- 5 起動ディスク CD から必要なドライバをインストールしたあと、CD ドライブに OS/2 Warp 4.0 インストール CD を挿入します。
- 6 <F3> キーを押してコマンド ライン インターフェイスを使用し、ハード ドライ ブをパーティショニングします。

または、<Enter> キーを押して GUI モードを選択します。

- 7 FDISK ユーティリティを使用してハード ディスク ドライブをパーティショニン グします。ゲストのインストール先に適切な起動ボリュームを作成し、FDSIK 設 定を保存します。
- 8 CD ドライブに 1 番目の OS/2 Warp 4.0 インストール ディスクを再挿入し、ゲストを再起動します。
- 9 初期起動中に、2番目および3番目のインストールディスクを再挿入します。
- 10 初期起動が完了したら、CD ドライブに OS/2 Warp 4.0 インストール CD を挿入し ます。

画面に起動ボリュームが表示されます。

- 11 ゲストのインストールに適したボリュームを選択します。
- 12 ファイルアロケーションテーブル (FAT) ファイルシステムまたは高性能ファイ ルシステム (HPFS)を使用して、ファイルシステムをフォーマットします。
- 13 コンポーネント、ユーティリティ、およびその他のリソースを選択して、インス トールを続行します。
- 14 インストールが完了したら、ゲストを再起動します。

起動ディスクの作成

稼働中の OS/2 Warp 4.0 ゲストで、CDINST ユーティリティを使用して、32 ビット OS/2 Warp 4.0 インストール CD から起動ディスクを作成します。

- 1 32 ビット OS/2 Warp 4.0 がインストールされているシステムをパワーオンしま す。
- 2 CD ドライブに 32 ビット OS/2 Warp 4.0 インストール CD を挿入します。
- 3 root ディレクトリにある CDINST ユーティリティをダブル クリックします。
- 4 3枚の空のディスクを1枚ずつ挿入します。

これで、32ビット OS/2 Warp 4.0 用の起動可能なディスクが作成されます。

VMware Tools

IBM OS/2 Warp 4.0 をサポートする VMware Tools のバージョンはありません。

Mac OS X Server 10.5

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Mac OS X Server 10.5 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

- 仮想マシンを作成する前に、オペレーティングシステムと、仮想マシンでのインストールに必要な製品キーを取得する。
- VMware Fusion は、作成した仮想マシンにインストールするオペレーティングシ ステムには付属していない。
- 仮想マシンを作成し、構成する。

Mac OS X Server 10.5 のサポートに関する次の問題について検討してください。

 オペレーティングシステムをインストールしたあと、Mac OS X ディスク ユー ティリティを使用してディスク パーティションのサイズを拡張します。仮想マ シンの作成時にディスク パーティションのサイズを拡張すると、追加領域にア クセスできなくなります。

インストールの手順

1 [Virtual Machine Library] ウィンドウから [New] ボタン、または [File] - [New] を選 択します。

[New Virtual Machine Assistant] が起動します。

[Introduction] パネルでは、使用している媒体(オペレーティングシステムのインストール CD、オペレーティングシステムのインストール ディスクイメージファイル(ISO)、既存の仮想ディスク)によって行うことが異なります。

オプション	説明
オペレーティング シ ステムのインストー ル ディスク	Mac にディスクを挿入します。VMware Fusion がディスクを検出し、 インストールするオペレーティングシステムであるかどうかの確認 が求められます。正しいオペレーティングシステムである場合、 [Install this operating system] が選択されていることを確認して [Continue] をクリックします。 正しいオペレーティングシステムではない場合、[Install a different operating system] を選択して [Continue] をクリックします。
オペレーティング シ ステムのインストー ルディスクイメージ ファイル	[Continue without disk] をクリックします。
既存の仮想ディスク	[Continue without disk] をクリックします。

3 [Installation Media] パネルで、次の4つのうちいずれかのオプションを選択しま す。

オプション	説明
Use operating system installation disk	ポップアップ メニューを使用して、オペレーティング システムのイ ンストール ディスクを選択します。
Use operating system installation disk image file	ポップアップメニューを使用して、オペレーティングシステムの .iso ファイルを参照します。[Choose to identify the file] をクリックし ます。
Use an existing virtual disk	既存の仮想ディスクを使用する場合はこのオプションを選択します。 ポップアップメニューを使用して、既存の仮想ディスク(.vmdk) ファイルを参照します。[Choose]をクリックして、ファイルを指定 します。
Create a custom virtual machine	カスタム仮想マシンを作成する場合、このオプションを選択します。 たとえば、フロッピー イメージから古いバージョンのオペレーティ ング システムをインストールしている場合に使用します。

- 4 [Continue] をクリックして [Operating System] パネルに移動します。
- 5 [Operating System] パネルで、新しい仮想マシンのオペレーティングシステムと バージョンが正しいことを確認するか、ポップアップメニューから正しいもの を選択します。[Continue] をクリックします。
- 6 [Finish] パネルで、次の処理を行います。

オプション	説明
[Finish] パネルに表示	[Finish] をクリックします。
された仕様に従って	仮想マシンを保存するフォルダを指定したら(デフォルトでは
仮想マシンを作成す	<ユーザー >/Documents/Virtual Machines フォルダ)、[Save] をク
る	リックして仮想マシンを起動します。
仮想マシンのディス	[Customize Settings] をクリックします。新しい仮想マシンを保存します。
ク サイズやその他の	新しい仮想マシンを保存すると、Fusion によって [Settings] ウィンドウが表示されます。ここで、仮想マシンのディスクサイズ、プロセッサの使用率、取り外し可能デバイスなどを変更できます。
標準設定を変更する	[Settings] ウィンドウを閉じると、VMware Fusion が仮想マシンを起動します。

これで、仮想マシンの基本的な設定が完了します。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Mandriva Corporate Desktop 4

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Mandriva Corporate Desktop 4 は、標準の Mandriva Linux ディストリビューション CD を使用して仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。Mandriva Corporate Desktop 4 は、起動フロッピまたはネットワークを使用してインストール することもできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合 は、PXE サーバからインストールすることもできます。

Mandriva Corporate Desktop 4 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Mandriva Corporate Desktop 4 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討 してください。

- Mandriva Corporate Desktop 4のインストール中に、XFree86のXサーバを選択 するよう求められます。いずれを選択しても問題ありませんが、選択したXサー バは実行しないでください。代わりに、Mandriva Corporate Desktop 4のインス トール完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。これ で、仮想マシン内でアクセラレータ機能付き SVGA Xサーバを実行できます。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。
- XFree86 3.x X サーバを稼動する Linux ホストでは、ゲスト OS でのスクリーン セーバーの使用は避けてください。ゲストでスクリーン セーバーを使用すると、 大量の処理能力が必要なため、ホストの X サーバがフリーズする可能性がありま す。

- 1 CD-ROM ドライブに Mandriva Corporate Desktop 4 CD を挿入します。
- 仮想マシンをパワーオンして、Mandriva Corporate Desktop 4 のインストールを 開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 テキストモードのインストーラを使用します。オプションを選択するには起動 画面で <F1> キーを押します。次に、text と入力してテキストモードを選択し ます。

- 5 特殊な要件がないかぎり、パーティショニング時に、Mandriva Linux が自動的に 領域を割り当てるようにしても問題ありません。[Use free space] を選択します。
- 6 [Summary] 画面では、グラフィカル インターフェイスを構成します。

[Graphical Interface] を選択してから [Do] をクリックし、次のように選択します。

- ゲストで使用する解像度およびリフレッシュレート
- [VMware virtual video card]
- パッケージにアップデートをインストールするかどうかについては、[No] を選択
- 再起動時に X を起動させるかどうかについては、[No] を選択

これでゲスト OS としての Mandriva Corporate Desktop 4 の基本インストールが完了 です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340)を参照してください。

Mandriva Corporate Server 4

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Mandriva Corporate Server 4 は、標準の Mandriva Linux ディストリビューション CD を使用して仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。Mandriva Corporate Server 4 は、起動フロッピーまたはネットワークを使用してインストール することもできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合 は、PXE サーバからインストールすることもできます。

Mandriva Corporate Server 4 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Mandriva Corporate Server 4 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- Mandriva Corporate Server 4 のインストール中に、XFree86 の X サーバを選択す るよう求められます。いずれを選択しても問題ありませんが、選択した X サーバ は実行しないでください。代わりに、Mandriva Corporate Server 4 のインストー ル完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。これで、 仮想マシン内でアクセラレータ機能付き SVGA X サーバを実行できます。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。
- XFree86 3.x X サーバを稼動する Linux ホストでは、ゲスト OS でのスクリーン セーバーの使用は避けてください。ゲストでスクリーン セーバーを使用すると、 大量の処理能力が必要なため、ホストの X サーバがフリーズする可能性がありま す。

- 1 CD-ROM ドライブに Mandriva Corporate Server 4 CD を挿入します。
- 仮想マシンをパワーオンして、Mandriva Corporate Server 4 のインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 テキストモードのインストーラを使用します。オプションを選択するには起動 画面で <F1> キーを押します。次に、text と入力してテキストモードを選択し ます。

- 5 特殊な要件がないかぎり、パーティショニング時に、Mandriva Linux が自動的に 領域を割り当てるようにしても問題ありません。[Use free space] を選択します。
- 6 [Summary] 画面では、グラフィカル インターフェイスを構成します。

[Graphical Interface] を選択してから [Do] をクリックし、次のように選択します。

- ゲストで使用する解像度およびリフレッシュレート
- [VMware virtual video card]
- パッケージにアップデートをインストールするかどうかについては、[No] を選択
- 再起動時に X を起動させるかどうかについては、[No] を選択

これでゲスト OS としての Mandriva Corporate Server 4 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340)を参照してください。

Mandriva Linux 2008

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Mandriva Linux 2008 は、標準の Mandriva Linux ディストリビューション CD を使用し て仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディス トリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フ ロッピーまたはネットワークから Mandriva Linux 2008 をインストールすることもで きます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サー バからインストールすることもできます。

Mandriva Linux 2008 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Mandriva Linux 2008 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- Mandriva Linux 2008 のインストール中に、XFree86 の X サーバを選択するよう求められます。いずれを選択しても問題ありませんが、選択した X サーバは実行しないでください。代わりに、Mandriva Linux 2008 のインストール完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。これで、仮想マシン内でアクセラレータ機能付 SVGA X サーバを実行できます。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

- 1 CD-ROM ドライブに Mandriva Linux 2008 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Mandriva Linux 2008 のインストールを開始しま す。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 テキストモードのインストーラを使用します。オプションを選択するには起動 画面で <F1> キーを押します。次に、text と入力してテキストモードを選択し ます。
- 5 特殊な要件がないかぎり、パーティショニング時に、Mandriva Linux が自動的に 領域を割り当てるようにしても問題ありません。[Use free space] を選択します。

- 6 [Summary] 画面では、グラフィカルインターフェイスを構成します。[Graphical Interface] を選択してから [Do] をクリックし、次のように選択します。
 - ゲストで使用する解像度およびリフレッシュレート
 - [VMware virtual video card]
 - パッケージにアップデートをインストールするかどうかについては、[No] を選択
 - 再起動時に X を起動させるかどうかについては、[No] を選択

これでゲスト OS としての Mandriva Linux 2008の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Mandriva Linux 2007

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Mandriva Linux 2007 は、標準の Mandriva Linux ディストリビューション CD を使用し て仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディス トリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フ ロッピーまたはネットワークから Mandriva Linux 2007 をインストールすることもで きます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サー バからインストールすることもできます。

Mandriva Linux 2007 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Mandriva Linux 2007 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- Mandriva Linux 2007 のインストール中に、XFree86 の X サーバを選択するよう求められます。いずれを選択しても問題ありませんが、選択した X サーバは実行しないでください。代わりに、Mandriva Linux 2007 のインストール完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。これで、仮想マシン内でアクセラレータ機能付 SVGA X サーバを実行できます。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

- 1 CD-ROM ドライブに Mandriva Linux 2007 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Mandriva Linux 2007 のインストールを開始しま す。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 テキストモードのインストーラを使用します。オプションを選択するには起動 画面で <F1> キーを押します。次に、text と入力してテキストモードを選択し ます。
- 5 特殊な要件がないかぎり、パーティショニング時に、Mandriva Linux が自動的に 領域を割り当てるようにしても問題ありません。[Use free space] を選択します。

- 6 [Summary] 画面では、グラフィカルインターフェイスを構成します。[Graphical Interface] を選択してから [Do] をクリックし、次のように選択します。
 - ゲストで使用する解像度およびリフレッシュレート
 - [VMware virtual video card]
 - パッケージにアップデートをインストールするかどうかについては、[No] を選択
 - 再起動時に X を起動させるかどうかについては、[No] を選択

これでゲスト OS としての Mandriva Linux 2007の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Mandriva Linux 2006

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Mandriva Linux 2006 は、標準の Mandriva Linux ディストリビューション CD を使用し て仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディス トリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フ ロッピーまたはネットワークから Mandriva Linux 2006 をインストールすることもで きます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サー バからインストールすることもできます。

Mandriva Linux 2006 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Mandriva Linux 2006 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- Mandriva Linux 2006 のインストール中に、XFree86 の X サーバを選択するよう求められます。いずれを選択しても問題ありませんが、選択した X サーバは実行しないでください。代わりに、Mandriva Linux 2006 のインストール完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。これで、仮想マシン内でアクセラレータ機能付 SVGA X サーバを実行できます。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

- 1 CD-ROM ドライブに Mandriva Linux 2006 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Mandriva Linux 2006 のインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 テキストモードのインストーラを使用します。オプションを選択するには起動 画面で <F1> キーを押します。次に、text と入力してテキストモードを選択し ます。
- 5 特殊な要件がないかぎり、パーティショニング時に、Mandriva Linux が自動的に 領域を割り当てるようにしても問題ありません。[Use free space] を選択します。

- 6 [Summary] 画面では、グラフィカルインターフェイスを構成します。[Graphical Interface] を選択してから [Do] をクリックし、次のように選択します。
 - ゲストで使用する解像度およびリフレッシュレート
 - [VMware virtual video card]
 - パッケージにアップデートをインストールするかどうかについては、[No] を選択
 - 再起動時に X を起動させるかどうかについては、[No] を選択

これでゲスト OS としての Mandriva Linux 2006の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Mandrake Linux 10.1

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Mandrake Linux 10.1 は、標準の Mandrake Linux ディストリビューション CD を使用し て仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディス トリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フ ロッピーまたはネットワークから Mandrake Linux 10.1 をインストールすることもで きます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サー バからインストールすることもできます。

Mandrake Linux 10.1 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Mandrake Linux 10.1 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- Mandrake Linux 10.1 のインストール中に、XFree86 の X サーバを選択するよう求められます。いずれを選択しても問題ありませんが、選択した X サーバは実行しないでください。代わりに、Mandriva Linux 10.1 のインストール完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。これで、仮想マシン内でアクセラレータ機能付き SVGA X サーバを実行できます。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

- 1 CD-ROM ドライブに Mandrake Linux 10.1 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Mandrake Linux 10.1 のインストールを開始しま す。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 テキストモードのインストーラを使用します。オプションを選択するには起動 画面で <F1> キーを押します。次に、text と入力してテキストモードを選択し ます。
- 5 特殊な要件がないかぎり、パーティショニング時に、Mandrake Linux が自動的 に領域を割り当てるようにしても問題ありません。[Use free space] を選択しま す。
- 6 [Summary] 画面では、グラフィカルインターフェイスを構成します。
 [Graphical Interface] を選択してから [Do] をクリックし、次のように選択します。
 - ゲストで使用する解像度およびリフレッシュレート
 - [VMware virtual video card]
 - パッケージにアップデートをインストールするかどうかについては、[No] を選択
 - 再起動時に X を起動させるかどうかについては、[No] を選択

これでゲスト OS としての Mandrake Linux 10.1 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Mandrake Linux ゲストでは、Linux コンソールから VMware Tools をインストールして ください。VMware Tools のインストールを完了するまでは、X を起動しないでください。

注意 VMware Tools をインストールして構成すると、**lspci**の場所を入力するよう構成プログラムによって求められます。このプロンプト画面が表示されたら、次のパスを入力します。

/usr/bin/lspcidrake

Mandrake Linux 10

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Mandrake Linux 10 は、標準の Mandrake Linux ディストリビューション CD を使用し て仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディス トリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フ ロッピーまたはネットワークから Mandrake Linux 10 をインストールすることもでき ます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバ からインストールすることもできます。

Mandrake Linux 10 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Mandrake Linux 10 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- Mandrake Linux 10 のインストール中に、XFree86 の X サーバを選択するよう求められます。いずれを選択しても問題ありませんが、選択した X サーバは実行しないでください。代わりに、Mandriva Linux 10 のインストール完了後、ただちにVMware Tools パッケージをインストールします。これで、仮想マシン内でアクセラレータ機能付 SVGA X サーバを実行できます。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

- 1 CD-ROM ドライブに Mandrake Linux 10 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Mandrake Linux 10 のインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 テキストモードのインストーラを使用します。オプションを選択するには起動 画面で <F1> キーを押します。次に、text と入力してテキストモードを選択し ます。
- 5 特殊な要件がないかぎり、パーティショニング時に、Mandrake Linux が自動的 に領域を割り当てるようにしても問題ありません。[Use free space] を選択しま す。

- 6 [Summary] 画面では、グラフィカルインターフェイスを構成します。[Graphical Interface] を選択してから [Do] をクリックし、次のように選択します。
 - ゲストで使用する解像度およびリフレッシュレート
 - [VMware virtual video card]
 - パッケージにアップデートをインストールするかどうかについては、[No] を選択
 - 再起動時に X を起動させるかどうかについては、[No] を選択

これでゲスト OS としての Mandrake Linux 10 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Mandrake Linux 9.2

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Mandrake Linux 9.2 は、標準の Mandrake Linux ディストリビューション CD を使用し て仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディス トリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フ ロッピーまたはネットワークから Mandrake Linux 9.2 をインストールすることもでき ます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバ からインストールすることもできます。

Mandrake Linux 9.2 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Mandrake Linux 9.2 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- Mandrake Linux 9.2 のインストール中に、XFree86 の X サーバを選択するよう求められます。いずれを選択しても問題ありませんが、選択した X サーバは実行しないでください。代わりに、Mandriva Linux 9.2 のインストール完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。これで、仮想マシン内でアクセラレータ機能付き SVGA X サーバを実行できます。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Mandrake Linux 9.2 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンします。
- 3 このオペレーティングシステムの残りのインストール手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

次の手順は、このゲストを VMware 仮想マシンにインストールする場合に固有の 手順です。

- 4 起動画面をクリックし、<F1>キーを押してテキストモードを使用してインストールします。
- 5 コマンドラインで、textと入力して <Enter> キーを押します。

6 [DrakX Partitioning] ウィザードで、次のソリューション画面を検索し、[Use free space] を選択して [Next] を選択します。

特別なディスク要件がない場合は、Mandrake Linux に領域を割り当てます。

7 [Package Group Selection] 画面まで進んだら、VMware 製品をインストールした コンピュータのタイプを選択します。

VMware 製品をラップトップコンピュータにインストールした場合、次のように 選択します。

- a [Advanced] をクリックします。
- b [Individual package selection] を選択してから [Next] を選択します。
- c [numlock] までスクロールし、アスタリスクを選択解除して [Next] を選択します。

ゲストをラップトップにインストールするときに numlock を無効にしな かった場合、numlock はゲストで常にアクティブになります。<Num Lock> キーを押して無効にすることはできません。

- 8 [Summary] 画面に進んだら、[Graphical interface] を選択して [Do] を選択します。
- 9 グラフィカルインターフェイスで次を選択します。
 - ゲストのモニタ
 - [VMware virtual video card]
 - [XFree 4.3]
 - ゲストの解像度とリフレッシュレート
 - 構成をテストしない場合、[No]
 - 再起動時に X を起動しない場合、[No]

グラフィカルインターフェイスの選択が完了すると、再び [Summary] 画面が表示されます。

- 10 [Summary] 画面で [Next] を選択します。
- 11 パッケージのアップデートをインストールしない場合は [No] を選択します。
- 12 ゲスト OS としての Mandrake Linux 9.2 の基本インストールを完了するには、 [Reboot] を選択します。

これでゲスト OS としての Mandrake Linux 9.2 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Mandrake Linux 9.2 ゲストでは、Linux コンソールから VMware Tools をインストール してください。VMware Tools のインストールを完了するまでは、X を起動しないでく ださい。

注意 VMware Tools をインストールして構成すると、**lspci**の場所を入力するよう構成プログラムによって求められます。このプロンプト画面が表示されたら、次のパスを入力します。

/usr/bin/lspcidrake

Mandrake Linux 9.1

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Mandrake Linux 9.1 は、標準の Mandrake Linux ディストリビューション CD を使用し て仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディス トリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フ ロッピーまたはネットワークから Mandrake Linux 9.1 をインストールすることもでき ます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバ からインストールすることもできます。

Mandrake Linux 9.1 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Mandrake Linux 9.1 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- Mandrake Linux 9.1 のインストール中に、XFree86 の X サーバを選択するよう求められます。いずれを選択しても問題ありませんが、選択した X サーバは実行しないでください。代わりに、Mandriva Linux 9.1 のインストール完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。これで、仮想マシン内でアクセラレータ機能付 SVGA X サーバを実行できます。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

- 1 CD-ROM ドライブに Mandrake Linux 9.1 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Mandrake Linux 9.1 のインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 テキストモードのインストーラを使用します。オプションを選択するには起動 画面で <F1> キーを押します。次に、text と入力してテキストモードを選択し ます。
- 5 [Expert Installer] を使用します。
- 6 特殊な要件がないかぎり、パーティショニング時に、Mandrake Linux が自動的 に領域を割り当てるようにしても問題ありません。[Use free space] をクリックし ます。

- 7 VMware GSX Server:ブート ローダの選択では、[LILO with text menu] を選択し ます。グラフィカル バージョンの LILO は仮想マシンをハング アップさせるた め、使用しないでください。
- 8 カスタムブートディスクの作成が求められますが、作成しないでください。
- 9 インストールの最後の方で、ファイルのコピーが完了したあとに [Monitor Setup] 画面が表示されます。ゲストで使用する解像度およびリフレッシュレートを選 択します。[VMware virtual video card] を選択します。
- 10 2 つの XFree86 X サーバのいずれかをインストールするように選択できますが、 ここでは [XFree 4.2.1] を選択します。このドライバは、VMware SVGA ドライバを 認識します。
- 11 設定した構成をテストするかどうかについて、[No]を選択します。
- 12 再起動時に X を起動するかどうかについて、[No] を選択します。
- 13 パッケージにアップデートをインストールするかどうかについて、[No]を選択 します。

これでゲスト OS としての Mandrake Linux 9.1 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Mandrake Linux 9.1 ゲストでは、Linux コンソールから VMware Tools をインストール してください。VMware Tools のインストールを完了するまでは、X を起動しないでく ださい。

注意 VMware Tools をインストールして構成すると、lspci の場所を入力するよう構成プログラムによって求められます。このプロンプト画面が表示されたら、次のパスを入力します。

/usr/bin/lspcidrake

Mandrake Linux 9.0

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Mandrake Linux 9.0 は、標準の Mandrake Linux ディストリビューション CD を使用し て仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディス トリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フ ロッピーまたはネットワークから Mandrake Linux 9.0 をインストールすることもでき ます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバ からインストールすることもできます。

Mandrake Linux 9.0 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Mandrake Linux 9.0 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- Mandrake Linux 9.0 のインストール中に、XFree86 の X サーバを選択するよう求められます。いずれを選択しても問題ありませんが、選択した X サーバは実行しないでください。代わりに、Mandriva Linux 9.0 のインストール完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。これで、仮想マシン内でアクセラレータ機能付 SVGA X サーバを実行できます。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

- 1 CD-ROM ドライブに Mandrake Linux 9.0 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Mandrake Linux 9.0 のインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 テキストモードのインストーラを使用します。オプションを選択するには起動 画面で <F1> キーを押します。次に、text と入力してテキストモードを選択し ます。
- 5 [Expert Installer] を使用します。
- 6 特殊な要件がないかぎり、パーティショニング時に、Mandrake Linux が自動的 に領域を割り当てるようにしても問題ありません。[Use free space] をクリックし ます。

- 7 VMware GSX Server:ブート ローダの選択では、[LILO with text menu] を選択し ます。グラフィカル バージョンの LILO は仮想マシンをハング アップさせるた め、使用しないでください。
- 8 カスタムブートディスクの作成が求められますが、作成しないでください。
- 9 インストールの最後の方で、ファイルのコピーが完了したあとに [Monitor Setup] 画面が表示されます。ゲストで使用する解像度およびリフレッシュレートを選 択します。[VMware virtual video card] を選択します。
- 10 2 つの XFree86 X サーバのいずれかをインストールするように選択できますが、 ここでは [XFree 4.2.1] を選択します。このドライバは、VMware SVGA ドライバを 認識します。
- 11 設定した構成をテストするかどうかについて、[No]を選択します。
- 12 再起動時に X を起動するかどうかについて、[No] を選択します。
- 13 パッケージにアップデートをインストールするかどうかについて、[No]を選択 します。

これでゲスト OS としての Mandrake Linux 9.0 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Mandrake Linux 9.0 ゲストでは、Linux コンソールから VMware Tools をインストール してください。VMware Tools のインストールを完了するまでは、X を起動しないでく ださい。

注意 VMware Tools をインストールして構成すると、**lspci**の場所を入力するよう構成プログラムによって求められます。このプロンプト画面が表示されたら、次のパスを入力します。

/usr/bin/lspcidrake

Mandrake Linux 8.2

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Mandrake Linux 8.2 は、標準の Mandrake Linux ディストリビューション CD を使用し て仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディス トリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フ ロッピーまたはネットワークから Mandrake Linux 8.2 をインストールすることもでき ます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバ からインストールすることもできます。

Mandrake Linux 8.2 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Mandrake Linux 8.2 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- Mandrake Linux 8.2 のインストール中に、XFree86 の X サーバを選択するよう求められます。いずれを選択しても問題ありませんが、選択した X サーバは実行しないでください。代わりに、Mandriva Linux 8.2 のインストール完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。これで、仮想マシン内でアクセラレータ機能付 SVGA X サーバを実行できます。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

- 1 CD-ROM ドライブに Mandrake Linux 8.2 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Mandrake Linux 8.2 のインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 [Expert Installer] を使用します。
- 5 特殊な要件がないかぎり、パーティショニング時に、Mandrake Linux が自動的 に領域を割り当てるようにしても問題ありません。
- 6 ブートローダの選択では、[LILO with text menu] を選択します。グラフィカル バージョンの LILO は仮想マシンをハング アップさせるため、使用しないでくだ さい。
- 7 カスタム ブート ディスクの作成が求められますが、作成しないでください。

- 8 2 つの XFree86 X サーバのいずれかをインストールするように選択できますが、 ここでは [XFree 4.2.0] を選択します。このドライバは、VMware SVGA ドライバを 認識します。
- 9 インストールの最後の方で、ファイルのコピーが完了したあとに [Monitor Setup] 画面が表示されます。ゲストで使用する解像度およびリフレッシュレートを選 択します。
- 10 設定した構成をテストするかどうかについて、[No]を選択します。
- 11 システム アップデートをインストールするかどうかについて、[No] を選択しま す。
- 12 再起動時に X を起動するかどうかについて、[No] を選択します。

これでゲスト OS としての Mandrake Linux 8.2 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Mandrake Linux 8.2 ゲストでは、Linux コンソールから VMware Tools をインストール してください。VMware Tools のインストールを完了するまでは、X を起動しないでく ださい。

注意 VMware Tools をインストールして構成すると、**lspci**の場所を入力するよう構成プログラムによって求められます。このプロンプト画面が表示されたら、次のパスを入力します。

/usr/bin/lspcidrake

Mandrake Linux 8.0 および 8.1

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Mandrake Linux 8.0 または 8.1 は、標準の Mandrake Linux ディストリビューション CD を使用して仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準 のディストリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただ し、起動フロッピーまたはネットワークから Mandrake Linux 8.0 または 8.1 をインス トールすることもできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされてい る場合は、PXE サーバからインストールすることもできます。

Mandrake Linux 8.0 または 8.1 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Mandrake Linux 8.0 または 8.1 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- Mandrake Linux 8.0 または 8.1 のインストール中に、XFree86 の X サーバを選択す るよう求められます。いずれを選択しても問題ありませんが、選択した X サーバ は実行しないでください。代わりに、Mandriva Linux 8.0 または 8.1 のインストー ル完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。これで、 仮想マシン内でアクセラレータ機能付 SVGA X サーバを実行できます。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

- 1 CD-ROM ドライブに Mandrake Linux 8.0 または 8.1 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Mandrake Linux 8.0 または 8.1 のインストールを 開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 [Expert Installer] を使用します。
- 5 特殊な要件がないかぎり、パーティショニング時に、Mandrake Linux が自動的 に領域を割り当てるようにしても問題ありません。
- 6 ブートローダの選択では、[LILO with text menu] を選択します。グラフィカル バージョンの LILO は仮想マシンをハング アップさせるため、使用しないでくだ さい。

- 7 [Select a Graphic Card] 画面で、[Other] [Generic VGA compatible] を選択します。
- 8 インストールの最後の方で、ファイルのコピーが完了したあとに [Monitor Setup] 画面が表示されます。[Super VGA, 800x600 @ 56 Hz] を選択します。
- 9 再起動時に X を起動するかどうかについて、[No] を選択します。

これでゲスト OS としての Mandrake Linux 8.0 または 8.1 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

注意 Mandrake Linux 8.0 または 8.1 ゲストでは、Linux コンソールから VMware Tools をイン ストールしてください。VMware Tools のインストールを完了するまでは、XFree86 構 成ファイルへのシンボリック リンクを設定しないでください。

XFree86 へのシンボリック リンクの設定

root (**su** –)の権限でログインしてから、正しい XFree86 構成ファイルにシンボリックリンクを設定します。

cd /etc

ln -s /etc/X11/XF86Config.vm XF86Config

startx コマンドを使用して、X サーバを起動します。

Novell Linux Desktop 9

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Novell Linux Desktop9は、標準の Novell Linux Desktop ディストリビューション CD を使用して仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準 のディストリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただ し、起動フロッピーまたはネットワークから Novell Linux Desktop9をインストール することもできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合 は、PXE サーバからインストールすることもできます。

Novell Linux Desktop 9 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Novell Linux Desktop 9 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Novell Linux Desktop 9 インストール CD を挿入します。
- 仮想マシンをパワーオンして、Novell Linux Desktop 9 のインストールを開始します。
- 3 テキストモードのインストーラを使用してインストールします。テキストモードのインストーラを選択するには、最初のインストール画面で、<F2>キーを押してからカーソルキーを使用して[テキストモード]を選択し、<Enter>キーを押します。
- 4 最終構成プロセスで、すべてのパッケージがインストールされたあとのインター ネット接続テストは実行しないでください。
- 5 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

これでゲスト OS としての Novell Linux Desktop 9 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Oracle Enterprise Linux 5

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Oracle Enterprise Linux 5 は、標準のディストリビューション CD を使用して仮想マシ ンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリビュー ション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッピーま たはネットワークから Oracle Enterprise Linux 5 をインストールすることもできます。 ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからイ ンストールすることもできます。

Oracle Enterprise Linux 5 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Oracle Enterprise Linux 5 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- 仮想マシンを作成する際は、必ず LSI Logic SCSI アダプタを選択します。Oracle Enterprise Linux 5 には、BusLogic SCSI アダプタのドライバが含まれていません。
- 仮想マシンは、必ず 512MB 以上のメモリを構成するようにしてください。仮想 マシンのメモリが 512MB よりも少ないと、Oracle Enterprise Linux 5 が、一部の VMware ドライバのロード中にエラーメッセージを表示します。

- 1 CD-ROM ドライブに Oracle Enterprise Linux 5 CD-ROM を挿入します。
- 仮想マシンをパワーオンして、Oracle Enterprise Linux 5 のインストールを開始し ます。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 インストール時に [Virtualization Option] を選択しないでください。詳細は、ナ レッジベースの記事 9134325 (http://kb.vmware.com/kb/9134325) を参照して ください。

5 [Automatic Partitioning] 画面で、ディスクの自動パーティショニングを許可しま す。デフォルトを使用しない場合は、手動で仮想ディスクのパーティショニング を行うこともできます。

「The partition table on device <デバイス名 > was unreadable. To create new partitions it must be initialized, causing the loss of ALL DATA on the drive.」で始まる警告が表示されることがあります。この警告が表示されても、物理コンピュータのハードドライブに問題が発生しているわけではありません。仮想マシンの仮想ハードドライブに対してパーティショニングおよびフォーマットを行う必要があると警告しているだけです。

6 [Yes] をクリックしてドライブのパーティショニングを行います。

これでゲスト OS としての Oracle Enterprise Linux 5 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Oracle Enterprise Linux 4

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Oracle Enterprise Linux 4 は、標準のディストリビューション CD を使用して仮想マシ ンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリビュー ション CD を使用したインストールの手順を説明します。Oracle Enterprise Linux 4 は、 起動フロッピーまたはネットワークを使用してインストールすることもできます。ご 使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからイン ストールすることもできます。

Oracle Enterprise Linux 4 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

- 新規仮想マシンを作成し、構成する。
- ゲスト OS に Red Hat Enterprise Linux 4 または 64 ビットの Red Hat Enterprise Linux 4 を選択する。Oracle Enterprise Linux 4 はオプションとして表示されません。

Oracle Enterprise Linux 4 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- 仮想マシンを作成する際は、必ず LSI Logic SCSI アダプタを選択します。Oracle Enterprise Linux 4 には、BusLogic SCSI アダプタのドライバが含まれていません。
- 仮想マシンは、必ず 512MB 以上のメモリを構成するようにしてください。仮想 マシンのメモリが 512MB よりも少ないと、Oracle Enterprise Linux 4 が、一部の VMware ドライバのロード中にエラーメッセージを表示します。

- 1 CD-ROM ドライブに Oracle Enterprise Linux 4 CD-ROM を挿入します。
- 仮想マシンをパワーオンして、Oracle Enterprise Linux 4 のインストールを開始し ます。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 インストール時に [Virtualization Option] を選択しないでください。詳細は、ナ レッジベースの記事 9134325 (http://kb.vmware.com/kb/9134325) を参照して ください。

5 [Automatic Partitioning] 画面で、ディスクの自動パーティショニングを許可しま す。デフォルトを使用しない場合は、手動で仮想ディスクのパーティショニング を行うこともできます。

「The partition table on device <デバイス名 > was unreadable. To create new partitions it must be initialized, causing the loss of ALL DATA on the drive.」で始まる警告が表示されることがあります。この警告が表示されても、物理コンピュータのハードドライブに問題が発生しているわけではありません。仮想マシンの仮想ハードドライブに対してパーティショニングおよびフォーマットを行う必要があると警告しているだけです。

6 [Yes] をクリックしてドライブのパーティショニングを行います。

これでゲスト OS としての Oracle Enterprise Linux 4 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Red Hat Enterprise Linux 5

このセクションでは、Red Hat Enterprise Linux 5 オペレーティング システムに関する サポート状況、インストール手順、および既知の問題について記述しています。

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Red Hat Enterprise Linux 5 は、標準の Red Hat ディストリビューション CD を使用して 仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディスト リビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フ ロッピーまたはネットワークから Red Hat Enterprise Linux 5 をインストールすること もできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストールすることもできます。

Red Hat Enterprise Linux 5 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Red Hat Enterprise Linux 5 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討して ください。

- 仮想マシンは、必ず512MB以上のメモリを構成するようにしてください。仮想 マシンのメモリが512MBよりも少ないと、Red Hat Enterprise Linux 5 が、一部の VMware ドライバのロード中にエラーメッセージを表示します。
- 仮想マシンを作成する際は、必ずLSI Logic SCSI アダプタを選択します。Red Hat Enterprise Linux 5 には、BusLogic SCSI アダプタのドライバが含まれていません。 オペレーティングシステムをインストールする前に、新しく仮想マシンを作成 し、構成を済ませておきます。

- 1 CD-ROM ドライブに Red Hat Enterprise Linux 5 CD-ROM を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Red Hat Enterprise Linux 5 のインストールを開始 します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 インストール時に [Virtualization Option] を選択しないでください。詳細は、ナ レッジベースの記事 9134325 (http://kb.vmware.com/kb/9134325) を参照して ください。

5 [Automatic Partitioning] 画面で、ディスクの自動パーティショニングを許可しま す。Red Hat のデフォルトを使用しない場合は、手動で仮想ディスクのパーティ ショニングを行うこともできます。

「The partition table on device <デバイス名 > was unreadable. To create new partitions it must be initialized, causing the loss of ALL DATA on the drive.」で始まる警告が表示されることがあります。この警告が表示されても、物理コンピュータのハードドライブに問題が発生しているわけではありません。仮想マシンの仮想ハードドライブに対してパーティショニングおよびフォーマットを行う必要があると警告しているだけです。

6 [Yes]をクリックしてドライブのパーティショニングを行います。

これでゲスト OS としての Red Hat Enterprise Linux 5 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Red Hat Enterprise Linux 4

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Red Hat Enterprise Linux 4 は、標準の Red Hat ディストリビューション CD を使用して 仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディスト リビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フ ロッピーまたはネットワークから Red Hat Enterprise Linux 4 をインストールすること もできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストールすることもできます。

Red Hat Enterprise Linux 4 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Red Hat Enterprise Linux 4 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討して ください。

- VMware Workstation、VMware ACE、または VMware GSX Server: 仮想マシン を作成する際は、必ず LSI Logic SCSI アダプタを選択します。Red Hat Enterprise Linux 4 には、BusLogic SCSI アダプタのドライバが含まれていません。
- 仮想マシンは、必ず 256MB 以上のメモリを構成するようにしてください。仮想 マシンのメモリが 256MB よりも少ないと、Red Hat Enterprise Linux が、一部の VMware ドライバのロード中にエラーメッセージを表示します。
- Red Hat Enterprise Linux 4の hugemem カーネルはサポートされていません。ナレッジベースの記事 8964517 (http://kb.vmware.com/kb/8964517)を参照してください。
- SCSIアダプタのサポート
 - Red Hat Enterprise Linux 4 Update 1、2、3、4、5: ESX Server 2.5.2、2.5.3、2.5.4、2.5.5 は Red Hat Enterprise Linux 4 Update 1、2、3、4、5 で BusLogic SCSI アダプタのみをサポートします。
 - Red Hat Enterprise Linux 4 Update 6 および Update 7: ESX Server 2.5.2、2.5.3、2.5.4、2.5.5 は Red Hat Enterprise Linux 4 Update 6 および Update 7 で、LSI Logic アダプタと BusLogic SCSI アダプタの両方をサポートします。
 - ヴイエムウェアは BusLogic SCSI アダプタをサポートするため、個別のドライバを用意しています。BusLogic 用ドライバのダウンロードとインストールの手順については、www.vmware.com/download/esx/drivers_tools.html を参照してください。

インストールの手順

- **注意** 次のステップ4の注記によく目を通して、不適切なカーネルをインストールしないように注意してください。
 - 1 CD-ROM ドライブに Red Hat Enterprise Linux 4 CD-ROM を挿入します。
 - 仮想マシンをパワーオンして、Red Hat Enterprise Linux 4 のインストールを開始 します。
 - 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
 - 4 VMware GSX Server: [Package Group Selection] 画面では、[Software Development] を選択してから個々のパッケージを選択します。[Individual Package Selection] 画面ではカーソル キーを使用して [System Environment/Kernel] まで下方向に移動し、<Enter> キーを押します。 [kernel-smp] の選択が解除されていることを必ず確認してください (角括弧の中 にアスタリスクが表示されないようにする)。SMP カーネルは、GSX Server 仮想 マシンではサポートされていません。ほかの選択を変更する必要はありません。
 - 5 [Automatic Partitioning] 画面で、ディスクの自動パーティショニングを許可しま す。Red Hat のデフォルトを使用しない場合は、手動で仮想ディスクのパーティ ショニングを行うこともできます。
 - 6 「The partition table on device <デバイス名 > was unreadable. To create new partitions it must be initialized, causing the loss of ALL DATA on the drive.」で始まる警告が表示されることがあります。この警告が表示されても、物理コンピュータのハードドライブに問題が発生しているわけではありません。仮想マシンの仮想ハードドライブに対してパーティショニングおよびフォーマットを行う必要があると警告しているだけです。

[Yes] をクリックしてドライブのパーティショニングを行います。

7 VMware GSX Server:使用中のコンピュータが DHCP に対応した LAN に接続されている場合は、[Network Configuration] 画面から [Use bootp/dhcp] オプションを 選択することができます。また、ネットワーク パラメータを手動で設定することもできます。

VMware ESX Server: vlance ネットワーク アダプタを使用している仮想マシン で、使用中のコンピュータが DHCP に対応した LAN に接続されている場合は、 [Network Configuration] 画面から [Use bootp/dhcp] オプションを選択することが できます。また、ネットワーク パラメータを手動で設定することもできます。 仮想マシンで vmxnet ネットワーク アダプタを使用している場合は、ゲスト OS のインストール完了後に、Red Hat Enterprise Linux 4 のネットワーク構成ツール を使用してネットワーク接続を構成します。 これでゲスト OS としての Red Hat Enterprise Linux 4 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Red Hat Enterprise Linux 3

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Red Hat Enterprise Linux 3 は、標準の Red Hat ディストリビューション CD を使用して 仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディスト リビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フ ロッピーまたはネットワークから Red Hat Enterprise Linux 3 をインストールすること もできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストールすることもできます。

Red Hat Enterprise Linux 3 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Red Hat Enterprise Linux 3 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討して ください。

- Red Hat Enterprise Linux 3 の hugemem カーネルはサポートされていません。ナレッジベースの記事 8964517 (http://kb.vmware.com/kb/8964517)を参照してください。
- 仮想マシンは、必ず 256MB 以上のメモリを構成するようにしてください。仮想 マシンのメモリが 256MB よりも少ないと、Red Hat Enterprise Linux が、一部の VMware ドライバのロード中にエラーメッセージを表示します。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

- **注意** 次のステップ6の注記によく目を通して、不適切なカーネルをインストールしないように注意してください。
 - 1 CD-ROM ドライブに Red Hat Enterprise Linux 3 CD-ROM を挿入します。
 - 2 仮想マシンをパワーオンして、Red Hat Enterprise Linux 3 のインストールを開始 します。

Red Hat Enterprise Linux 3 のインストールには、テキスト モードのインストーラ を使用します。これは、インストーラの最初の起動時に選択できます。Red Hat Enterprise Linux 3 CD ブート プロンプトに、次のような選択肢が表示されます。

To install or upgrade Red Hat Linux ... in graphical mode ... To install or upgrade ... in text mode, type:text <ENTER>... ... Use the function keys listed below ...

テキスト モードのインストーラを選択するには、**text** と入力してから <Enter> キーを押します。

- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 言語およびキーボードを選択します。次に、[Installation Type] 画面で、インストールの種類として [Advanced Server] または [Custom] のいずれかを選択します。
- 5 [Mouse Selection] 画面で、[Generic 3 Button Mouse (PS/2)] を選択してから [Emulate 3 Buttons] オプションを選択すれば、仮想マシンが 3 ボタン マウスをサ ポートするようになります。ホイール マウスを使用している場合は、[Generic Wheel Mouse (PS/2)] を選択することもできます。
- 6 VMware GSX Server のみ: [Package Group Selection] 画面では、[Software Development] を選択してから個々のパッケージを選択します。[Individual Package Selection] 画面ではカーソル キーを使用して [System Environment/Kernel] まで下方向に移動し、<Enter> キーを押します。 [kernel-smp] の選択が解除されていることを必ず確認してください (角括弧の中にアスタリスクが表示されないようにする)。SMP カーネルは、GSX Server 仮想 マシンではサポートされていません。ほかの選択を変更する必要はありません。
- 7 [Automatic Partitioning] 画面で、ディスクの自動パーティショニングを許可します。Red Hat のデフォルトを使用しない場合は、手動で仮想ディスクのパーティショニングを行うこともできます。
- 8 次のような警告が表示されることがあります。

The partition table on device sda was unreadable.To create new partitions, it must be initialized, causing the loss of ALL DATA on the drive.

Would you like to initialize this drive?

この警告が表示されても、物理コンピュータのハードドライブに問題が発生しているわけではありません。仮想マシンの仮想ハードドライブに対してパー ティショニングおよびフォーマットを行う必要があると警告しているだけです。 [Yes] ボタンを選択してから <Enter> キーを押します。該当する仮想ディスクが SCSI ディスクの場合、警告メッセージ文にはデバイス名として sda が表示されます。仮想ディスクが IDE ドライブの場合、代わりにデバイス名 hda が表示されます。

9 VMware GSX Server:使用中のコンピュータが DHCP に対応した LAN に接続されている場合は、[Network Configuration] 画面から [Use bootp/dhcp] オプションを選択することができます。また、ネットワークパラメータを手動で設定することもできます。

VMware ESX Server、VMware VirtualCenter、または vCenter Server: vlance ネットワークアダプタを使用している仮想マシンで、使用中のコンピュータが DHCP に対応した LAN に接続されている場合は、[Network Configuration] 画面か ら [Use bootp/dhcp] オプションを選択することができます。また、ネットワー クパラメータを手動で設定することもできます。仮想マシンで vmxnet ネット ワークアダプタを使用している場合は、ゲスト OS のインストール完了後に、 Red Hat Enterprise Linux 3 のネットワーク構成ツールを使用してネットワーク接 続を構成します。

これでゲスト OS としての Red Hat Enterprise Linux 3 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Red Hat Enterprise Linux 2.1

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Red Hat Enterprise Linux 2.1 は、標準の Red Hat ディストリビューション CD を使用し て仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディス トリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フ ロッピーまたはネットワークから Red Hat Enterprise Linux 2.1 をインストールするこ ともできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、 PXE サーバからインストールすることもできます。

Red Hat Enterprise Linux 2.1 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Red Hat Enterprise Linux 2.1 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- VMware ESX Server で稼動する Red Hat Enterprise Linux 2.1 WS: ESX Server の仮 想マシンに Red Hat Enterprise Linux 2.1 WS をインストールする際は、Update 6 以 降を使用します。これにより、ネットワークと SCSI アダプタの競合だけでなく、 Red Hat Enterprise Linux 2.1 WS ゲスト OS でのインストールの問題も解消されま す。
- Update 6 以降をインストールしない場合は、ネットワークおよび SCSI アダプタ に次のいずれかの構成を使用します。
 - vlance ネットワーク アダプタ:LSI Logic SCSI アダプタを使用。
 - vmxnet ネットワーク アダプタ: LSI Logic SCSI アダプタまたは BusLogic アダ プタを使用。
- Red Hat Enterprise Linux 2.1 のセットアップ時にXサーバがインストールされます が、これは実行しないでください。代わりに、Red Hat Enterprise Linux 2.1 のイ ンストール完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。 これで、仮想マシン内でアクセラレータ機能付き SVGA X サーバを実行できます。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- **注意** VMware ESX Server を使用してマルチプロセッサの仮想マシンを実行している場合を 除き、次のステップ6の注記によく目を通して、不適切なカーネルをインストールし ないように注意してください。
 - 1 CD-ROM ドライブに Red Hat Enterprise Linux 2.1 CD-ROM を挿入します。
 - 仮想マシンをパワーオンして、Red Hat Enterprise Linux 2.1 のインストールを開始します。

Red Hat Enterprise Linux 2.1 のインストールには、テキスト モードのインストー ラを使用します。これは、インストーラの最初の起動時に選択できます。Red Hat Enterprise Linux 2.1 CD ブート プロンプトに、次のような選択肢が表示されま す。

To install or upgrade Red Hat Linux ... in graphical mode ... To install or upgrade ... in text mode, type:text <ENTER>... ... Use the function keys listed below ...

テキスト モードのインストーラを選択するには、**text** と入力してから <Enter> キーを押します。

- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 言語およびキーボードを選択します。次に、[Installation Type] 画面で、インストールの種類として [Advanced Server] または [Custom] のいずれかを選択します。
- 5 [Mouse Selection] 画面で、[Generic 3 Button Mouse (PS/2)] を選択してから [Emulate 3 Buttons] オプションを選択すれば、仮想マシンが 3 ボタン マウスをサ ポートするようになります。ホイール マウスを使用している場合は、[Generic Wheel Mouse (PS/2)] を選択することもできます。
- 6 VMware GSX Server のみ: [Package Group Selection] 画面では、[Software Development] を選択してから個々のパッケージを選択します。[Individual Package Selection] 画面ではカーソル キーを使用して [System Environment/Kernel] まで下方向に移動し、<Enter> キーを押します。 [kernel-smp] の選択が解除されていることを必ず確認してください (角括弧の中 にアスタリスクが表示されないようにする)。SMP カーネルは、GSX Server 仮想 マシンではサポートされていません。ほかの選択を変更する必要はありません。

VMware ESX Server、VirtualCenter、または vCenter Server (Virtual SMP が構成 されていない ESX Server マシンにインストールする場合): [Individual Package Selection] 画面ではカーソル キーを使用して [System Environment/Kernel] まで下 方向に移動し、<Enter> キーを押します。次のカーネルの選択が解除されている ことを必ず確認してください(角括弧の中にアスタリスクが表示されないよう にする)。

- kernel-enterprise
- kernel-smp
- kernel-summit

VMware ESX Server、VirtualCenter、または vCenter Server (Virtual SMP が構成 されている ESX Server マシンにインストールする場合): [Individual Package Selection] 画面ではカーソル キーを使用して [System Environment/Kernel] まで下 方向に移動し、<Enter> キーを押します。

- マルチプロセッサ仮想マシンをインストールする場合は、[kernel-smp]を選 択する必要があります。
- ユニプロセッサ仮想マシンをインストールする場合は、次のカーネルを選択 解除します。kernel-enterprise、kernel-smp、および kernel-summit。

VMware ESX Server を使って Red Hat Enterprise Linux 2.1 仮想マシンでユニプロ セッサおよびマルチプロセッサのカーネルを使用する際の詳細は、 www.vmware.com/support/esx21/doc/releasenotes_esx213.html のリリース ノートを参照してください。

- 7 [Automatic Partitioning] 画面で、ディスクの自動パーティショニングを許可します。Red Hat のデフォルトを使用しない場合は、手動で仮想ディスクのパーティショニングを行うこともできます。
- 8 次のような警告が表示されることがあります。

The partition table on device sda was unreadable.To create new partitions, it must be initialized, causing the loss of ALL DATA on the drive.

Would you like to initialize this drive?

この警告が表示されても、物理コンピュータのハードドライブに問題が発生しているわけではありません。仮想マシンの仮想ハードドライブに対してパーティショニングおよびフォーマットを行う必要があると警告しているだけです。 [Yes] ボタンを選択してから <Enter> キーを押します。該当する仮想ディスクがSCSI ディスクの場合、警告メッセージ文にはデバイス名として sda が表示されます。仮想ディスクが IDE ドライブの場合、代わりにデバイス名 hda が表示されます。

- 9 使用中のコンピュータが DHCP に対応した LAN に接続されている場合は、 [Network Configuration] 画面から [Use bootp/dhcp] オプションを選択することが できます。また、ネットワーク パラメータを手動で設定することもできます。
- 10 [Video Card Configuration] 画面で、[Generic SVGA] を選択します。

これでゲスト OS としての Red Hat Enterprise Linux 2.1 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

Red Hat Linux 9.0

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Red Hat Linux 9.0 は、標準の Red Hat ディストリビューション CD を使用して仮想マシ ンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリビュー ション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッピーま たはネットワークから Red Hat Linux 9.0 をインストールすることもできます。ご使用 の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインス トールすることもできます。

Red Hat Linux 9.0 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Red Hat Linux 9.0 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- Red Hat Linux 9.0 のセットアップ時に X サーバがインストールされますが、これ は実行しないでください。代わりに、Red Hat Linux 9.0 のインストール完了後、 ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。これで、仮想マシン 内でアクセラレータ機能付き SVGA X サーバを実行できます。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Red Hat Linux 9.0 CD-ROM を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Red Hat Linux 9.0 のインストールを開始します。

Red Hat Linux 9.0 のインストールには、テキスト モードのインストーラを使用し ます。これは、インストーラの最初の起動時に選択できます。Red Hat Linux 9.0 CD ブート プロンプトに、次のような選択肢が表示されます。

To install or upgrade Red Hat Linux ... in graphical mode ... To install or upgrade ... in text mode, type:linux text <ENTER>. Use the function keys listed below ...

テキストモードのインストーラを選択するには、linux text と入力してから <Enter> キーを押します。

注意 グラフィカルインストーラを使用しようとしても起動できないため、代わりにテキストモードのインストーラが起動します。

- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 言語およびキーボードを選択します。
- 5 [Mouse Selection] 画面で、[Generic 3 Button Mouse (PS/2)] を選択してから [Emulate 3 Buttons] オプションを選択すれば、仮想マシンが 3 ボタン マウスをサ ポートするようになります。ホイール マウスを使用している場合は、[Generic Wheel Mouse (PS/2)] を選択することもできます。
- 6 [Installation Type] 画面で、インストールの種類として [Server] か [Workstation] の いずれかを選択します。
- 7 [Automatic Partitioning] 画面で、ディスクの自動パーティショニングを許可します。Red Hat のデフォルトを使用しない場合は、手動で仮想ディスクのパーティショニングを行うこともできます。
- 8 次のような警告が表示されることがあります。

Bad partition table.The partition table on device sda is corrupted.To create new partitions, it must be initialized, causing the loss of ALL DATA on the drive.

この警告が表示されても、物理コンピュータのハードドライブに問題が発生しているわけではありません。仮想マシンの仮想ハードドライブに対してパーティショニングおよびフォーマットを行う必要があると警告しているだけです。 [Initialize] ボタンを選択してから <Enter> キーを押します。該当する仮想ディスクが SCSI ディスクの場合、警告メッセージ文にはデバイス名として sda が表示されます。仮想ディスクが IDE ドライブの場合、代わりにデバイス名 hda が表示されます。

- 9 使用中のコンピュータが DHCP に対応した LAN に接続されている場合は、 [Network Configuration] 画面から [Use bootp/dhcp] オプションを選択することが できます。また、ネットワーク パラメータを手動で設定することもできます。
- 10 [Video Card Configuration] 画面で、[Skip X Configuration] を選択します。

これでゲスト OS としての Red Hat Linux 9.0 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

注意 VMware Tools のインストール中に、ゲスト OS のディスプレイに使用する解像度を指定するように求められますが、解像度は 1152 x 864 以下に設定します。これより高い 解像度に設定すると、ゲスト OS によってデフォルトの解像度 (800 x 600) に切り替えられます。

Red Hat Linux 8.0

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Red Hat Linux 8.0 は、標準の Red Hat ディストリビューション CD を使用して仮想マシ ンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリビュー ション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッピーま たはネットワークから Red Hat Linux 8.0 をインストールすることもできます。ご使用 の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインス トールすることもできます。

Red Hat Linux 8.0 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Red Hat Linux 8.0 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- Red Hat Linux 8.0 のセットアップ時に X サーバがインストールされますが、これ は実行しないでください。代わりに、Red Hat Linux 8.0 のインストール完了後、 ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。これで、仮想マシン 内でアクセラレータ機能付き SVGA X サーバを実行できます。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Red Hat Linux 8.0 CD-ROM を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Red Hat Linux 8.0 のインストールを開始します。

Red Hat Linux 8.0 のインストールには、テキスト モードのインストーラを使用します。これは、インストーラの最初の起動時に選択できます。Red Hat Linux 8.0 CD ブート プロンプトに、次のような選択肢が表示されます。

To install or upgrade Red Hat Linux ... in graphical mode ... To install or upgrade ... in text mode, type:linux text <ENTER>. Use the function keys listed below ...

テキストモードのインストーラを選択するには、linux text と入力してから <Enter> キーを押します。

注意 グラフィカルインストーラを使用しようとしても起動できないため、代わりにテキストモードのインストーラが起動します。

- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。
- 4 言語およびキーボードを選択します。次に、[Installation Type] 画面で、インストールの種類として [Server] または [Workstation] のいずれかを選択します。
- 5 [Mouse Selection] 画面で、[Generic 3 Button Mouse (PS/2)] を選択してから [Emulate 3 Buttons] オプションを選択すれば、仮想マシンが 3 ボタン マウスをサ ポートするようになります。ホイール マウスを使用している場合は、[Generic Wheel Mouse (PS/2)] を選択することもできます。
- 6 次のような警告が表示されることがあります。

Bad partition table.The partition table on device sda is corrupted.To create new partitions, it must be initialized, causing the loss of ALL DATA on the drive.

この警告が表示されても、物理コンピュータのハードドライブに問題が発生し ているわけではありません。仮想マシンの仮想ハードドライブに対してパー ティショニングおよびフォーマットを行う必要があると警告しているだけです。 [Initialize] ボタンを選択してから <Enter> キーを押します。該当する仮想ディス クが SCSI ディスクの場合、警告メッセージ文にはデバイス名として sda が表示 されます。仮想ディスクが IDE ドライブの場合、代わりにデバイス名 hda が表示 されます。

- 7 [Automatic Partitioning] 画面で、ディスクの自動パーティショニングを許可します。Red Hat のデフォルトを使用しない場合は、手動で仮想ディスクのパーティショニングを行うこともできます。
- 8 使用中のコンピュータが DHCP に対応した LAN に接続されている場合は、 [Network Configuration] 画面から [Use bootp/dhcp] オプションを選択することが できます。また、ネットワーク パラメータを手動で設定することもできます。
- 9 [Video Card Configuration] 画面で、[Skip X Configuration] を選択します。

これでゲスト OS としての Red Hat Linux 8.0 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。
Red Hat Linux 7.3

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Red Hat Linux 7.3 は、標準の Red Hat ディストリビューション CD を使用して仮想マシ ンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリビュー ション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッピーま たはネットワークから Red Hat Linux 7.3 をインストールすることもできます。ご使用 の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインス トールすることもできます。

Red Hat Linux 7.3 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Red Hat Linux 7.3 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- Red Hat Linux 7.3 のセットアップ時に X サーバがインストールされますが、これ は実行しないでください。代わりに、Red Hat Linux 7.3 のインストール完了後、 ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。これで、仮想マシン 内でアクセラレータ機能付き SVGA X サーバを実行できます。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Red Hat Linux 7.3 CD-ROM を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Red Hat Linux 7.3 のインストールを開始します。

Red Hat Linux 7.3 のインストールには、テキスト モードのインストーラを使用します。これは、インストーラの最初の起動時に選択できます。Red Hat Linux 7.3 CD ブート プロンプトに、次のような選択肢が表示されます。

To install or upgrade a system ... in graphical mode ... To install or upgrade a system ... in text mode, type:text <ENTER>. To enable expert mode, ... Use the function keys listed below ...

テキスト モードのインストーラを選択するには、text と入力してから <Enter> キーを押します。

3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。

- 4 [Mouse Selection] 画面で、[Generic 3 Button Mouse (PS/2)] を選択してから [Emulate 3 Buttons] オプションを選択すれば、仮想マシンが 3 ボタン マウスをサ ポートするようになります。
- 5 言語およびキーボードを選択します。次に、[Installation Type] 画面で、インストールの種類として [Server] または [Workstation] のいずれかを選択します。
- 6 次のような警告が表示されることがあります。

Bad partition table.The partition table on device sda is corrupted.To create new partitions, it must be initialized, causing the loss of ALL DATA on the drive.

この警告が表示されても、物理コンピュータのハードドライブに問題が発生しているわけではありません。仮想マシンの仮想ハードドライブに対してパーティショニングおよびフォーマットを行う必要があると警告しているだけです。 [Initialize] ボタンを選択してから <Enter> キーを押します。該当する仮想ディスクが SCSI ディスクの場合、警告メッセージ文にはデバイス名として sda が表示されます。仮想ディスクが IDE ドライブの場合、代わりにデバイス名 hda が表示されます。

- 7 [Automatic Partitioning] 画面で、ディスクの自動パーティショニングを許可しま す。
- 8 使用中のコンピュータが DHCP に対応した LAN に接続されている場合は、 [Network Configuration] 画面から [Use bootp/dhcp] オプションを選択することが できます。また、ネットワーク パラメータを手動で設定することもできます。
- 9 [Video Card Selection] 画面で、任意のカードを一覧から選択します。
- 10 [Video Card Configuration] 画面で、[Skip X Configuration] を選択します。

これでゲスト OS としての Red Hat Linux 7.3 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

VMware Tools をインストールするまでは、ゲスト OS で X サーバを起動しないでくだ さい。

Red Hat Linux 7.2

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Red Hat Linux 7.2 は、標準の Red Hat ディストリビューション CD を使用して仮想マシ ンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリビュー ション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッピーま たはネットワークから Red Hat Linux 7.2 をインストールすることもできます。ご使用 の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインス トールすることもできます。

Red Hat Linux 7.2 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Red Hat Linux 7.2 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- Red Hat Linux 7.2 のセットアップ時に X サーバがインストールされますが、これ は実行しないでください。代わりに、Red Hat Linux 7.2 のインストール完了後、 ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。これで、仮想マシン 内でアクセラレータ機能付き SVGA X サーバを実行できます。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Red Hat Linux 7.2 CD-ROM を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Red Hat Linux 7.2 のインストールを開始します。

Red Hat Linux 7.2 のインストールには、テキスト モードのインストーラを使用します。これは、インストーラの最初の起動時に選択できます。Red Hat Linux 7.2 CD ブート プロンプトに、次のような選択肢が表示されます。

To install or upgrade a system ... in graphical mode ... To install or upgrade a system ... in text mode, type:text <ENTER>. To enable expert mode, ... Use the function keys listed below ...

テキスト モードのインストーラを選択するには、**text** と入力してから <Enter> キーを押します。

3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。 4 言語およびキーボードを選択します。次に、[Installation Type] 画面で、インストールの種類として [Server] または [Workstation] のいずれかを選択します。

次のような警告が表示されます。

Bad partition table.The partition table on device sda is corrupted.To create new partitions, it must be initialized, causing the loss of ALL DATA on the drive.

この警告が表示されても、物理コンピュータのハードドライブに問題が発生しているわけではありません。仮想マシンの仮想ハードドライブに対してパー ティショニングおよびフォーマットを行う必要があると警告しているだけです。 [Initialize] ボタンをクリックしてから <Enter> キーを押します。該当する仮想 ディスクが SCSI ディスクの場合、警告メッセージ文にはデバイス名として sda が表示されます。仮想ディスクが IDE ドライブの場合、代わりにデバイス名 hda が表示されます。

- 5 [Automatic Partitioning] 画面で、ディスクの自動パーティショニングを許可します。
- 6 使用中のコンピュータが DHCP に対応した LAN に接続されている場合は、 [Network Configuration] 画面から [Use bootp/dhcp] オプションを選択することが できます。また、ネットワーク パラメータを手動で設定することもできます。
- 7 [Mouse Selection] 画面で、[Generic 3 Button Mouse (PS/2)] を選択してから [Emulate 3 Buttons] オプションを選択すれば、仮想マシンが 3 ボタン マウスをサ ポートするようになります。
- 8 [Video Card Selection] 画面で、デフォルト値を使用します。
- 9 Xサーバの構成は、デフォルト値を使用してできるだけ素早く処理を終わらせて も問題ありません。ここでインストールされるXサーバは、仮想マシンに VMware Tools をインストールした時点で、ゲスト OS に適したXサーバに置き換 えられます。
- [Starting X] 画面に進んだら、[Skip] ボタンをクリックして構成のテストを省略し ます。

これでゲスト OS としての Red Hat Linux 7.2 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

VMware Tools のインストールを完了するまでは、Xを起動しないでください。

Red Hat Linux 7.1

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Red Hat Linux 7.1 は、標準の Red Hat ディストリビューション CD を使用して仮想マシ ンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリビュー ション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッピーま たはネットワークから Red Hat Linux 7.1 をインストールすることもできます。ご使用 の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインス トールすることもできます。

Red Hat Linux 7.1 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Red Hat Linux 7.1 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- Red Hat Linux 7.1 のセットアップ時に X サーバがインストールされますが、これ は実行しないでください。代わりに、Red Hat Linux 7.1 のインストール完了後、 ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。これで、仮想マシン 内でアクセラレータ機能付き SVGA X サーバを実行できます。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Red Hat Linux 7.1 CD-ROM を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Red Hat Linux 7.1 のインストールを開始します。

Red Hat Linux 7.1 のインストールには、テキスト モードのインストーラを使用します。これは、インストーラの最初の起動時に選択できます。Red Hat Linux 7.1 CD ブート プロンプトに、次のような選択肢が表示されます。

To install or upgrade a system ... in graphical mode ... To install or upgrade a system ... in text mode, type:text <ENTER>. To enable expert mode, ... Use the function keys listed below ...

テキスト モードのインストーラを選択するには、**text** と入力してから <Enter> キーを押します。

3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。 4 言語およびキーボードを選択します。次に、[Installation Type] 画面で、インストールの種類として [Server] または [Workstation] のいずれかを選択します。

次のような警告が表示されます。

Bad partition table.The partition table on device sda is corrupted.To create new partitions, it must be initialized, causing the loss of ALL DATA on the drive.

この警告が表示されても、物理コンピュータのハードドライブに問題が発生しているわけではありません。仮想マシンの仮想ハードドライブに対してパー ティショニングおよびフォーマットを行う必要があると警告しているだけです。 [Initialize] ボタンをクリックしてから <Enter> キーを押します。該当する仮想 ディスクが SCSI ディスクの場合、警告メッセージ文にはデバイス名として sda が表示されます。仮想ディスクが IDE ドライブの場合、代わりにデバイス名 hda が表示されます。

- 5 [Automatic Partitioning] 画面で、ディスクの自動パーティショニングを許可します。
- 6 使用中のコンピュータが DHCP に対応した LAN に接続されている場合は、 [Network Configuration] 画面から [Use bootp/dhcp] オプションを選択することが できます。また、ネットワーク パラメータを手動で設定することもできます。
- 7 [Mouse Selection] 画面で、[Generic 3 Button Mouse (PS/2)] を選択してから [Emulate 3 Buttons] オプションを選択すれば、仮想マシンが 3 ボタン マウスをサ ポートするようになります。
- 8 [Video Card Selection] 画面で、デフォルト値を使用します。
- 9 Xサーバの構成は、デフォルト値を使用してできるだけ素早く処理を終わらせて も問題ありません。ここでインストールされるXサーバは、仮想マシンに VMware Tools をインストールした時点で、ゲスト OS に適したXサーバに置き換 えられます。
- [Starting X] 画面に進んだら、[Skip] ボタンをクリックして構成のテストを省略し ます。

これでゲスト OS としての Red Hat Linux 7.1 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

VMware Tools のインストールを完了するまでは、Xを起動しないでください。

Red Hat Linux 7.0

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Red Hat Linux 7.0 は、標準の Red Hat ディストリビューション CD を使用して仮想マシ ンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリビュー ション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッピーま たはネットワークから Red Hat Linux 7.0 をインストールすることもできます。ご使用 の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインス トールすることもできます。

Red Hat Linux 7.0 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Red Hat Linux 7.0 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- テキストモードで Red Hat Linux 7.0 をインストールすると、標準の XFree86 v.4 サーバ (VMware SVGA または標準 VGA を未サポート) がインストールされます。 この X サーバは実行しないでください。代わりに、Red Hat Linux 7.0 のインス トール完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。これ で、仮想マシン内でアクセラレータ機能付き SVGA X サーバを実行できます。
- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Red Hat Linux 7.0 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Red Hat Linux 7.0 のインストールを開始します。

インストールは、テキスト モードのインストーラを使用することをお勧めしま す。Red Hat 7.0 CD ブート プロンプトに、次のような選択肢が表示されます。

To install or upgrade a system ... in graphical mode ... To install or upgrade a system ... in text mode, type:text <ENTER>. To enable expert mode, ... Use the function keys listed below ...

テキスト モードのインストーラを選択するには、text と入力してから <Enter> キーを押します。

3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。次の手順では 必ず指示どおりの選択を行なってください。

- 4 [Video Card Selection] 画面で、[Generic VGA compatible] を選択し、[OK] をクリックします。
- 5 インストールの最後の方で、ファイルのコピーが完了したあとに [Monitor Setup] 画面が表示されます。[Generic Standard VGA, 640x480@60 Hz] を選択し、[OK] を クリックします。
- 6 [Video Memory] 画面で、[256Kb] を選択し、[OK] をクリックします。
- [Clockchip Configuration] 画面で、デフォルトの [No Clockchip Setting (recommended)] (このオプションを推奨)を選択し、[OK] をクリックします。
- 8 [Probe for Clocks] 画面で、[Skip] をクリックします。
- 9 [Select Video Modes] 画面で、何も選択せず、[OK] をクリックします。
- 10 [Starting X] 画面で、[Skip] をクリックします。

注意 これは最も重要なプロセスです。[OK] をクリックすると、XFree86 バージョン4 サーバを実行しますが、最終的には実行に失敗し、インストーラが中断します。

これでゲスト OS としての Red Hat Linux 7.0 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

注意 Red Hat Linux 7.0 ゲストでは、Linux コンソールから VMware Tools をインストールしてください。VMware Tools のインストールを完了するまでは、X を起動しないでください。

Red Hat Linux 6.2

このゲストOSをインストールする前に、「VMware製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Red Hat Linux 6.2 は、標準の Red Hat ディストリビューション CD を使用して仮想マシ ンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリビュー ション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッピーま たはネットワークから Red Hat Linux 6.2 をインストールすることもできます。

Red Hat Linux 6.2 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Red Hat Linux 6.2 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- Red Hat Linux 6.x をインストールすると、標準の VGA16 X サーバ (VMware X サーバを未サポート) がインストールされます。仮想マシン内でアクセラレータ 機能付き SVGA X サーバを実行するには、Red Hat Linux 6.x のインストール完了 後、ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。
- グラフィックモードのインストーラを使用して、Red Hat 6.2 をインストールした場合の VGA パフォーマンスを考慮すると、テキストモードのインストーラを使用してインストールすることを強く推奨します。Red Hat 6.0.1 または 6.2 CD ブートプロンプトに、次のような選択肢が表示されます。

To install or upgrade a system ... in graphical mode ... To install or upgrade a system ... in text mode, type:text <ENTER>. To enable expert mode, ... Use the function keys listed below ...

テキスト モードのインストーラを選択するには、**text** と入力してから <Enter> キーを押します。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

▼ 要注意 Red Hat Linux 6.2 は Intel コア プロセッサ上で稼動します。ただし、限定詞の付いていない Xeon ブランドまたは Xeon-MP ブランドの Xeon プロセッサ上では稼動しません (Pentium III Xeon プロセッサでは稼動します)。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Red Hat Linux 6.2 インストール CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Red Hat Linux 6.2 のインストールを開始します。

インストールは、テキスト モードのインストーラを使用することをお勧めしま す。Red Hat 6.2 CD ブート プロンプトに、次のような選択肢が表示されます。

To install or upgrade a system ... in graphical mode ... To install or upgrade a system ... in text mode, type:text <ENTER>. To enable expert mode, ... Use the function keys listed below ...

テキスト モードのインストーラを選択するには、**text** と入力してから <Enter> キーを押します。

- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。
- **注意** 仮想マシンのイーサネット アダプタが有効になっている場合、インストールプ ログラムが AMD PC/Net 32 ドライバを自動的に検出してロードします(ドライ バのロードに、コマンドラインのパラメータの指定は不必要)。
- 注意 Red Hat Linux 6.2 でテキスト モードのインストーラを使用すると、[Hostname Configuration] 画面が表示されます。ホストオンリーネットワークを使用する仮 想マシンに、DHCP を使用してこのゲストをインストールする場合、ホスト名は 指定しないでください。単に [OK] をクリックして処理を続行します。ここでホ スト名を指定すると、あとでインストーラ中にエラーが発生します。次の画面 ([Network Configuration] 画面) で、[OK] を選択してデフォルトの [Use bootp/dhcp] を使用します。
 - 4 Linuxのインストール時に、標準のVGA16Xサーバを選択しします。
 - 5 [Choose a Card] 画面で、リストから [Generic VGA compatible/Generic VGA] カードを選択します。
 - 6 [Monitor Setup] 画面で、リストから [Generic Monitor] を選択します。
 - 7 [Screen Configuration] ダイアログボックスで、[Probe] ボタンを選択します。
 - 8 [Starting X] ダイアログボックスで、[OK] を選択します。Linux のインストール完 了後に VMware Tools をインストールすると、一般的な X サーバの代わりに VMware Tools が提供するアクセラレータ機能付き X サーバがインストールされ ます。

9 Red Hat Linux 6.2 の残りのインストール手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

この時点で、Red Hat 6.2 が起動し、ログイン画面が表示されます。

これでゲスト OS としての Red Hat Linux 7.0 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

Sun Java Desktop System 2

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Sun Java Desktop System 2 は、標準の Sun Java Desktop System ディストリビューショ ン CD を使用して仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここで は、標準のディストリビューション CD を使用したインストールの手順を説明しま す。ただし、起動フロッピーまたはネットワークから Sun Java Desktop System 2 をイ ンストールすることもできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされ ている場合は、PXE サーバからインストールすることもできます。

Sun Java Desktop System 2 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Sun Java Desktop System 2 インストール CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Sun Java Desktop System 2 のインストールを開始 します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

これでゲスト OS としての Sun Java Desktop System 2 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

SCO OpenServer 5.0

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

標準のディストリビューション CD、起動フロッピー、ネットワーク方式を使用し て、SCO OpenServer 5.0 を仮想マシンにインストールできます。ご使用の VMware 製 品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストールすること もできます。

SCO OpenServer 5.0 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

SCO OpenServer 5.0 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- 仮想ディスクの推奨
 - 最小値:SCO OpenServer 5.0 のルート ディスクに 1.5GiB。
 - biosgeom 起動文字列:1~64GiBのSCSIドライブで必要(ほかのドライブ サイズにも悪影響を及ぼさない)。
 - IDE 仮想ディスク:パフォーマンスと信頼性を向上させるための SCO BTLD (wd 起動時読み込み可能ドライバ)。
 - ドライブサイズの特殊な考慮事項:
 - OpenServer 5.0.7:128GiB(137GB)以上の IDE ディスクには wd BTLD が 必要。
 - OpenServer 5.0.6:128 GiB 以上の IDE ディスクでは使用できない。
- サポート対象の仮想ディスク
 - BusLogic SCSI: SCO blc BTLD 3.05.1 以降が必要。
 - LSI SCSI: SCO Isil BTLD 1.03.28 以降が必要。
 - LSI SAS: LSI Logic Isil BTLD 1.04.09 以降が必要。
 - IDE:
 - 128GiB 未満: BTLD が不要。
 - 128GiB以上: 5.0.7のみ。SCO≯wd & BTLDが必要。

ダウンロード可能ドライバ

ベースの SCO OpenServer 5.0 ディストリビューションには、適切な NIC ドライバ および HBA ドライバが含まれていないため、インターネット経由でダウンロー ドする必要があります。

SCO Intel PRO/1000 ネットワーク アダプタ ドライバ (eeG ドライバを検索)。

ftp://ftp.sco.com/pub/openserver5/drivers/

■ SCO IDE BTLD (次の SCO FTP Web サイトに存在)

ftp://ftp.sco.com/pub/openserver5/507/drivers/wd_3.0/

- SCO BusLogic BTLD 3.05.1 (次の SCO FTP Web サイトに存在) ftp://ftp.sco.com/pub/openserver5/507/drivers/blc_3.05.1/
- SCO LSI Logic BTLD 1.03.28 (次の SCO FTP Web サイトに存在)

ftp://ftp.sco.com/pub/openserver5/507/drivers/lsil_1.03.28/

■ LSI Logic LSISAS BTLD 1.04.09 (次の LSI Logic Web サイトに存在)

http://www.lsi.com/DistributionSystem/AssetDocument/files/support/ssp/fu sionmpt/SCO/SCO_op5_mpt_lsil_10409.zip

http://www.lsi.com/DistributionSystem/AssetDocument/files/support/ssp/fu sionmpt/sas/linux/scounix_10409.txt

注意 ESX が認識できるようにするために、フロッピー イメージの名前を変更して.flp 拡張子をつける必要があります。LSI Web サイト上のフロッピー イメージの場所は固定ではありません。ここで示したアドレスでフロッピー イメージが見つからなかった場合は、LSI 社の担当者にご連絡ください。

インストールの手順

SCO OpenServer 5.0.6 と 5.0.7-MP5 とでは、インストールの手順に若干の違いがあります。次の手順でその違いについて記載しています。

- CD-ROM ドライブに、SCO-OSR506-InstallCD (5.0.6 用) または SCO-OSR507-InstallCD (5.0.7 用) を挿入します。あるいは、フロッピー ドライブ に、SCO-OSR506-BootDisk (5.0.6 用) または SCO-OSR507-BootDisk (5.0.7 用) を 挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、SCO OpenServer 5.0.6 または 5.0.7 のインストール を開始します。

- 次の起動文字列のうち、いずれか1つを入力して適切な SCSI ドライバをインストールします。
 - 128GiB (137GB) 未満の IDE ディスク
 必要な起動文字列はありません。
 Enter> キーを押します。
 - 128GiB (137GB) 以上の IDE ディスク (5.0.7 のみ)

restart link="wd"

ドライバを置き換えるように求められた場合、「r」を入力します。

Buslogic

restart link="blc" biosgeom

ドライバを置き換えるように求められた場合、「r」を入力します。

■ LSI Logic SCSI または SAS

restart link="lsil" biosgeom

- 4 プロンプトが表示されたら、適切なインストールディスクを挿入します。
- 5 使用許諾契約書に目を通し、同意します。
- 6 CD-ROM の種類と、コントローラおよびドライブ構成はデフォルトを使用します。

Open Server 5.0 のインストールで、ドライブの種類とその構成のデフォルトが確認されます。

- 7 プロンプトに従ってインストールを続行します。
- 8 不良ブロックのスキャンをオフにします。IDE ディスクの場合、デフォルトでオンになっています。

不良ブロックのスキャンは、仮想ディスクでは必要ありません。

- 9 マウスの選択では、<h>キーを押して High Resolution Keyboard Mouse を指定し ます。
- 10 残りのインストール手順に従って、インストールを完了します。

Maintenance Pack 5 のインストール

Open Server 5.0.7 をインストールしたあと、Maintenance Pack 5 (MP5) をインストールします。

- 1 OpenServer 5.0.7 ゲストをパワーオンします。
- 2 インストール中に biosgeom を使用した場合は、defbootstr biosgeom コマン ドを使用してゲストを起動します。
- 3 CD-ROM ドライブに SCO-OSR507-SuppCD5 CD を挿入します。
- 4 Software Manager を使用して MP5 をインストールします。

注意 MP5 をインストールしたあと、通常、**biosgeom** を使用せずに仮想マシンが再起動されます。

これで、ゲスト OS としての OpenServer 5.0 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

SCO OpenServer 5.0 をサポートしている VMware Tools のバージョンはありません。

SCO UnixWare 7

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

標準のディストリビューション CD、起動フロッピー、ネットワーク方式を使用して、SCO UnixWare 7 を仮想マシンにインストールできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストールすることもできます。

SCO UnixWare 7 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

SCO UnixWare 7 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 SCO UnixWare 7 は、CPU 仮想化ハードウェアがない場合には実行速度が極めて 遅くなります。ネイティブパフォーマンスに近づけるためには、ネストページ テーブルをホストがサポートしている必要があります。これは、AMD Barcelona およびそれ以降の RVI (Rapid Virtualization Indexing)機能を持つ CPU、ならびに Intel Nehalem およびそれ以降の EPT (Extended Page Tables)機能を持つ CPU で 見られます。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに SCO UnixWare 7.1.1 または 7.1.4 の起動 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、SCO UnixWare 7 のインストールを開始します。
- 3 SCSI アダプタに LSILOGIC/ LSISAS を選択した場合は、[Install HBA disk] を選択しま す。
- 4 HBA ディスクを挿入します。

これでゲスト OS としての SCO UnixWare 7 の基本インストールが完了です。

SCO UnixWare メンテナンス パックのインストール

ゲスト OS のインストール後、SCO の指示に従って UnixWare 7.1.1 Maintenance Pack 5 (MP5) または UnixWare 7.1.4 Maintenance Pack 4 (MP4) と、パッチ p535283 をインストールします。

Maintenance Packは、それぞれ次の場所にあります。

- UnixWare 7.1.1 MP5 : ftp://ftp.sco.com/pub/unixware7/uw711pk
- UnixWare 7.1.4 MP4 : ftp://ftp.sco.com/pub/unixware7/714/mp/uw714mp4/

ゲストで1つ以上の仮想 CPU を使用している場合、OSMP(OS Multiprocessor Support)パッケージをインストールします。OSMP は自動的にはインストールされ ません。追加の CPU ごとに、SCO CPU ライセンスが必要です。たとえば、仮想 CPU を4つ使用している場合、オペレーティングシステム ライセンス1つと CPU ライセ ンス3つが必要です。

SMP のインストールと構成

SCOのマニュアルに従って、OSMPと必要なライセンスをインストールします。

VMware Tools

SCO UnixWare をサポートしている VMware Tools のバージョンはありません。

SUSE Linux Enterprise Desktop 11

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

SUSE Linux Enterprise Desktop 11 は、標準の SUSE ディストリビューション CD を使用 して仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディ ストリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動 フロッピーまたはネットワークから SUSE Linux Enterprise Desktop 11 をインストール することもできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合 は、PXE サーバからインストールすることもできます。

SUSE Linux Enterprise Desktop 11 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

SUSE Linux Enterprise Desktop 11 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに SUSE Linux Enterprise Desktop 11 インストール CD を挿入し ます。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、SUSE Linux Enterprise Desktop 11 のインストール を開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

これでゲスト OS としての SUSE Linux Enterprise Desktop 11 の基本インストールが完 了です。

VMware Tools

SUSE Linux Enterprise Desktop 10

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

SUSE Linux Enterprise Desktop 10 は、標準の SUSE ディストリビューション CD を使用 して仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディ ストリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動 フロッピーまたはネットワークから SUSE Linux Enterprise Desktop 10 をインストール することもできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合 は、PXE サーバからインストールすることもできます。

SUSE Linux Enterprise Desktop 10 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

SUSE Linux Enterprise Desktop 10 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに SUSE Linux Enterprise Desktop 10 インストール CD を挿入し ます。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、SUSE Linux Enterprise Desktop 10 のインストール を開始します。
- 3 テキストモードのインストーラを使用してインストールします。テキストモードのインストーラを選択するには、最初のインストール画面で、カーソルキーを使用して [Installation]を選択します。次に、<F2>キーを押してからカーソルキーを使用して [テキストモード]を選択し、<Enter>キーを押します。
- 4 [Installation Settings] 画面では、[Change] メニューから [Booting] を選択します。
- 5 [Boot Loader Setup] 画面が表示されます。[Boot Loader Type] をデフォルトの [GRUB] ではなく、[LILO] に設定します。
- 6 一部の設定が失われる可能性があることを示す警告が表示され、次に実行する処理を選択するように求められます。[Convert current configuration]を選択し、処理を続行します。
- 7 [Finish] を選択し、[Installation Settings] 画面に戻ります。

8 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

これでゲスト OS としての SUSE Linux Enterprise Desktop 10 の基本インストールが完 了です。

VMware Tools

SUSE Linux Enterprise Server 11

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

SUSE Linux Enterprise Server 11 は、標準の SUSE ディストリビューション CD を使用し て仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディス トリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フ ロッピーまたはネットワークから SUSE Linux Enterprise Server 11 をインストールする こともできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、 PXE サーバからインストールすることもできます。

SUSE Linux Enterprise Server 11 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

SUSE Linux Enterprise Server 11 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討 してください。

このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに SUSE Linux Enterprise Server 11 インストール CD を挿入しま す。
- 仮想マシンをパワーオンして、SUSE Linux Enterprise Server 11 のインストールを 開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

これでゲスト OS としての SUSE Linux Enterprise Server 11 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

SUSE Linux Enterprise Server 10

このゲストOSをインストールする前に、「VMware製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

SUSE Linux Enterprise Server 10 は、標準のディストリビューション CD を使用して仮 想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ただし、起動フロッピーまた はネットワークから Linux Enterprise Server 10 をインストールすることもできます。 ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからイ ンストールすることもできます。

SUSE Linux Enterprise Server 10 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

- 新規仮想マシンを作成し、構成する。
- ESX Server 上に Novell Open Enterprise Server がある SUSE Linux Enterprise Server 10 に仮想マシンを作成する場合、ゲスト OS に [Linux] を選択し、バージョンに [Open Enterprise Server] を選択する。

SUSE Linux Enterprise Server 10 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに SUSE Linux Enterprise Server 10 インストール CD を挿入します。
- 仮想マシンをパワーオンして、SUSE Linux Enterprise Server 10 のインストールを 開始します。
- 3 テキストモードのインストーラを使用してインストールします。テキストモードのインストーラを選択するには、最初のインストール画面でカーソルキーを使用して [Installation]を選択します。起動オプションとして textmode=1 と入力し、<Enter>キーを押します。
- 4 [Installation Settings] 画面では、[Change] メニューから [Booting] を選択します。
 [Boot Loader Setup] 画面が表示されます。
- 5 [Boot Loader Type] を [GRUB] に設定します。
- 6 一部の設定が失われる可能性があることを示す警告が表示され、次に実行する処理を選択するように求められます。[Convert current configuration]を選択し、処理を続行します。

7 [Finish] を選択し、[Installation Settings] 画面に戻ります。

8 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

これでゲスト OS としての SUSE Linux Enterprise Server 10 の基本インストールが完了 です。

VMware Tools

SUSE Linux Enterprise Server 9

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

SUSE Linux Enterprise Server 9は、標準のディストリビューション CD を使用して仮想 マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ただし、起動フロッピーまたは ネットワークから SUSE Linux Enterprise Server 9をインストールすることもできます。 ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからイ ンストールすることもできます。

SUSE Linux Enterprise Server 9 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

- 新規仮想マシンを作成し、構成する。
- ESX Server 上に Novell Open Enterprise Server がある SUSE Linux Enterprise Server 9に仮想マシンを作成する場合、ゲスト OS に [Linux] を選択し、バージョンに [Open Enterprise Server] を選択する。

SUSE Linux Enterprise Server 9 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討 してください。

 ESX Server 3.x および 4.x 上にある、4GB を超えるメモリが構成された SUSE Linux Enterprise Server 9 仮想マシンでは、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタのみがサポート されています。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに SLES 9 インストール CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、SLES9のインストールを開始します。
- 3 テキストモードのインストーラを使用してインストールします。テキストモードのインストーラを選択するには、最初のインストール画面でカーソルキーを使用して [Installation]を選択します。起動オプションとして textmode=1 と入力し、<Enter>キーを押します。
- 4 [Installation Settings] 画面では、[Change] メニューから [Booting] を選択します。
 [Boot Loader Setup] 画面が表示されます。
- 5 [Boot Loader Type] を [GRUB] に設定します。
- 6 一部の設定が失われる可能性があることを示す警告が表示され、次に実行する処理を選択するように求められます。[Convert current configuration]を選択し、処理を続行します。
- 7 [Finish] を選択し、[Installation Settings] 画面に戻ります。

務りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。
 これでゲスト OS としての SLES 9 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

SUSE Linux Enterprise Server 8

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

SUSE Linux Enterprise Server 8 は、標準の SUSE ディストリビューション CD を使用し て仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディス トリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フ ロッピーまたはネットワークから SUSE Linux Enterprise Server 8 をインストールする こともできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、 PXE サーバからインストールすることもできます。

SUSE Linux Enterprise Server 8 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

SUSE Linux Enterprise Server 8 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

ESX Server 2.5.x 上の SUSE Linux Enterprise Server 8 仮想マシンでは、BusLogic 仮想 SCSI アダプタのみがサポートされています。ESX Server 3.x および 4.x 上の SUSE Linux Enterprise Server 8 仮想マシンでは、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタがサポートされています。ESX Server 3.x および 4.x 上にある、4GB を超えるメモリが 構成された SUSE Linux Enterprise Server 8 仮想マシンでは、LSI Logic 仮想 SCSI ア ダプタのみがサポートされています。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに SLES 8 インストール CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、SLES 8 のインストールを開始します。
- 3 次の手順で説明している選択画面が表示されるまで、物理マシンの場合と同じように、画面の指示に従ってインストールを実行します。
- 4 インストールの途中でインストーラが仮想マシンを再起動します。[LILO] 画面 で、デフォルト値の linux を使用して起動処理を続行します。
- 5 [Desktop Settings] 画面で、[640x480 256 colors] を選択します。
- 6 SLES 8 の残りのインストール手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同 じです。

これでゲスト OS としての SLES 8 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

SUSE Linux Enterprise Server 7

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

SLES 7 (SUSE Linux Enterprise Server 7) は、標準の SUSE ディストリビューション CD を使用して仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準 のディストリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただ し、起動フロッピーまたはネットワークから SLES 7 をインストールすることもでき ます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバ からインストールすることもできます。

SUSE Linux Enterprise Server 7 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

SUSE Linux Enterprise Server 7 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

SUSE Linux Enterprise Server 7 をインストールすると、標準の16 色 VGA の X サーバがインストールされます。仮想マシン内でアクセラレータ機能付き SVGA X サーバを実行するには、SUSE Linux Enterprise Server 7 のインストール完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに SLES 7 インストール CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、SLES 7 のインストールを開始します。
- 3 次の手順で説明している選択画面が表示されるまで、物理マシンの場合と同じように、画面の指示に従ってインストールを実行します。
- 4 インストールの途中でインストーラが仮想マシンを再起動します。[LILO] 画面 で、デフォルト値の linux を使用して起動処理を続行します。
- 5 [Desktop Settings] 画面で、[640x480 256 colors] を選択します。
- 6 SLES 7 の残りのインストール手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同 じです。

これでゲスト OS としての SLES 7 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

Open SUSE Linux 11.1

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Open SUSE Linux 11.1 は、標準の Open SUSE Linux ディストリビューション CD を使 用して仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準の ディストリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、 起動フロッピーまたはネットワークから Open SUSE Linux 11.1 をインストールするこ ともできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、 PXE サーバからインストールすることもできます。

Open SUSE Linux 11.1 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Open SUSE Linux 11.1 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Open SUSE Linux 11.1 インストール CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Open SUSE Linux 11.1 のインストールを開始しま す。
- 3 テキストモードのインストーラを使用してインストールします。テキストモードのインストーラを選択するには、最初のインストール画面で、<F3>キーを押して起動オプションを表示します。次に、<F3>キーを再度押してからカーソルキーを使用して[テキストモード]を選択し、<Enter>キーを押します。
- 4 VMware Tools のインストーラが SUSE Linux 11 向けのモジュールをコンパイルで きるように、gcc とカーネル ソースを必ずインストールします。

[Installation Settings] 画面で、[Change] を選択してから [Software] を選択します。 次に、[Filter] メニューから [RPM Groups] を選択します。[Development] グループ を選択し、<Enter> キーを押すとリストが表示されます。[gcc]、[gcc-c++]、お よび [kernel-source] をリストで反転表示させてからスペースバーを押してこれら の項目を追加します。

5 最終構成プロセスで、すべてのパッケージがインストールされたあと [Test Internet Connection] 画面が表示されますが、ここではインターネット接続テス トは実行しないでください。 6 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

これでゲスト OS としての Open SUSE Linux 11.1 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

OpenSUSE 11.1 ディストリビューションが提供する **open-vm-tools** をアンインス トールするには、ナレッジベースの記事(http://kb.vmware.com/kb/1013096)を参 照してください。

Open SUSE Linux 10.3

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Open SUSE Linux 10.3 は、標準の SUSE Linux ディストリビューション CD を使用して 仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディスト リビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フ ロッピーまたはネットワークから Open SUSE Linux 10.3 をインストールすることもで きます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サー バからインストールすることもできます。

Open SUSE Linux 10.3 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Open SUSE Linux 10.3 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Open SUSE Linux 10.3 インストール CD を挿入します。
- 仮想マシンをパワーオンして、Open SUSE Linux 10.3 のインストールを開始します。
- 3 テキストモードのインストーラを使用してインストールします。テキストモードのインストーラを選択するには、最初のインストール画面で、<F3>キーを押して起動オプションを表示します。次に、<F3>キーを再度押してからカーソルキーを使用して[テキストモード]を選択し、<Enter>キーを押します。
- 4 VMware Tools のインストーラが SUSE Linux 10 向けのモジュールをコンパイルで きるように、gcc とカーネル ソースを必ずインストールします。

[Installation Settings] 画面で、[Change] を選択してから [Software] を選択します。 次に、[Filter] メニューから [RPM Groups] を選択します。[Development] グループ を選択し、<Enter> キーを押すとリストが表示されます。[gcc]、[gcc-c++]、お よび [kernel-source] をリストで反転表示させてからスペースバーを押してこれら の項目を追加します。

5 最終構成プロセスで、すべてのパッケージがインストールされたあと [Test Internet Connection] 画面が表示されますが、ここではインターネット接続テス トは実行しないでください。 6 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

これでゲスト OS としての Open SUSE Linux 10.3 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

Open SUSE Linux 10.2

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Open SUSE Linux 10.2 は、標準の SUSE Linux ディストリビューション CD を使用して 仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディスト リビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フ ロッピーまたはネットワークから Open SUSE Linux 10.2 をインストールすることもで きます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サー バからインストールすることもできます。

Open SUSE Linux 10.2 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Open SUSE Linux 10.2 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Open SUSE Linux 10.2 インストール CD を挿入します。
- 仮想マシンをパワーオンして、Open SUSE Linux 10.2 のインストールを開始します。
- 3 テキストモードのインストーラを使用してインストールします。テキストモードのインストーラを選択するには、最初のインストール画面で、<F3>キーを押して起動オプションを表示します。次に、<F3>キーを再度押してからカーソルキーを使用して[テキストモード]を選択し、<Enter>キーを押します。
- 4 VMware Tools のインストーラが SUSE Linux 10 向けのモジュールをコンパイルで きるように、gcc とカーネル ソースを必ずインストールします。

[Installation Settings] 画面で、[Change] を選択してから [Software] を選択します。 次に、[Filter] メニューから [RPM Groups] を選択します。[Development] グループ を選択し、<Enter> キーを押すとリストが表示されます。[gcc]、[gcc-c++]、お よび [kernel-source] をリストで反転表示させてからスペースバーを押してこれら の項目を追加します。

5 最終構成プロセスで、すべてのパッケージがインストールされたあと[Test Internet Connection] 画面が表示されますが、ここではインターネット接続テス トは実行しないでください。 6 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

これでゲスト OS としての Open SUSE Linux 10.2 の基本インストールが完了です。

VMware Tools
SUSE Linux 10.1

このゲストOSをインストールする前に、「VMware製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

SUSE Linux 10.1 は、標準の SUSE Linux ディストリビューション CD を使用して仮想マ シンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリ ビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッ ピーまたはネットワークから SUSE Linux 10.1 をインストールすることもできます。 ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからイ ンストールすることもできます。

SUSE Linux 10.1 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

SUSE Linux 10.1 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに SUSE Linux 10.1 インストール CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、SUSE Linux 10.1 のインストールを開始します。
- 3 テキストモードのインストーラを使用してインストールします。テキストモードのインストーラを選択するには、最初のインストール画面で、<F3>キーを押して起動オプションを表示します。次に、<F3>キーを再度押してからカーソルキーを使用して[テキストモード]を選択し、<Enter>キーを押します。
- 4 VMware Tools のインストーラが SUSE Linux 10 向けのモジュールをコンパイルで きるように、gcc とカーネル ソースを必ずインストールします。

[Installation Settings] 画面で、[Change] を選択してから [Software] を選択します。 次に、[Filter] メニューから [RPM Groups] を選択します。[Development] グループ を選択し、<Enter> キーを押すとリストが表示されます。[gcc]、[gcc-c++]、お よび [kernel-source] をリストで反転表示させてからスペースバーを押してこれら の項目を追加します。

5 最終構成プロセスで、すべてのパッケージがインストールされたあと [Test Internet Connection] 画面が表示されますが、ここではインターネット接続テス トは実行しないでください。 6 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。 これでゲスト OS としての SUSE Linux 10.1 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

SUSE Linux 10

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

SUSE Linux 10 は、標準の SUSE Linux ディストリビューション CD を使用して仮想マシ ンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリビュー ション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッピーま たはネットワークから SUSE Linux 10 をインストールすることもできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストー ルすることもできます。

SUSE Linux 10 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

SUSE Linux 10 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに SUSE Linux 10 インストール CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、SUSE Linux 10 のインストールを開始します。
- 3 テキストモードのインストーラを使用してインストールします。テキストモードのインストーラを選択するには、最初のインストール画面で、<F3>キーを押して起動オプションを表示します。次に、<F3>キーを再度押してからカーソルキーを使用して[テキストモード]を選択し、<Enter>キーを押します。
- 4 VMware Tools のインストーラが SUSE Linux 10 向けのモジュールをコンパイルで きるように、gcc とカーネル ソースを必ずインストールします。

[Installation Settings] 画面で、[Change] を選択してから [Software] を選択します。 次に、[Filter] メニューから [RPM Groups] を選択します。[Development] グループ を選択し、<Enter> キーを押すとリストが表示されます。[gcc]、[gcc-c++]、お よび [kernel-source] をリストで反転表示させてからスペースバーを押してこれら の項目を追加します。

5 最終構成プロセスで、すべてのパッケージがインストールされたあと [Test Internet Connection] 画面が表示されますが、ここではインターネット接続テス トは実行しないでください。 6 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。 これでゲスト OS としての SUSE Linux 10 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

SUSE Linux 9.3 は、標準の SUSE Linux ディストリビューション CD を使用して仮想マ シンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリ ビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッ ピーまたはネットワークから SUSE Linux 9.3 をインストールすることもできます。ご 使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからイン ストールすることもできます。

SUSE Linux 9.3 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

SUSE Linux 9.3 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。
- ESX Server 2.5.x 上の SUSE Linux 9.3 仮想マシンでは、BusLogic 仮想 SCSI アダプタのみがサポートされています。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに SUSE Linux 9.3 インストール CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、SUSE Linux 9.3 のインストールを開始します。
- 3 テキストモードのインストーラを使用してインストールします。テキストモードのインストーラを選択するには、最初のインストール画面で、<F2>キーを押してからカーソルキーを使用して[テキストモード]を選択し、<Enter>キーを押します。
- 4 最終構成プロセスで、すべてのパッケージがインストールされたあとのインター ネット接続テストは実行しないでください。
- 5 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

これでゲスト OS としての SUSE Linux 9.3 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

SUSE Linux 9.2 は、標準の SUSE Linux ディストリビューション CD を使用して仮想マ シンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリ ビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッ ピーまたはネットワークから SUSE Linux 9.2 をインストールすることもできます。ご 使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからイン ストールすることもできます。

SUSE Linux 9.2 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

SUSE Linux 9.2 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに SUSE Linux 9.2 インストール CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、SUSE Linux 9.2 のインストールを開始します。
- 3 テキストモードのインストーラを使用してインストールします。テキストモードのインストーラを選択するには、最初のインストール画面で、<F2>キーを押してからカーソルキーを使用して[テキストモード]を選択し、<Enter>キーを押します。
- 4 最終構成プロセスで、すべてのパッケージがインストールされたあとのインター ネット接続テストは実行しないでください。
- 5 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

これでゲスト OS としての SUSE Linux 9.2 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

SUSE Linux 9.1 は、標準の SUSE Linux ディストリビューション CD を使用して仮想マ シンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリ ビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッ ピーまたはネットワークから SUSE Linux 9.1 をインストールすることもできます。ご 使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからイン ストールすることもできます。

SUSE Linux 9.1 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

SUSE Linux 9.1 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。ESX Server 2.5.x を使用している 場合を除き、このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することを お勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに SUSE Linux 9.1 インストール CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、SUSE Linux 9.1 のインストールを開始します。
- 3 テキストモードのインストーラを使用してインストールします。テキストモードのインストーラを選択するには、最初のインストール画面で、<F2>キーを押してからカーソルキーを使用して[テキストモード]を選択し、<Enter>キーを押します。
- 4 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

これでゲスト OS としての SUSE Linux 9.1 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

SUSE Linux 9.0 は、標準の SUSE Linux ディストリビューション CD を使用して仮想マ シンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリ ビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッ ピーまたはネットワークから SUSE Linux 9.0 をインストールすることもできます。ご 使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからイン ストールすることもできます。

SUSE Linux 9.0 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

SUSE Linux 9.0 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに SUSE Linux 9.0 インストール CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、SUSE Linux 9.0 のインストールを開始します。
- 3 テキストモードのインストーラを使用してインストールします。テキストモードのインストーラを選択するには、最初のインストール画面で、<F2>キーを押してからカーソルキーを使用して[テキストモード]を選択し、<Enter>キーを押します。
- 4 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

これでゲスト OS としての SUSE Linux 9.0 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

VMware Tools をインストールしたあと、X サーバを起動する前に、root ユーザーの権限で SaX2 コンフィグレーション ユーティリティを実行して X サーバを構成します。 コマンド プロンプトで SaX2 と入力し、ウィザードを使用して X サーバを構成します。 す。VMware Virtual Machine Console を使用してこの仮想マシンに接続する場合は、 色の解像度を 65536 (16 ビット)以下に設定します。 SaX2 を実行したあと、GRUB が表示する任意の選択肢を使用して SUSE Linux 9.0 仮想 マシンを起動できます。

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

SUSE Linux 8.2 は、標準の SUSE ディストリビューション CD を使用して仮想マシンに インストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリビューショ ン CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッピーまたは ネットワークから SUSE Linux 8.2 をインストールすることもできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストー ルすることもできます。

SUSE Linux 8.2 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

SUSE Linux 8.2 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。
- SUSE Linux 8.2 をインストールしても X サーバはインストールされません。仮想 マシン内でアクセラレータ機能付き SVGA X サーバを実行するには、SUSE Linux 8.2 のインストール完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインス トールします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに SUSE Linux 8.2 インストール CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、SUSE Linux 8.2 のインストールを開始します。
- 3 次の手順で説明している選択画面が表示されるまで、物理マシンの場合と同じように、画面の指示に従ってインストールを実行します。
- 4 テキストモードのインストーラを使用してインストールします。テキストモードのインストーラを選択するには、最初のインストール画面で、<F2>キーを押してからlinuxと入力し、<Enter>キーを押します。
- 5 Xサーバをインストールするよう求められますが、インストールしないでくださ い。[Configure Monitor] 画面で、[Text Mode Only] を選択します。[Accept] をク リックしてインストールを完了します。

これでゲスト OS としての SUSE Linux 8.2 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

VMware Tools をインストールしたあと、X サーバを起動する前に、root ユーザーの権限で SaX2 コンフィグレーション ユーティリティを実行して X サーバを構成します。 コマンド プロンプトで SaX2 と入力し、ウィザードを使用して X サーバを構成しま す。VMware Virtual Machine Console を使用してこの仮想マシンに接続する場合は、 色の解像度を 65536 (16 ビット)以下に設定します。

SaX2 を実行したあと、GRUB が表示する任意の選択肢を使用して SUSE Linux 8.2 仮想 マシンを起動できます。

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

SUSE Linux 8.1 は、標準の SUSE ディストリビューション CD を使用して仮想マシンに インストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリビューショ ン CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッピーまたは ネットワークから SUSE Linux 8.1 をインストールすることもできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストー ルすることもできます。

SUSE Linux 8.1 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

SUSE Linux 8.1 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。
- SUSE Linux 8.1 をインストールしても X サーバはインストールされません。仮想 マシン内でアクセラレータ機能付き SVGA X サーバを実行するには、SUSE Linux 8.1 のインストール完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインス トールします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに SUSE Linux 8.1 インストール CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、SUSE Linux 8.1 のインストールを開始します。
- 3 次の手順で説明している選択画面が表示されるまで、物理マシンの場合と同じように、画面の指示に従ってインストールを実行します。
- 4 テキストモードのインストーラを使用してインストールします。テキストモードのインストーラを選択するには、最初のインストール画面で、<F2>キーを押してから <Enter>キーを押します。
- 5 Xサーバをインストールするよう求められますが、インストールしないでくださ い。[Configure Monitor] 画面で、[Text Mode Only] を選択します。[Accept] をク リックしてインストールを完了します。

これでゲスト OS としての SUSE Linux 8.1 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

VMware Tools をインストールしたあと、X サーバを起動する前に、root ユーザーの権限で SaX2 コンフィグレーション ユーティリティを実行して X サーバを構成します。 コマンド プロンプトで SaX2 と入力し、ウィザードを使用して X サーバを構成しま す。VMware Virtual Machine Console を使用してこの仮想マシンに接続する場合は、 色の解像度を 65536 (16 ビット)以下に設定します。

SaX2 を実行したあと、GRUB が表示する任意の選択肢を使用して SUSE Linux 8.1 仮想 マシンを起動できます。

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

SUSE Linux 8.0 は、標準の SUSE ディストリビューション CD を使用して仮想マシンに インストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリビューショ ン CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッピーまたは ネットワークから SUSE Linux 8.0 をインストールすることもできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストー ルすることもできます。

SUSE Linux 8.0 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

SUSE Linux 8.0 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。
- SUSE Linux 8.0 をインストールしても X サーバはインストールされません。仮想 マシン内でアクセラレータ機能付き SVGA X サーバを実行するには、SUSE Linux 8.0 のインストール完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインス トールします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに SUSE Linux 8.0 インストール CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、SUSE Linux 8.0 のインストールを開始します。
- 3 次の手順で説明している選択画面が表示されるまで、物理マシンの場合と同じように、画面の指示に従ってインストールを実行します。
- 4 テキストモードのインストーラを使用してインストールします。
- 5 Xサーバをインストールするよう求められますが、インストールしないでくださ い。[Configure Monitor] 画面で、[No X11] を選択します。設定を確認します。 [Continue] をクリックしてインストールを完了します。

これでゲスト OS としての SUSE Linux 8.0 の基本インストールが完了です。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

VMware Tools をインストールするまでは、ゲスト OS で X サーバを起動しないでくだ さい。

VMware Tools をインストールしたあと、X サーバを起動する前に、root ユーザーの権限で SaX2 コンフィグレーション ユーティリティを実行して X サーバを構成します。 コマンド プロンプトで SaX2 と入力し、ウィザードを使用して X サーバを構成します。 す。VMware Virtual Machine Console を使用してこの仮想マシンに接続する場合は、 色の解像度を 65536 (16 ビット)以下に設定します。

SaX2 を実行したあと、LILO が表示する任意の選択肢を使用して SUSE 8.0 仮想マシンを起動できます。

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

SUSE Linux 7.3 は、標準の SUSE ディストリビューション CD を使用して仮想マシンに インストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリビューショ ン CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッピーまたは ネットワークから SUSE Linux 7.3 をインストールすることもできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストー ルすることもできます。

SUSE Linux 7.3 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

SUSE Linux 7.3 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。
- SUSE Linux 7.3 をインストールしても X サーバはインストールされません。仮想 マシン内でアクセラレータ機能付き SVGA X サーバを実行するには、SUSE Linux 7.3 のインストール完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインス トールします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに SUSE Linux 7.3 インストール CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、SUSE Linux 7.3 のインストールを開始します。
- 3 次の手順で説明している選択画面が表示されるまで、物理マシンの場合と同じように、画面の指示に従ってインストールを実行します。
- 4 テキストモードのインストーラを使用してインストールします。
- 5 Xサーバをインストールするよう求められますが、インストールしないでくださ い。[Configure Monitor] 画面で、[No X11] を選択します。設定を確認します。 [Continue] をクリックしてインストールを完了します。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

VMware Tools をインストールしたあと、LILO が表示する任意の選択肢を使用して SUSE 7.3 仮想マシンを起動できます。

Turbolinux 10 Server

インストール上の注意点

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Turbolinux 10 Server は、標準の Turbolinux ディストリビューション CD を使用して仮 想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリ ビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッ ピーまたはネットワークから Turbolinux 10 Server をインストールすることもできま す。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバか らインストールすることもできます。

Turbolinux 10 Server をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Turbolinux 10 Server のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Turbolinux 10 Server インストール CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Turbolinux 10 Server のインストールを開始しま す。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

Turbolinux 10 Desktop

このゲストOSをインストールする前に、「VMware製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Turbolinux 10 Desktop は、標準の Turbolinux ディストリビューション CD を使用して 仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディスト リビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フ ロッピーまたはネットワークから Turbolinux 10 Desktop をインストールすることも できます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストールすることもできます。

Turbolinux 10 Desktop をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Turbolinux 10 Desktop のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Turbolinux 10 Desktop インストール CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Turbolinux 10 Desktop のインストールを開始しま す。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

Turbolinux Enterprise Server 8

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Turbolinux Enterprise Server 8 は、標準の Turbolinux ディストリビューション CD を使用して仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッピーまたはネットワークから Turbolinux Enterprise Server 8 をインストールすることもできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストールすることもできます。

Turbolinux Enterprise Server 8 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Turbolinux Enterprise Server 8のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。
- Turbolinux Enterprise Server 8 をインストールしても X サーバはインストールされ ません。仮想マシン内でアクセラレータ機能付き SVGA X サーバを実行するには、 Turbolinux Enterprise Server 8 のインストール完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Turbolinux Enterprise Server 8 インストール CD を挿入します。
- 仮想マシンをパワーオンして、Turbolinux Enterprise Server 8 のインストールを開始します。
- 3 次の手順で説明している選択画面が表示されるまで、物理マシンの場合と同じように、画面の指示に従ってインストールを実行します。
- 4 テキストモードのインストーラを使用してインストールします。テキストモードのインストーラを選択するには、最初のインストール画面で、<F2>キーを押してから <Enter>キーを押します。
- 5 Xサーバをインストールするよう求められますが、インストールしないでくださ い。[Desktop Settings] 画面で、[Text Mode Only] を選択します。[Accept] をク リックしてインストールを完了します。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

VMware Tools をインストールしたあと、X サーバを起動する前に、root ユーザーの権限で SaX2 コンフィグレーション ユーティリティを実行して X サーバを構成します。 コマンド プロンプトで SaX2 と入力し、ウィザードを使用して X サーバを構成しま す。VMware Virtual Machine Console を使用してこの仮想マシンに接続する場合は、 色の解像度を 65536 (16 ビット)以下に設定します。

SaX2 を実行したあと、GRUB が表示する任意の選択肢を使用して Turbo Linux Enterprise Server 8 仮想マシンを起動できます。

Turbolinux Workstation 8

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Turbolinux Workstation 8 は、標準の Turbolinux ディストリビューション CD を使用し て仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディス トリビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フ ロッピーまたはネットワークから Turbolinux Workstation 8 をインストールすること もできます。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストールすることもできます。

Turbolinux Workstation 8 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Turbolinux Workstation 8 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。
- Turbolinux Workstation 8 をインストールしても X サーバはインストールされません。仮想マシン内でアクセラレータ機能付き SVGA X サーバを実行するには、 Turbolinux Workstation 8 のインストール完了後、ただちに VMware Tools パッケージをインストールします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Turbolinux Workstation 8 インストール CD を挿入します。
- 仮想マシンをパワーオンして、Turbolinux Workstation 8 のインストールを開始し ます。
- 3 次の手順で説明している選択画面が表示されるまで、物理マシンの場合と同じように、画面の指示に従ってインストールを実行します。
- 4 テキストモードのインストーラを使用してインストールします。テキストモードのインストーラを選択するには、最初のインストール画面で、<F2>キーを押してから <Enter>キーを押します。
- 5 Xサーバをインストールするよう求められますが、インストールしないでくださ い。[Desktop Settings] 画面で、[Text Mode Only] を選択します。[Accept] をク リックしてインストールを完了します。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

VMware Tools をインストールしたあと、X サーバを起動する前に、root ユーザーの権限で SaX2 コンフィグレーション ユーティリティを実行して X サーバを構成します。 コマンド プロンプトで SaX2 と入力し、ウィザードを使用して X サーバを構成しま す。VMware Virtual Machine Console を使用してこの仮想マシンに接続する場合は、 色の解像度を 65536 (16 ビット)以下に設定します。

SaX2 を実行したあと、GRUB が表示する任意の選択肢を使用して Turbolinux Workstation 8 仮想マシンを起動できます。

Turbolinux 7.0

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Turbolinux 7.0 は、標準の Turbolinux 7.0 ディストリビューション CD を使用して仮想 マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、標準のディストリ ビューション CD を使用したインストールの手順を説明します。ただし、起動フロッ ピーまたはネットワークから Turbolinux 7.0 をインストールすることもできます。ご 使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからイン ストールすることもできます。

Turbolinux 7.0 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Turbolinux 7.0 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。
- Turbolinux 7.0 をインストールすると、標準の VGA16 X サーバ (VMware ディス プレイ アダプタを未サポート) がインストールされます。仮想マシン内でアクセ ラレータ機能付き SVGA X サーバを実行するには、Turbolinux 7.0 のインストール 完了後、X サーバを起動する前に、ただちに VMware Tools パッケージをインス トールします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Turbolinux 7.0 CD No.1 を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Turbolinux 7.0 のインストールを開始します。
- 3 次の手順で説明している選択画面が表示されるまで、物理マシンの場合と同じように、画面の指示に従ってインストールを実行します。
- 4 [Configure Monitor] 画面で、デフォルト値を使用してXサーバを構成します。ゲ スト OS をインストールしたあと、VMware Tools のインストール時に別のXサー バがインストールされますが、ここで一度Xサーバを構成しておく必要がありま す。
- 5 Turbolinux 7.0 の残りのインストール手順は、物理マシンでインストールを行う 場合と同じです。

この時点で、Turbolinux 7.0 が起動し、ログイン画面が表示されます。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

VMware Tools をインストールするまでは、ゲスト OS で X サーバを起動しないでくだ さい。

Ubuntu 9.10

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Ubuntu 9.10 は、標準の Ubuntu 9.10 ディストリビューション CD を使用して仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。

Ubuntu 9.10 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Ubuntu 9.10 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Ubuntu 9.10 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Ubuntu 9.10 のインストールを開始します。
- 3 Ubuntu 9.10 インストーラが、仮想ディスクに必要なファイルをコピーしたあと インストール CD をイジェクトし、コンピュータが再起動されることを示すメッ セージを表示します。仮想マシンが正常に再起動しない場合は、[Reset] ボタン をクリックして再起動します。
- 4 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。
- 注意 インストール中に、メッセージ「Configuring apt/ Scanning the mirror」が表示されます。これは、ネットワークのスキャン中であることを示します。使用環境で HTTP プロキシを使用していると、このメッセージが10分以上表示されることがあり ます。これは、インストールが遅延していることを意味します。しばらくそのままに しておくと、ネットワークのスキャンが終了し、インストールがレジュームされま す。インストールが完了したら、Ubuntu 9.10 ユーザー インターフェイスから、 [System] - [Preferences] - [Network Proxy] を選択し、[Network Proxy Preferences] ダイア ログボックスで HTTP プロキシを設定します。

VMware Tools

注意 Ubuntu 9.10 の場合、tar インストーラを使用して VMware Tools をインストールします。

tar インストーラを使用して VMware Tools をインストールするには、Ubuntu ゲスト で root を有効にする必要があります。次の手順は、VMware Tools のインストール前 またはインストール中に完了できます。

Ubuntu を実行する仮想マシンで root を有効にするには

Ubuntu Server Edition

- 1 ターミナル ウィンドウを開きます。
- 2 通常ユーザーとしてログインします。
- 3 **sudo passwd root** と入力し、root パスワードを設定します。

Ubuntu Desktop Edition

- 1 [System] [Administration] [Login] [Window] を選択し、[Security] タブをクリッ クします。
- [Allow local system administrator login] チェック ボックスを選択し、[Close] をク リックします。
- 3 [System] [Administration] [Users and Groups] を選択し、[Unlock] をクリックします。
- 4 [Authenticate] ウィンドウでパスワードを入力し、[Authenticate] をクリックしま す。
- 5 root を選択して [Properties] をクリックし、[Set password by hand] で root パス ワードを設定します。

Ubuntu 9.04

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Ubuntu 9.04 は、標準の Ubuntu 9.04 ディストリビューション CD を使用して仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。

Ubuntu 9.04 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Ubuntu 9.04 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Ubuntu 9.04 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Ubuntu 9.04 のインストールを開始します。
- 3 Ubuntu 9.04 インストーラが、仮想ディスクに必要なファイルをコピーしたあと インストール CD をイジェクトし、コンピュータが再起動されることを示すメッ セージを表示します。仮想マシンが正常に再起動しない場合は、[Reset] ボタン をクリックして再起動します。
- 4 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。
- 注意 インストール中に、メッセージ「Configuring apt/ Scanning the mirror」が表示されます。これは、ネットワークのスキャン中であることを示します。使用環境で HTTP プロキシを使用していると、このメッセージが 10 分以上表示されることがあり ます。これは、インストールが遅延していることを意味します。しばらくそのままに しておくと、ネットワークのスキャンが終了し、インストールがレジュームされま す。インストールが完了したら、Ubuntu 9.04 ユーザー インターフェイスから、 [System] - [Preferences] - [Network Proxy] を選択し、[Network Proxy Preferences] ダイア ログ ボックスで HTTP プロキシを設定します。

VMware Tools

注意 Ubuntu 9.04 の場合、tar インストーラを使用して VMware Tools をインストールします。

tar インストーラを使用して VMware Tools をインストールするには、Ubuntu ゲスト で root を有効にする必要があります。次の手順は、VMware Tools のインストール前 またはインストール中に完了できます。

Ubuntu を実行する仮想マシンで root を有効にするには

Ubuntu Server Edition

- 1 ターミナル ウィンドウを開きます。
- 2 通常ユーザーとしてログインします。
- 3 **sudo passwd root** と入力し、root パスワードを設定します。

Ubuntu Desktop Edition

- 1 [System] [Administration] [Login] [Window] を選択し、[Security] タブをクリッ クします。
- [Allow local system administrator login] チェック ボックスを選択し、[Close] をク リックします。
- 3 [System] [Administration] [Users and Groups] を選択し、[Unlock] をクリックします。
- 4 [Authenticate] ウィンドウでパスワードを入力し、[Authenticate] をクリックしま す。
- 5 root を選択して [Properties] をクリックし、[Set password by hand] で root パス ワードを設定します。

Ubuntu 8.10

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Ubuntu 8.10 は、標準の Ubuntu 8.10 ディストリビューション CD を使用して仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。

Ubuntu 8.10をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Ubuntu 8.10 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Ubuntu 8.10 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Ubuntu 8.10 のインストールを開始します。
- 3 Ubuntu 8.10 インストーラが、仮想ディスクに必要なファイルをコピーしたあと インストール CD をイジェクトし、コンピュータが再起動されることを示すメッ セージを表示します。仮想マシンが正常に再起動しない場合は、[Reset] ボタン をクリックして再起動します。
- 4 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。
- 注意 インストール中に、メッセージ「Configuring apt/ Scanning the mirror」が表示されます。これは、ネットワークのスキャン中であることを示します。使用環境で HTTP プロキシを使用していると、このメッセージが10分以上表示されることがあり ます。これは、インストールが遅延していることを意味します。しばらくそのままに しておくと、ネットワークのスキャンが終了し、インストールがレジュームされま す。インストールが完了したら、Ubuntu 8.10 ユーザー インターフェイスから、 [System] - [Preferences] - [Network Proxy] を選択し、[Network Proxy Preferences] ダイア ログボックスで HTTP プロキシを設定します。

VMware Tools

注意 Ubuntu 8.10 の場合、tar インストーラを使用して VMware Tools をインストールします。

tar インストーラを使用して VMware Tools をインストールするには、Ubuntu ゲスト で root を有効にする必要があります。次の手順は、VMware Tools のインストール前 またはインストール中に完了できます。

Ubuntu を実行する仮想マシンで root を有効にするには

Ubuntu Server Edition

- 1 ターミナル ウィンドウを開きます。
- 2 通常ユーザーとしてログインします。
- 3 **sudo passwd root** と入力し、root パスワードを設定します。

Ubuntu Desktop Edition

- 1 [System] [Administration] [Login] [Window] を選択し、[Security] タブをクリッ クします。
- [Allow local system administrator login] チェック ボックスを選択し、[Close] をク リックします。
- 3 [System] [Administration] [Users and Groups] を選択し、[Unlock] をクリックします。
- 4 [Authenticate] ウィンドウでパスワードを入力し、[Authenticate] をクリックしま す。
- 5 root を選択して [Properties] をクリックし、[Set password by hand] で root パス ワードを設定します。

Ubuntu 8.04 LTS

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Ubuntu 8.04 LTS は、標準の Ubuntu 8.04 LTS ディストリビューション CD を使用して 仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。

Ubuntu 8.04 LTS をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Ubuntu 8.04 LTS のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Ubuntu 8.04 LTS CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Ubuntu 8.04 LTS のインストールを開始します。
- 3 Ubuntu 8.04 LTS インストーラが、仮想ディスクに必要なファイルをコピーした あとインストール CD をイジェクトし、コンピュータが再起動されることを示す メッセージを表示します。仮想マシンが正常に再起動しない場合は、[Reset] ボ タンをクリックして再起動します。
- 4 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。
- 注意 インストール中に、メッセージ「Configuring apt/ Scanning the mirror」が表示されます。これは、ネットワークのスキャン中であることを示します。使用環境で HTTP プロキシを使用していると、このメッセージが 10 分以上表示されることがあり ます。これは、インストールが遅延していることを意味します。しばらくそのままに しておくと、ネットワークのスキャンが終了し、インストールがレジュームされま す。インストールが完了したら、Ubuntu 8.04 LTS ユーザー インターフェイスから、 [System] - [Preferences] - [Network Proxy] を選択し、[Network Proxy Preferences] ダイア ログ ボックスで HTTP プロキシを設定します。

VMware Tools

注意 Ubuntu 8.04 LTS、8.04.1、および 8.04.2 の場合、tar インストーラまたは適切な OSP を 使用して VMware Tools をインストールできます。VMware Tools OSP のダウンロード、 インストール、およびアップグレードに関する詳細な説明については、次の <u>VMware Tools インストールガイド Operating System Specific Package(VMware</u> <u>Tools Installation Guide Operating System Specific Packages)</u>」を参照してください。 http://www.vmware.com/pdf/osp_install_guide.pdf

tar インストーラを使用して VMware Tools をインストールするには、Ubuntu ゲスト で root を有効にする必要があります。次の手順は、VMware Tools のインストール前 またはインストール中に完了できます。

Ubuntu を実行する仮想マシンで root を有効にするには

Ubuntu Server Edition

- 1 ターミナルウィンドウを開きます。
- 2 通常ユーザーとしてログインします。
- 3 sudo passwd root と入力し、root パスワードを設定します。

Ubuntu Desktop Edition

- 1 [System] [Administration] [Login] [Window] を選択し、[Security] タブをクリッ クします。
- 2 [Allow local system administrator login] チェック ボックスを選択し、[Close] をク リックします。
- 3 [System] [Administration] [Users and Groups] を選択し、[Unlock] をクリックします。
- [Authenticate] ウィンドウでパスワードを入力し、[Authenticate] をクリックします。
- 5 root を選択して [Properties] をクリックし、[Set password by hand] で root パス ワードを設定します。

Ubuntu Linux 7.10

このゲストOSをインストールする前に、「VMware製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Ubuntu Linux 7.10 は、標準の Ubuntu Linux ディストリビューション CD を使用して 仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。

Ubuntu Linux 7.10 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Ubuntu Linux 7.10 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Ubuntu Linux CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Ubuntu Linux のインストールを開始します。
- 3 Ubuntu Linux インストーラが、仮想ディスクに必要なファイルをコピーしたあ とインストール CD をイジェクトし、コンピュータが再起動されることを示す メッセージを表示します。仮想マシンが正常に再起動しない場合は、[Reset] ボ タンをクリックして再起動します。
- 4 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。
- 注意 インストール中に、メッセージ「Configuring apt/ Scanning the mirror」が表示されます。これは、ネットワークのスキャン中であることを示します。使用環境で HTTP プロキシを使用していると、このメッセージが 10 分以上表示されることがあり ます。これは、インストールが遅延していることを意味します。しばらくそのままに しておくと、ネットワークのスキャンが終了し、インストールがレジュームされま す。インストールが完了したら、Ubuntu Linux ユーザー インターフェイスから、 [System] - [Preferences] - [Network Proxy] を選択し、[Network Proxy Preferences] ダイア ログ ボックスで HTTP プロキシを設定します。

VMware Tools

注意 tar インストーラを使用して、Ubuntu Linux に VMware Tools をインストールする必要 があります。

tar インストーラを使用して VMware Tools をインストールするには、Ubuntu ゲスト で root を有効にする必要があります。次の手順は、VMware Tools のインストール前 またはインストール中に完了できます。

Ubuntu Linux を実行する仮想マシンで root を有効にするには

Ubuntu Server Edition

- 1 ターミナル ウィンドウを開きます。
- 2 通常ユーザーとしてログインします。
- 3 **sudo passwd root** と入力し、root パスワードを設定します。

Ubuntu Desktop Edition

- 1 [System] [Administration] [Login] [Window] を選択し、[Security] タブをクリッ クします。
- [Allow local system administrator login] チェック ボックスを選択し、[Close] をク リックします。
- 3 [System] [Administration] [Users and Groups] を選択し、[Unlock] をクリックします。
- 4 [Authenticate] ウィンドウでパスワードを入力し、[Authenticate] をクリックしま す。
- 5 root を選択して [Properties] をクリックし、[Set password by hand] で root パス ワードを設定します。

Ubuntu Linux 7.04

このゲストOSをインストールする前に、「VMware製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Ubuntu Linux 7.04 は、標準の Ubuntu Linux ディストリビューション CD を使用して 仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。

Ubuntu Linux 7.04 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Ubuntu Linux 7.04 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Ubuntu Linux CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Ubuntu Linux のインストールを開始します。
- 3 Ubuntu Linux インストーラが、仮想ディスクに必要なファイルをコピーしたあ とインストール CD をイジェクトし、コンピュータが再起動されることを示す メッセージを表示します。仮想マシンが正常に再起動しない場合は、[Reset] ボ タンをクリックして再起動します。
- 4 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。
- 注意 インストール中に、メッセージ「Configuring apt/ Scanning the mirror」が表示されます。これは、ネットワークのスキャン中であることを示します。使用環境で HTTP プロキシを使用していると、このメッセージが 10 分以上表示されることがあり ます。これは、インストールが遅延していることを意味します。しばらくそのままに しておくと、ネットワークのスキャンが終了し、インストールがレジュームされま す。インストールが完了したら、Ubuntu Linux ユーザー インターフェイスから、 [System] - [Preferences] - [Network Proxy] を選択し、[Network Proxy Preferences] ダイア ログ ボックスで HTTP プロキシを設定します。

VMware Tools
注意 tar インストーラを使用して、Ubuntu Linux に VMware Tools をインストールする必要 があります。

tar インストーラを使用して VMware Tools をインストールするには、Ubuntu ゲスト で root を有効にする必要があります。次の手順は、VMware Tools のインストール前 またはインストール中に完了できます。

Ubuntu Server Edition

- 1 ターミナルウィンドウを開き、通常ユーザーとしてログインします。
- 2 **sudo passwd root** と入力し、root パスワードを設定します。

Ubuntu Desktop Edition

- 1 [System] [Administration] [Login] [Window] を選択し、[Security] タブをクリッ クします。
- 2 [Allow local system administrator login] チェック ボックスを選択し、[Close] をク リックします。
- 3 [System] [Administration] [Users and Groups] を選択し、[Unlock] をクリックします。
- 4 [Authenticate] ウィンドウでパスワードを入力し、[Authenticate] をクリックしま す。
- 5 root を選択して [Properties] をクリックし、[Set password by hand] で root パス ワードを設定します。

Ubuntu Linux 6.10

このゲストOSをインストールする前に、「VMware製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Ubuntu Linux 6.10 は、標準の Ubuntu Linux ディストリビューション CD を使用して 仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。

Ubuntu Linux 6.10 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Ubuntu Linux 6.10 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Ubuntu Linux CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Ubuntu Linux のインストールを開始します。
- 3 Ubuntu Linux インストーラが、仮想ディスクに必要なファイルをコピーしたあ とインストール CD をイジェクトし、コンピュータが再起動されることを示す メッセージを表示します。仮想マシンが正常に再起動しない場合は、[Reset] ボ タンをクリックして再起動します。
- 4 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

注意 tar インストーラを使用して、Ubuntu Linux に VMware Tools をインストールする必要 があります。

tar インストーラを使用して VMware Tools をインストールするには、Ubuntu ゲスト で root を有効にする必要があります。次の手順は、VMware Tools のインストール前 またはインストール中に完了できます。 Ubuntu Server Edition

- 1 ターミナルウィンドウを開きます。
- 2 通常ユーザーとしてログインします。
- 3 sudo passwd root と入力し、root パスワードを設定します。

Ubuntu Desktop Edition

- 1 [System] [Administration] [Login] [Window] を選択し、[Security] タブをクリッ クします。
- 2 [Allow local system administrator login] チェック ボックスを選択し、[Close] をク リックします。
- 3 [System] [Administration] [Users and Groups] を選択し、[Unlock] をクリックします。
- 4 [Authenticate] ウィンドウでパスワードを入力し、[Authenticate] をクリックしま す。
- 5 root を選択して [Properties] をクリックし、[Set password by hand] で root パス ワードを設定します。

Ubuntu Linux 6.06

このゲストOSをインストールする前に、「VMware製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Ubuntu Linux 6.06 は、標準の Ubuntu Linux ディストリビューション CD を使用して 仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。

Ubuntu Linux 6.06 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Ubuntu Linux 6.06 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Ubuntu Linux CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Ubuntu Linux のインストールを開始します。
- 3 Ubuntu Linux インストーラが、仮想ディスクに必要なファイルをコピーしたあ とインストール CD をイジェクトし、コンピュータが再起動されることを示す メッセージを表示します。仮想マシンが正常に再起動しない場合は、[Reset] ボ タンをクリックして再起動します。
- 4 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

注意 tar インストーラを使用して、Ubuntu Linux に VMware Tools をインストールする必要 があります。

tar インストーラを使用して VMware Tools をインストールするには、Ubuntu ゲスト で root を有効にする必要があります。次の手順は、VMware Tools のインストール前 またはインストール中に完了できます。 Ubuntu Server Edition

- 1 ターミナルウィンドウを開きます。
- 2 通常ユーザーとしてログインします。
- 3 sudo passwd root と入力し、root パスワードを設定します。

Ubuntu Desktop Edition

- 1 [System] [Administration] [Login] [Window] を選択し、[Security] タブをクリッ クします。
- 2 [Allow local system administrator login] チェック ボックスを選択し、[Close] をク リックします。
- 3 [System] [Administration] [Users and Groups] を選択し、[Unlock] をクリックします。
- 4 [Authenticate] ウィンドウでパスワードを入力し、[Authenticate] をクリックしま す。
- 5 root を選択して [Properties] をクリックし、[Set password by hand] で root パス ワードを設定します。

Ubuntu Linux 5.10

このゲストOSをインストールする前に、「VMware製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Ubuntu Linux 5.10 は、標準の Ubuntu Linux ディストリビューション CD を使用して 仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。

Ubuntu Linux 5.10 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Ubuntu Linux 5.10 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Ubuntu Linux CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Ubuntu Linux のインストールを開始します。
- 3 Ubuntu Linux インストーラが、仮想ディスクに必要なファイルをコピーしたあ とインストール CD をイジェクトし、コンピュータが再起動されることを示す メッセージを表示します。仮想マシンが正常に再起動しない場合は、[Reset] ボ タンをクリックして再起動します。
- 4 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

注意 tar インストーラを使用して、Ubuntu Linux に VMware Tools をインストールする必要 があります。

tar インストーラを使用して VMware Tools をインストールするには、Ubuntu ゲスト で root を有効にする必要があります。

Ubuntu Server Edition

- 1 ターミナルウィンドウを開きます。
- 2 通常ユーザーとしてログインします。
- 3 sudo passwd root と入力し、root パスワードを設定します。

Ubuntu Desktop Edition

- 1 [System] [Administration] [Login] [Window] を選択し、[Security] タブをクリッ クします。
- 2 [Allow local system administrator login] チェック ボックスを選択し、[Close] をク リックします。
- 3 [System] [Administration] [Users and Groups] を選択し、[Unlock] をクリックします。
- 4 [Authenticate] ウィンドウでパスワードを入力し、[Authenticate] をクリックしま す。
- 5 root を選択して [Properties] をクリックし、[Set password by hand] で root パス ワードを設定します。

VMware Tools と 64 ビット版の Ubuntu Linux 5.10

仮想マシンでXサーバが正常に機能するために必要なドライバが、64ビット版の Ubuntu Linux 5.10 で不足しています。VMware Tools をインストールすると、このド ライバはインストールされます。VMware Tools を 64 ビット版の Ubuntu Linux 5.10 に インストールする方法は、ナレッジベースの記事 (http://kb.vmware.com/kb/1900) を参照してください。

Ubuntu Linux 5.04

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

Ubuntu Linux 5.04 は、標準の Ubuntu Linux ディストリビューション CD を使用して 仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。

Ubuntu Linux 5.04 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Ubuntu Linux 5.04 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、Linux ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮 想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Ubuntu Linux CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Ubuntu Linux のインストールを開始します。
- 3 インターネット接続でプロキシサーバを使用するネットワーク上にホストコン ピュータがある場合、次のように、ブートプロンプトにプロキシサーバ名およびポートに関する情報を入力します。

linux http_proxy=http://<プロキシサーバ>:<ポート番号>

4 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

これで、通常の **su** – コマンド、および前述の手順で作成した root パスワードを 使用して、いつでも root ユーザーになることができます。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

注意 tar インストーラを使用して、Ubuntu Linux に VMware Tools をインストールする必要 があります。

tar インストーラを使用して VMware Tools をインストールするには、Ubuntu ゲスト で root を有効にする必要があります。

Ubuntu Server Edition

- 1 ターミナルウィンドウを開きます。
- 2 通常ユーザーとしてログインします。
- 3 sudo passwd root と入力し、root パスワードを設定します。

Ubuntu Desktop Edition

- 1 [System] [Administration] [Login] [Window] を選択し、[Security] タブをクリッ クします。
- 2 [Allow local system administrator login] チェック ボックスを選択し、[Close] をク リックします。
- 3 [System] [Administration] [Users and Groups] を選択し、[Unlock] をクリックします。
- 4 [Authenticate] ウィンドウでパスワードを入力し、[Authenticate] をクリックしま す。
- 5 root を選択して [Properties] をクリックし、[Set password by hand] で root パス ワードを設定します。

FreeBSD 7.2

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

DVD または CD から FreeBSD 7.2 をインストールできます。

FreeBSD 7.2 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

- 新規仮想マシンを作成し、構成する。
- 次の FreeBSD Web サイトから ISO イメージをダウンロードする。

http://www.freebsd.org/doc/en_US.ISO8859-1/books/handbook/mirrors-ftp.html ISO イメージは、/ISO-IMAGES/7.2 ディレクトリに格納されています。

- 32ビット: ftp://ftp5.FreeBSD.org/pub/FreeBSD/releases/i386/ISO-IMAGES/7.2
 - 7.2-RELEASE-i386-bootonly.iso
 - 7.2-RELEASE-i386-disc1.iso
 - 7.2-RELEASE-i386-disc2.iso
 - 7.2-RELEASE-i386-dvd1.iso.gz

■ 64 ビット:

ftp://ftp5.FreeBSD.org/pub/FreeBSD/releases/amd64/ISO-IMAGES/7.2

- 7.2-RELEASE-amd64-bootonly.iso
- 7.2-RELEASE-amd64-disc1.iso
- 7.2-RELEASE-amd64-disc2.iso
- 7.2-RELEASE-amd64-disc3.iso
- 7.2-RELEASE-amd64-dvd1.iso.gz

disc1.iso ファイルには、ベースとなる FreeBSD システムといくつかの事前作成済 みパッケージが含まれています。disc2.iso および disc3.iso ファイルには、さら に多くの事前作成済みのパッケージが含まれています。dvd1.iso.gz ファイルは DVD サイズであり、CD-ROM ディスクにあるものがすべて含まれています。

FreeBSD インストール CD-ROM の **bootonly.iso** は、**sysinstall** アプリケーション を実行します。はじめてハード ドライブに FreeBSD 7.2 をインストールする場合は、 **sysinstall** アプリケーションが必要です。 FreeBSD 7.2 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、FreeBSD ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

FreeBSD 7.2 をインストールするには

- 1 32 ビット版の FreeBSD 7.2 または 64 ビット版の FreeBSD の CD または DVD を CD-ROM ドライブに挿入します。
- 2 ゲストをパワーオンします。
- 3 sysinstall ユーティリティを使用し、インストール方法を標準、カスタム、または 高速から選択します。
- 4 sysinstall ユーティリティを使用して、パーティションを作成します。

Disklabelを使用すると、自動的にパーティションが作成され、デフォルトの サイズが割り当てられます。

- 5 変更を許可します。
- 6 たとえば X カーネル開発者や通常ユーザーなど、ディストリビューションを選択 します。
- 7 メディアに CD または DVD を選択します。
- 8 CD を選択した場合、プロンプトが表示されたら適切な CD を挿入します (DVD を選択した場合、インストール処理では DVD は求められません)。
- 9 ゲストのシステム デバイスやコンポーネントなどを構成します。
- 10 インストールが完了したら、ゲストを再起動します。

VMware Tools

FreeBSD 7.1

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

DVD または CD から FreeBSD 7.1 をインストールできます。

FreeBSD 7.1 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

- 新規仮想マシンを作成し、構成する。
- 次の FreeBSD Web サイトから ISO イメージをダウンロードする。

http://www.freebsd.org/doc/en_US.ISO8859-1/books/handbook/mirrors-ftp.html ISO イメージは、/ISO-IMAGES/7.1 ディレクトリに格納されています。

- 32ビット: ftp://ftp5.FreeBSD.org/pub/FreeBSD/releases/i386/ISO-IMAGES/7.1
 - 7.1-RELEASE-i386-bootonly.iso
 - 7.1-RELEASE-i386-disc1.iso
 - 7.1-RELEASE-i386-disc2.iso
 - 7.1-RELEASE-i386-dvd1.iso.gz

■ 64 ビット:

ftp://ftp5.FreeBSD.org/pub/FreeBSD/releases/amd64/ISO-IMAGES/7.1

- 7.1-RELEASE-amd64-bootonly.iso
- 7.1-RELEASE-amd64-disc1.iso
- 7.1-RELEASE-amd64-disc2.iso
- 7.1-RELEASE-amd64-disc3.iso
- 7.1-RELEASE-amd64-dvd1.iso.gz

disc1.iso ファイルには、ベースとなる FreeBSD システムといくつかの事前作成済 みパッケージが含まれています。disc2.iso および disc3.iso ファイルには、さら に多くの事前作成済みのパッケージが含まれています。dvd1.iso.gz ファイルは DVD サイズであり、CD-ROM ディスクにあるものがすべて含まれています。

FreeBSD インストール CD-ROM の **bootonly.iso** は、**sysinstall** アプリケーション を実行します。はじめてハード ドライブに FreeBSD 7.1 をインストールする場合は、 **sysinstall** アプリケーションが必要です。 FreeBSD 7.1 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、FreeBSD ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

FreeBSD 7.1 をインストールするには

- 1 32 ビット版の FreeBSD 7.1 または 64 ビット版の FreeBSD の CD または DVD を CD-ROM ドライブに挿入します。
- 2 ゲストをパワーオンします。
- 3 sysinstall ユーティリティを使用し、インストール方法を標準、カスタム、または 高速から選択します。
- 4 sysinstall ユーティリティを使用して、パーティションを作成します。

Disklabelを使用すると、自動的にパーティションが作成され、デフォルトのサイズが割り当てられます。

- 5 変更を許可します。
- 6 たとえば X カーネル開発者や通常ユーザーなど、ディストリビューションを選択 します。
- 7 メディアに CD または DVD を選択します。
- 8 CD を選択した場合、プロンプトが表示されたら適切な CD を挿入します (DVD を選択した場合、インストール処理では DVD は求められません)。
- 9 ゲストのシステム デバイスやコンポーネントなどを構成します。
- 10 インストールが完了したら、ゲストを再起動します。

VMware Tools

FreeBSD 7.0

このゲスト OS をインストールする前に、このセクションに必ず目を通してください。

FreeBSD 7.0 は、標準の FreeBSD ディストリビューション CD を使用して仮想マシン にインストールするのが最も簡単な方法です。

FreeBSD 7.0 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

FreeBSD 7.0 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、FreeBSD ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに FreeBSD CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、FreeBSD のインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

DVD または CD から FreeBSD 6.4 をインストールできます。

FreeBSD 6.4 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

- 新規仮想マシンを作成し、構成する。
- 次の FreeBSD Web サイトから ISO イメージをダウンロードする。

http://www.freebsd.org/doc/en_US.ISO8859-1/books/handbook/mirrors-ftp.html ISO イメージは、/ISO-IMAGES/6.4 ディレクトリに格納されています。

- 32 ビット: ftp://ftp-archive.freebsd.org/pub/FreeBSD-Archive/old-releases/i386/ISO-IMA GES/6.4/
 - 6.4-RELEASE-i386-bootonly.iso
 - 6.4-RELEASE-i386-disc1.iso
 - 6.4-RELEASE-i386-disc2.iso
 - 6.4-RELEASE-i386-disc3.iso
 - 6.4-RELEASE-i386-dvd1.iso.gz
- 64 ビット:

ftp://ftp-archive.freebsd.org/pub/FreeBSD-Archive/old-releases/amd64/ISO-I MAGES/6.4/

- 6.4-RELEASE-amd64-bootonly.iso
- 6.4-RELEASE-amd64-disc1.iso
- 6.4-RELEASE-amd64-disc2.iso
- 6.4-RELEASE-amd64-disc3.iso
- 6.4-RELEASE-amd64-dvd1.iso.gz

disc1.iso ファイルには、ベースとなる FreeBSD 6.4 オペレーティング システムとい くつかの事前作成済みパッケージが含まれています。disc2.iso および disc3.iso ファイルには、事前作成済みの別のパッケージが含まれています。dvd1.iso.gz ファ イルは DVD サイズであり、CD-ROM ディスクにあるものがすべて含まれています。 FreeBSD インストール CD-ROM の **bootonly.iso** は、**sysinstall** アプリケーション を実行します。はじめてハード ドライブに FreeBSD をインストールする場合は、 **sysinstall** アプリケーションが必要です。

FreeBSD 6.4 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、FreeBSD ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

FreeBSD 6.4 をインストールするには

- 32 ビットの FreeBSD 6.4 または 64 ビットの FreeBSD 6.4 の CD または DVD を CD-ROM ドライブに挿入します。
- 2 ゲストをパワーオンします。
- 3 sysinstall ユーティリティを使用し、インストール方法を標準、カスタム、または高速から選択します。
- 4 sysinstall ユーティリティを使用して、パーティションを作成します。

Disklabelを使用すると、自動的にパーティションが作成され、デフォルトの サイズが割り当てられます。

- 5 変更を許可します。
- 6 たとえば X カーネル開発者や通常ユーザーなど、ディストリビューションを選択 します。
- 7 メディアに CD または DVD を選択します。
- 8 CD を選択した場合、プロンプトが表示されたら適切な CD を挿入します (DVD を選択した場合、ゲストは追加の DVD を求めません)。
- 9 ゲストのシステム デバイスやコンポーネントなどを構成します。
- 10 インストールが完了したら、ゲストを再起動します。

VMware Tools

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

DVD または CD から FreeBSD 6.3 をインストールできます。

FreeBSD 6.3 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

- 新規仮想マシンを作成し、構成する。
- 次の FreeBSD Web サイトから ISO イメージをダウンロードする。

http://www.freebsd.org/doc/en_US.ISO8859-1/books/handbook/mirrors-ftp.html ISO イメージは、/ISO-IMAGES/6.3 ディレクトリに格納されています。

- 32 ビット: ftp://ftp-archive.freebsd.org/pub/FreeBSD-Archive/old-releases/i386/ISO-IMA GES/6.3/
 - 6.3-RELEASE-i386-bootonly.iso
 - 6.3-RELEASE-i386-disc1.iso
 - 6.3-RELEASE-i386-disc2.iso
 - 6.3-RELEASE-i386-disc3.iso
 - 6.3-RELEASE-i386-dvd1.iso.gz
- 64 ビット: ftp://ftp-archive.freebsd.org/pub/FreeBSD-Archive/old-releases/amd64/ISO-I MAGES/6.3/
 - 6.3-RELEASE-amd64-bootonly.iso
 - 6.3-RELEASE-amd64-disc1.iso
 - 6.3-RELEASE-amd64-disc2.iso
 - 6.3-RELEASE-amd64-disc3.iso
 - 6.3-RELEASE-amd64-dvd1.iso.gz

disc1.iso ファイルには、ベースとなる FreeBSD 6.3 オペレーティング システムとい くつかの事前作成済みパッケージが含まれています。disc2.iso および disc3.iso ファイルには、事前作成済みの別のパッケージが含まれています。dvd1.iso.gz ファ イルは DVD サイズであり、CD-ROM ディスクにあるものがすべて含まれています。 FreeBSD インストール CD-ROM の **bootonly.iso** は、**sysinstall** アプリケーション を実行します。はじめてハード ドライブに FreeBSD をインストールする場合は、 **sysinstall** アプリケーションが必要です。

FreeBSD 6.3 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、FreeBSD ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

FreeBSD 6.3 をインストールするには

- 32 ビットの FreeBSD 6.3 または 64 ビットの FreeBSD 6.3 の CD または DVD を CD-ROM ドライブに挿入します。
- 2 ゲストをパワーオンします。
- 3 sysinstall ユーティリティを使用し、インストール方法を標準、カスタム、または高速から選択します。
- 4 sysinstall ユーティリティを使用して、パーティションを作成します。

Disklabelを使用すると、自動的にパーティションが作成され、デフォルトの サイズが割り当てられます。

- 5 変更を許可します。
- 6 たとえば X カーネル開発者や通常ユーザーなど、ディストリビューションを選択 します。
- 7 メディアに CD または DVD を選択します。
- 8 CD を選択した場合、プロンプトが表示されたら適切な CD を挿入します (DVD を選択した場合、ゲストは追加の DVD を求めません)。
- 9 ゲストのシステム デバイスやコンポーネントなどを構成します。
- 10 インストールが完了したら、ゲストを再起動します。

VMware Tools

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

FreeBSD 6.2 は、標準の FreeBSD ディストリビューション CD を使用して仮想マシン にインストールするのが最も簡単な方法です。

FreeBSD 6.2 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

FreeBSD 6.2 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、FreeBSD ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに FreeBSD CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、FreeBSDのインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

FreeBSD 6.1 は、標準の FreeBSD ディストリビューション CD を使用して仮想マシン にインストールするのが最も簡単な方法です。

FreeBSD 6.1 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

FreeBSD 6.1 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、FreeBSD ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに FreeBSD CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、FreeBSD のインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

FreeBSD 6.0.1 は、標準の FreeBSD ディストリビューション CD を使用して仮想マシン にインストールするのが最も簡単な方法です。

FreeBSD 6.0 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

FreeBSD 6.0 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、FreeBSD ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに FreeBSD CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、FreeBSDのインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

FreeBSD 5.5 は、標準の FreeBSD ディストリビューション CD を使用して仮想マシン にインストールするのが最も簡単な方法です。

FreeBSD 5.5 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

FreeBSD 5.5 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、FreeBSD ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに FreeBSD CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、FreeBSDのインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

FreeBSD 5.4 は、標準の FreeBSD ディストリビューション CD を使用して仮想マシン にインストールするのが最も簡単な方法です。

FreeBSD 5.4 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

FreeBSD 5.4 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、FreeBSD ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに FreeBSD CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、FreeBSDのインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

FreeBSD 5.3 は、標準の FreeBSD ディストリビューション CD を使用して仮想マシン にインストールするのが最も簡単な方法です。

FreeBSD 5.3 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

FreeBSD 5.3 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、FreeBSD ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに FreeBSD CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、FreeBSDのインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

FreeBSD 5.2 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

FreeBSD 5.2 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、FreeBSD ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに FreeBSD CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、FreeBSDのインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

FreeBSD 5.1 は、標準の FreeBSD ディストリビューション CD を使用して仮想マシン にインストールするのが最も簡単な方法です。

FreeBSD 5.1 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

FreeBSD 5.1 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、FreeBSD ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに FreeBSD CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、FreeBSDのインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

FreeBSD 5.0 は、標準の FreeBSD ディストリビューション CD を使用して仮想マシン にインストールするのが最も簡単な方法です。

FreeBSD 5.0 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

FreeBSD 5.0 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、FreeBSD ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに FreeBSD CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、FreeBSDのインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

FreeBSD 4.11

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

FreeBSD 4.11 は、標準の FreeBSD ディストリビューション CD を使用して仮想マシン にインストールするのが最も簡単な方法です。

FreeBSD 4.11 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

FreeBSD 4.11 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、FreeBSD ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに FreeBSD CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、FreeBSDのインストールを開始します。
- 3 [FreeBSD Disklabel Editor] では、インストーラのデフォルトのオプションである A パーティショニングを使用しないでください。オプション C を使用してマウント を作成します。VMware Tools をインストールするには、インストーラがデフォ ルトで割り当てる容量以上の空き容量が /usr に必要です。パーティショニング スキームでは、必ず 4,000,000 ブロック以上が /usr に割り当てられるようにし ます。
- 4 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

FreeBSD 4.10

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

FreeBSD 4.10 は、標準の FreeBSD ディストリビューション CD を使用して仮想マシン にインストールするのが最も簡単な方法です。

FreeBSD 4.10 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

FreeBSD 4.10 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、FreeBSD ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。
- このゲスト OS を使用する ESX Server 仮想マシンは、vmx イーサネット アダプタ を使用するように構成することをお勧めします。詳細は、製品ドキュメントを参 照してください。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに FreeBSD CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、FreeBSD のインストールを開始します。
- 3 [FreeBSD Disklabel Editor] では、インストーラのデフォルトのオプションである A パーティショニングを使用しないでください。オプション C を使用してマウント を作成します。VMware Tools をインストールするには、インストーラがデフォ ルトで割り当てる容量以上の空き容量が /usr に必要です。パーティショニング スキームでは、必ず 4,000,000 ブロック以上が /usr に割り当てられるようにし ます。
- 4 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

FreeBSD 4.9

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

FreeBSD 4.9 は、標準の FreeBSD ディストリビューション CD を使用して仮想マシン にインストールするのが最も簡単な方法です。

FreeBSD 4.9 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

FreeBSD 4.9 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、FreeBSD ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。
- このゲスト OS を使用する ESX Server 仮想マシンは、vmx イーサネット アダプタ を使用するように構成することをお勧めします。詳細は、製品ドキュメントを参 照してください。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに FreeBSD CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、FreeBSD のインストールを開始します。
- 3 [FreeBSD Disklabel Editor] では、インストーラのデフォルトのオプションである A パーティショニングを使用しないでください。オプション C を使用してマウント を作成します。VMware Tools をインストールするには、インストーラがデフォ ルトで割り当てる容量以上の空き容量が /usr に必要です。パーティショニング スキームでは、必ず 4,000,000 ブロック以上が /usr に割り当てられるようにし ます。
- 4 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

FreeBSD 4.4、4.5、4.6.2、4.8

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

FreeBSD 4.4、4.5、4.6.2、または 4.8 は、標準の FreeBSD ディストリビューション CD を使用して仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。

FreeBSD 4.4 ~ 4.8 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

FreeBSD 4.4 ~ 4.8 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、FreeBSD ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。
- FreeBSD 4.6 はサポートされていません。代わりに FreeBSD 4.6.2 を使用してください。これにより、仮想マシンに FreeBSD 4.6 をインストールする際に発生する問題が解決します。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに FreeBSD CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、FreeBSDのインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

VMware Tools

FreeBSD 4.0、4.1、4.2、4.3

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

FreeBSD 4.0、4.1、4.2、または 4.3 は、標準の FreeBSD ディストリビューション CD を 使用して仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。

FreeBSD 4.0 ~ 4.3 をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

FreeBSD 4.0 ~ 4.3 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- VMware 仮想マシンで BusLogic 仮想 SCSI アダプタを使用した際、FreeBSD ゲスト OS の多くでさまざまな問題が発生しています。このゲスト OS では、LSI Logic 仮想 SCSI アダプタを使用することをお勧めします。
- 仮想マシンに仮想 IDE ディスクを構成している場合は、物理マシンと同じ手順で インストールを行います。仮想マシンに 2GB 以上の SCSI 仮想ディスクが構成さ れている場合は、「FreeBSD の SCSI 仮想ディスク用のディスク ジオメトリの設定 (P.212)」を参照してください。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに FreeBSD CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、FreeBSD のインストールを開始します。
- 3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

FreeBSD の SCSI 仮想ディスク用のディスク ジオメトリの設定

FreeBSD 4.0、4.1、4.2、または 4.3 を 2GB 以上の SCSI 仮想ディスクにゲスト OS としてインストールする場合、このセクションの特別な手順を実行しないかぎり、ゲスト OS は起動しません。

これは、ゲスト OS をインストールする際、FreeBSD が仮想ディスクのジオメトリを 正しく検出しないためです。このため、FreeBSD は、仮想ディスク上の誤った場所に ブート ローダをインストールします。FreeBSD の起動時に、FreeBSD ブート ローダ が重要なデータを BIOS に求めますが、このデータは仮想ディスクの別のセクション に存在することになります。その結果、FreeBSD が起動しません。

この問題は、FreeBSD 4.4 で修正されました。これ以降のバージョンでは、あらゆる サイズの SCSI 仮想ディスクで正常に起動します。 仮想マシンで FreeBSD 4.0、4.1、4.2、または 4.3 を使用するには、次の 2 つの処理の いずれかを実行します。

- 仮想マシンで IDE 仮想ディスクを代わりに使用する。この場合、構成エディタを 使用して IDE 仮想ディスクを仮想マシンに追加する必要があることがあります。
- FreeBSDをインストールする際に、手動でディスクジオメトリを設定する。手順 は次のとおりです。

手動でディスク ジオメトリを設定するには

1 [FDISK Partition Editor] 画面が表示される前に、FreeBSD はディスク ジオメトリを 誤って計算します (下図参照)。

Dis) DIS)	с naмe: { Geometr	1a0 y: 2055 cy	∕ls∕64 heads/3	12 secto	rs = 42	FDISK 08640 secto	Partition ors (2055M)	Editor 3)
Offs	et	Size(ST)	End	Nаме	РТуре	Desc	Subtype	Flags
	0	4209030	4209029		6	unused	0	
The	followin	g commands	are supported	l (in up	per or	lower case)		
A =	Use Enti	re Disk	G = set Drive	Geomet	ry C	= Create SI		
D = T =	Delete S Change T	lice ype	Z = Toggle Si U = Undo All	.ze Unit Changes	s S Q	= Set Boota = Finish	ıble	
Use	F1 or ?	to get more	e help, arrow	keys to	select			

2 ディスクジオメトリを設定します。<G> キーを押して [Set Drive Geometry] オプ ションを選択します。2055/64/32 のような数字がダイアログボックスに表示さ れます。これは誤ったジオメトリのシリンダー数、ヘッド数、およびヘッドごと のセクタ数を表したものです。



3 正しいジオメトリを計算するには、まずシリンダ数、ヘッド数、およびヘッドごとのセクタ数をすべて乗算し、セクタ数の総計を算出します。次に、そのセクタ数を、正しいヘッド数とヘッドごとのセクタ数とを乗算した値で除算します。

前図の仮想ディスクは、2055 シリンダ、64 ヘッド、32 セクタで構成された 2055MBのディスクです (この数字は誤ったジオメトリを表す)。この3 つの数 字を乗算すると (2055 x 64 x 32 =) 4,208,640 セクタになります。

仮想マシンが使用する BusLogic 互換の仮想 SCSI アダプタ用の正しいジオメトリ を特定するには、4,208,640 セクタを、実際のヘッド数とヘッドごとのセクタ数 とを乗算した値 (255 ヘッド x 63 セクタ)で除算してシリンダ数を算出します。 この結果、実際のシリンダ数は 261 になります (4208640/(255 × 63) = 261、 端数切捨て)。



4 ここまで計算したら、正しいジオメトリ(261 シリンダ、255 ヘッド、ヘッドご とに 63 セクタ)として、ダイアログ ボックスに **261/255/63** と入力します。 [OK] をクリックし、FreeBSD のインストールを続行します。

VMware Tools

NetWare 6.5 Server

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

NetWare 6.5 は、標準の Novell NetWare 6.5 Operating System and Product CD-ROM を 使用して仮想マシンにインストールできます。

NetWare 6.5 Server をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

- 新規仮想マシンを作成し、構成する。
- ESX Server 上の Novell Open Enterprise Server を搭載した NetWare 6.5 に仮想マシンを作成する場合、ゲスト OS に [Novell NetWare] を選択し、バージョンに [Novell NetWare 6.x] を選択する。

NetWare 6.5 のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- NetWare 6.5 は、512MB 以上のメモリで構成されたコンピュータにインストール することをお勧めします。
- Support Pack 1 が適用されていないゲスト: Novell テクニカル情報 (http://support.novell.com/subscriptions/readmes/2967370.html) に目を通して ください。このドキュメントには、SP1 が適用されていない NetWare 6.5 Server をゲスト OS としてインストールする際に不可欠な NetWare パッチのダウンロー ドおよびインストールに必要な手順が記載されています。
- NetWare 6.5 ゲストをインストールする仮想マシンを構成する際は、仮想 LSI Logic SCSI アダプタを使用してください。NetWare 6.5 には、仮想 BusLogic SCSI アダプタのドライバが含まれていません。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに Novell NetWare 6.5 Product CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、NetWare 6.5 のインストールを開始します。
- 3 使用許諾契約書に目を通し、同意します。
- 注意 使用許諾契約書の前に選択画面がいくつか表示されます。NetWare のインストール、CD-ROM ドライブの種類、フロッピードライブの復元方法、および実行モードは、デフォルト値を使用して処理を続行してください。
 - 4 選択画面が表示されたら、[IDE CD-ROM] を選択します。
 - 5 新しいブート パーティションを作成します。ゲスト OS が再起動します。インス トールを続行します。

6 VMware ESX Server:ステップ7に進みます。

VMware Workstation、VMware ACE、および VMware GSX Server: 次のいずれ かの処理を実行して、IP ネットワークを構成します。

 仮想マシンでブリッジネットワークを使用する場合は、そのIPアドレスを 入力します。

NetWare が LAN ドライバをロード (pcntnw.lan を使用) しようとすると、 自身の IP アドレス宛てにブロードキャストしてしまうため、処理が中断さ れます。このため、IP ネットワークが動作しなくなります。

この問題を回避するには、System Console を開いて(<Ctrl> + <Esc> キー を押す)次を入力します。

set allow ip address duplicates=on

<Alt>+<Esc> キーを押してインストール モードに戻ります。

 仮想マシンでホストオンリーネットワークを使用する場合は、そのホスト マシンの IP アドレスを調べます。

Windows ホストの場合、コマンドプロンプトで次のように入力します。

ipconfig /all

Linux ホストの場合、コマンドプロンプトで次のように入力します。

ifconfig

ホストの VMnet1 の IP アドレスを記録し、その最後のオクテットが、ホストの IP アドレスの最後のオクテットより大きくなるように変更します。

たとえば、ホストのIPアドレスが 192.168.160.1 の場合、仮想マシンのIPアドレスは 192.168.160.###となり、この ### には、1 より大きく 128 未満の任意の数字を設定します。

サブネットマスクには、255.255.255.0と入力します。

ルータゲートウェイには、ホストのIPアドレス(この例では 192.168.160.1)を入力します。

 仮想マシンでネットワークアドレス変換(NAT)を使用する場合は、そのホ ストマシンのIPアドレスを調べます。

Windows ホストの場合、コマンドプロンプトで次のように入力します。

ipconfig /all

Linux ホストの場合、コマンドプロンプトで次のように入力します。
ifconfig

ホストのVMnet8のIPアドレスを記録し、その最後のオクテットが、ホストのIPアドレスの最後のオクテットより大きくなるように変更します。

たとえば、ホストのIPアドレスが 192.168.160.1 の場合、仮想マシンのIPアドレスは 192.168.160.###となり、この ### には、2 より大きく 128 未満の任意の数字を設定します。

サブネットマスクには、255.255.255.0と入力します。

ルータゲートウェイには、NATサービスのIPアドレス(この例では 192.168.160.2)を入力します。

NAT では、ホスト上で次の2つのIP アドレスが使用されます。

- VMnet8用のインターフェイスに割り当てられるIPアドレス (ipconfig 出力に表示され、最後のオクテットが「.1」)
- NAT デバイス自体が使用する IP アドレス (最後のオクテットが常に「.2」)
- 7 画面の指示に従ってインストールを完了します。

インストールの完了後、VMware Tools をインストールします。これをインストール すると、CPU アイドル プログラムがインストールされ、ロードされます。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

VMware Tools をインストールすると、CPU アイドル プログラムもインストールされ、 ロードされます。NetWare サーバは、オペレーティング システムがアイドル状態に なった場合でも CPU を使用します。このため、NetWare サーバ ソフトウェアがアイ ドル状態であるかビジー状態であるかに関わらず、仮想マシンはホストから CPU 時 間を消費します。不必要な遅延を避けるため、VMware Tools のインストール後は、 インストールされた NetWare CPU アイドル プログラムを常にロードしておくことを お勧めします。

NetWare 6.0 Server

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

NetWare 6.0 は、標準の Novell NetWare 6.0 の CD-ROM を使用して仮想マシンにイン ストールできます。

NetWare 6.0 Server をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

NetWare 6.0 Server のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- NetWare 6 は、256MB 以上のメモリで構成されたコンピュータにインストールすることをお勧めします。
- NetWare のインストール中に、インストール CD からの起動を 2 回行う必要があります。1 回目は仮想マシンのディスク ドライブをフォーマットするため、2 回目は CD からファイルをインストールするためです。

再起動中に、「Operating System not found」というメッセージが表示され、 さらに「No bootable CD, floppy or hard disk was detected」というメッ セージのダイアログボックスが表示されます。

2回目に CD から起動するには、起動の順番を変更します。

仮想マシンの起動中に仮想マシンのウィンドウ内をクリックします。VMware の ロゴが表示されたら <Esc> キーを押します。カーソル キーを使用して、ブート デバイスとして CD ドライブを選択し、<Enter> キーを押します。

 NetWare 6.0 ゲストをインストールする仮想マシンを構成する際は、仮想 LSI Logic SCSI アダプタを使用してください。NetWare 6.0 には、仮想 BusLogic SCSI アダプタのドライバが含まれていません。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに NetWare 6.0 Server CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、NetWare 6.0 のインストールを開始します。
- 3 使用許諾契約書に目を通し、同意します。
- 4 選択画面が表示されたら、[IDE CD-ROM]を選択します。
- 5 新しいブートパーティションを作成します。ゲスト OS が再起動します。
- 6 次のいずれかの処理を実行して、IPネットワークを構成します。

 仮想マシンでブリッジネットワークを使用する場合は、そのIPアドレスを 入力します。

NetWare がLAN ドライバをロード (pcntnw.lan を使用) しようとすると、 自身の IP アドレス宛てにブロードキャストしてしまうため、処理が中断さ れます。このため、IP ネットワークが動作しなくなります。

この問題を回避するには、System Console を開いて(<Ctrl> + <Esc> キー を押す)次を入力します。

set allow ip address duplicates=on

<Alt> + <Esc> キーを押してインストール モードに戻ります。

 仮想マシンでホストオンリーネットワークを使用する場合は、そのホスト マシンのIPアドレスを調べます。

Windows ホストの場合、コマンドプロンプトで次のように入力します。

ipconfig /all

Linux ホストの場合、コマンドプロンプトで次のように入力します。

ifconfig

ホストの VMnet1 の IP アドレスを記録し、その最後のオクテットが、ホストの IP アドレスの最後のオクテットより大きくなるように変更します。

たとえば、ホストのIPアドレスが 192.168.160.1 の場合、仮想マシンのIPアドレスは 192.168.160.###となり、この ### には、1 より大きく 128 未満の任意の数字を設定します。

サブネットマスクには、255.255.255.0と入力します。

ルータゲートウェイには、ホストのIPアドレス(この例では 192.168.160.1)を入力します。

 仮想マシンでネットワークアドレス変換(NAT)を使用する場合は、そのホ ストマシンのIPアドレスを調べます。

Windows ホストの場合、コマンドプロンプトで次のように入力します。

ipconfig /all

Linux ホストの場合、コマンド プロンプトで次のように入力します。

ifconfig

ホストの VMnet8 の IP アドレスを記録し、その最後のオクテットが、ホストの IP アドレスの最後のオクテットより大きくなるように変更します。

たとえば、ホストのIPアドレスが 192.168.160.1 の場合、仮想マシンのIPアドレスは 192.168.160.### となり、この ### には、2 より大きく 128 未満の任意の数字を設定します。

サブネットマスクには、255.255.255.0と入力します。

ルータゲートウェイには、NATサービスのIPアドレス(この例では 192.168.160.2)を入力します。

NATでは、ホスト上で次の2つのIPアドレスが使用されます。

- VMnet8用のインターフェイスに割り当てられるIPアドレスは、 ipconfig出力に表示され、最後のオクテットが1です。
- NAT デバイス自体が使用する IP アドレスは、最後のオクテットが常に2です。
- 7 インストールを完了します。

インストールの完了後、VMware Tools をインストールします。これをインストール すると、CPU アイドル プログラムがインストールされ、ロードされます。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

VMware Tools をインストールすると、CPU アイドル プログラムもインストールされ、 ロードされます。NetWare サーバは、オペレーティング システムがアイドル状態に なった場合でも CPU を使用します。このため、NetWare サーバ ソフトウェアがアイ ドル状態であるかビジー状態であるかに関わらず、仮想マシンはホストから CPU 時 間を消費します。不必要な遅延を避けるため、VMware Tools のインストール後は、 インストールされた NetWare CPU アイドル プログラムを常にロードしておくことを お勧めします。

NetWare 5.1 Server

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

NetWare 5.1 Server は、標準の Novell NetWare 5.1 Server CD-ROM を使用して仮想マシ ンにインストールできます。

NetWare 5.1 Server をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

NetWare 5.1 Server のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

- NetWare 5.1 は、256MB 以上のメモリで構成されたコンピュータにインストール することをお勧めします。
- NetWare 5.1 Server Support Pack 6 を実行する場合、最新の LSI Logic SCSI ドライ バをインストールする必要があります。ドライバのダウンロードおよびインス トールについては、次の URL を参照してください。 http://kb.vmware.com/kb/1181
- SCSIをサポートするには、最新のLSI Logic ドライバをダウンロードする必要が あります。
- NetWareのインストール中に、インストールCDから2回起動します。1回目は 仮想マシンのディスクドライブをフォーマットするため、2回目はCDからファ イルをインストールするためです。

再起動中に、「Operating System not found」というメッセージが表示され、 さらに「No bootable CD, floppy or hard disk was detected」というメッ セージのダイアログ ボックスが表示されます。

2回目に CD から起動するには、起動の順番を変更します。

仮想マシンの起動中に仮想マシンのウィンドウ内をクリックします。VMware の ロゴが表示されたら <Esc> キーを押します。カーソル キーを使用して、ブート デバイスとして CD ドライブを選択し、<Enter> キーを押します。

インストールの手順

- 1 CD-ROM ドライブに NetWare 5.1 Server CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、NetWare 5.1 のインストールを開始します。
- 3 使用許諾契約書に目を通し、同意します。

- 4 新しいブート パーティションを作成します。ゲスト OS が再起動します。インス トールを続行します。
- 5 VMware ESX Server:ステップ6に進みます。

VMware Workstation、VMware ACE、および VMware GSX Server:次のいずれ かの処理を実行して、IP ネットワークを構成します。

 仮想マシンでブリッジネットワークを使用する場合は、そのIPアドレスを 入力します。

NetWare がLAN ドライバをロード (pcntnw.lan を使用) しようとすると、 自身の IP アドレス宛てにブロードキャストしてしまうため、処理が中断さ れます。このため、IP ネットワークが動作しなくなります。

この問題を回避するには、System Console を開いて(<Ctrl> + <Esc> キーを押す)次を入力します。

set allow ip address duplicates=on

<Alt>+<Esc> キーを押してインストール モードに戻ります。

 仮想マシンでホストオンリーネットワークを使用する場合は、そのホスト マシンの IP アドレスを調べます。

Windows ホストの場合、コマンドプロンプトで次のように入力します。

ipconfig /all

Linux ホストの場合、コマンド プロンプトで次のように入力します。

ifconfig

ホストの VMnet1 の IP アドレスを記録し、その最後のオクテットが、ホスト の IP アドレスの最後のオクテットより大きくなるように変更します。

たとえば、ホストのIPアドレスが 192.168.160.1 の場合、仮想マシンのIPアドレスは 192.168.160.###となり、この ### には、1 より大きく 128 未満の任意の数字を設定します。

サブネットマスクには、255.255.255.0と入力します。

ルータゲートウェイには、ホストのIPアドレス(この例では 192.168.160.1)を入力します。

 仮想マシンでネットワークアドレス変換(NAT)を使用する場合は、そのホ ストマシンのIPアドレスを調べます。

Windows ホストの場合、コマンドプロンプトで次のように入力します。

ipconfig /all

Linux ホストの場合、コマンドプロンプトで次のように入力します。

ifconfig

ホストの VMnet8 の IP アドレスを記録し、その最後のオクテットが、ホスト の IP アドレスの最後のオクテットより大きくなるように変更します。

たとえば、ホストのIPアドレスが 192.168.160.1 の場合、仮想マシンのIPアドレスは 192.168.160.###となり、この ### には、2 より大きく 128 未満の任意の数字を設定します。

サブネットマスクには、255.255.255.0と入力します。

ルータゲートウェイには、NATサービスのIPアドレス(この例では 192.168.160.2)を入力します。

NAT では、ホスト上で次の2つのIP アドレスが使用されます。

- VMnet8用のインターフェイスに割り当てられるIPアドレスは、 ipconfig 出力に表示され、最後のオクテットが1です。
- NAT デバイス自体が使用する IP アドレスは、最後のオクテットが常に2です。
- 6 画面の指示に従ってインストールを完了します。

インストールの完了後、VMware Tools をインストールします。これをインストール すると、CPU アイドル プログラムがインストールされ、ロードされます。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

VMware Tools をインストールすると、CPU アイドル プログラムもインストールされ、 ロードされます。NetWare サーバは、オペレーティング システムがアイドル状態に なった場合でも CPU を使用します。このため、NetWare サーバ ソフトウェアがアイ ドル状態であるかビジー状態であるかに関わらず、仮想マシンはホストから CPU 時 間を消費します。不必要な遅延を避けるため、VMware Tools のインストール後は、 インストールされた NetWare CPU アイドル プログラムを常にロードしておくことを お勧めします。

NetWare 4.2 Server

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

NetWare 4.2 Server は、標準の Novell NetWare 4.2 Server インストール CD を使用して 仮想マシンにインストールできます。

NetWare 4.2 Server をインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

- 新規仮想マシンを作成し、構成する。
- Linux ホストで仮想マシンを作成した場合は、次の手順を実行します。
 - a 構成ファイル (<Netware>.cfg)をテキストエディタで開き、次の行を追加します。

gui.iconLEDS = false

- b これにより、コンソールウィンドウ内のLEDアイコンがすべて削除され、 ホストが8ビット/256色モードの時に仮想マシンをパワーオンしても、仮 想マシンの画面が正常に表示されます。
- c ゲスト OS および VMware Tools (CPU アイドル プログラムを含む) をインス トールします。「VMware Tools (P.227)」を参照してください。

NetWare 4.2 Server のサポートおよび構成に関する次の問題について検討してください。

 NetWare 4.2 Server は、256MB 以上のメモリで構成されたホストにインストール することをお勧めします。

インストールの手順

- このガイドラインの手順に従って、小さいパーティション (50MB FAT16)で MS-DOS 5.0 以降をインストールすることをお勧めします。仮想ディスクの残り の空き容量は、NetWare パーティションに使用します。仮想マシンでほとんど NetWare を実行する場合でも、CPU アイドル プログラムをインストールしてお くことが最善です。
- MS-DOS 向けの CD-ROM ドライバまたは CD-ROM ソフトウェアをインストール します。MS-DOS 仮想マシンが CD-ROM ドライブにアクセスできるように設定 できない場合は、mtmcdai.sys ドライバを使用できます。これは、 www.mitsumi.com からダウンロードできます。[Drivers and Manuals] で、 ide158.exe を見つけます。
- 3 MS-DOS 起動フロッピー上に (mscdex.exe ファイルとともに)存在する config.sys および autoexec.bat ファイルを次のように変更します。MS-DOS

ブート パーティションを使用している場合は、適切なドライブ レターに変更します。

config.sys device=himem.sys /testmem:off device=NEC_IDE.SYS /D:MSCD001 files=12 buffers=15 stacks=9,256 lastdrive=z

autoexec.bat @ECH0 OFF set EXPAND=YES SET DIRCMD=/0:N cls set temp=c:¥ set tmp=c:¥ path=c:¥

IF "%config%"=="NOCD" GOTO QUIT
a:¥NWCDEX.EXE /D:mscd001

:QUIT

CD-ROM ソフトウェアを構成したあと、仮想マシンがホスト システムの CD-ROM ドライブから CD を読み取ることができるかを確認します。

- 4 仮想マシンが実行中でない場合は、パワーオンしてから MS-DOS が起動処理を 完了するまで待ちます
- 5 GSX Server ホストの CD-ROM ドライブに NetWare 4.2 CD を挿入します。
- 6 仮想マシンの MS-DOS プロンプトで、次のコマンドを入力して fdisk を実行し、 NetWare 用のパーティションを作成します。

A:¥>fdisk

- 8 次のコマンドを入力して、C:ドライブをフォーマットします。

format c: /s /x

9 次のコマンドを入力して、フロッピーから C: ドライブに次のファイルをコピー します。

Copy autoexec.bat c: Copy config.sys c: Copy himem.sys c: Copy nwcdex.exe c: Copy nec_ide.sys c:

- 10 フロッピー ドライブではなく、ハード ドライブ上の CD-ROM ディレクトリを参照するように autoexec.bat ファイルを変更します。
 - a autoexec.bat を変更するには、C: プロンプトに次のように入力します。

a:edit autoexec.bat

b 次の行を

a:¥NWCDEX.EXE /D:mscd001

次のように変更します。

c:¥NWCDEX.EXE /D:mscd001

c 変更を保存します。

cd d:

- 11 **INSTALL.BAT** を実行して NetWare サーバのインストールを開始します。ソフト ウェアは、物理マシンの場合と同じ手順で仮想マシンにインストールします。
- 12 仮想マシンにネットワーク(ブリッジ、ホストオンリー、NAT、またはカスタ ム)が構成されている場合、インストールプログラムが PCI イーサネット アダプ タを検知し、利用可能なドライバのリストを表示します。ただし、この時点で は、LAN ドライバを選択したり、ロードしたりしないでください。<F3> キーを 押すと、LAN ドライバがない場合でもインストールを続行できます。
- 注意 インストールが完了したら、適切な LAN ドライバをロードしてバインドできま す。NetWare 4.2 のインストール中に LAN ドライバを選択したりロードしたりす ると、インストール処理がハング アップすることがあります。

13 画面の指示に従って NetWare 4.2 のインストールを完了します。

サーバをシャットダウンしてから、exit と入力して MS-DOS プロンプトに戻り ます。

インストールの完了後、VMware Tools をインストールします。これをインストール すると、CPU アイドル プログラムがインストールされ、ロードされます。

VMware Tools

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

NetWare 4.2 仮想マシンでは、VMware Tools の CPU アイドル プログラムを利用できる ため、ゲスト OS からホストにハートビートが送信されます。また、VMware Tools に よって仮想マシンが正常にパワーオンまたはパワーオフできるようになります。 VMware Tools をインストールすると、CPU アイドル プログラムもインストールされ、 ロードされます。NetWare サーバは、オペレーティング システムがアイドル状態に なった場合でも CPU を使用します。このため、NetWare サーバ ソフトウェアがアイ ドル状態であるかビジー状態であるかに関わらず、仮想マシンはホストから CPU 時 間を消費します。不必要な遅延を避けるため、VMware Tools のインストール後は、 インストールされた NetWare CPU アイドル プログラムを常にロードしておくことを お勧めします。

Solaris 10 オペレーティング システム x86 プラットフォーム 版

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

VMware 製品は x86 プラットフォーム版のみをサポートしています。VMware 仮想マシンに SPARC プラットフォーム版をインストールすることはできません。

Solaris 10 オペレーティング システムは、標準の x86 版 Solaris 10 インストール メディ アを使用して仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここでは、 CD セットまたは DVD を使用したインストールの手順を説明します。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストー ルすることもできます。

Solaris 10 オペレーティング システムをインストールする前に、次の要件を満たす必要があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Solaris 10 オペレーティングシステムのサポートおよび構成に関する次の問題につい て検討してください。

- 64 ビットの Solaris 10 ゲストは、e1000 ネットワーク アダプタ ドライバのみサ ポートしています。
- VMware Server または ESX Server:
 - Solaris 10 1/06 リリース以降は、512MBのメモリが推奨されています。最小 要件は 256MBです。
 - Solaris 10 3/05 リリースでは、256MBのメモリが推奨されています。最小要件は 128MBです。
- 仮想マシンのゲスト OS を Solaris 10 1/06 リリース以降にアップグレードする前に、仮想マシンの RAM を 256MB 以上に増やします。詳細は、VMware 製品のドキュメントを参照してください。詳細は、Sun 社の Web サイト(http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-0544/6mgbagb0v?a=view)の「System Requirements and Recommendations for Solaris 10 Installation」を参照してください。

インストールの手順

- DVD または CD-ROM ドライブに、Solaris 10 オペレーティング システム x86 プ ラットフォーム版 DVD または Solaris 10 ソフトウェア 1 CD を挿入します。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Solaris 10 のインストールを開始します。

3 残りの手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じです。

これでゲスト OS としての Solaris 10 の基本インストールが完了です。

VMware Tools (ESX Server 3.x のみ)

ゲスト OS には必ず VMware Tools をインストールします。VMware Tools の概要と、 VMware Tools のインストール手順が記載されたマニュアルのリストについては、ナ レッジ ベースの記事 340 (http://kb.vmware.com/kb/340) を参照してください。

注意 Solaris 10 1/06 よりも前の Solaris 10 では、VMware Tools のサポートは試験的なものです。

Solaris 9 オペレーティング システム x86 プラットフォーム 版

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

VMware 製品は x86 プラットフォーム版のみをサポートしています。VMware 仮想マシンに SPARC プラットフォーム版をインストールすることはできません。

Solaris 9オペレーティングシステムは、標準の Solaris x86 プラットフォーム版インス トール CD を使用して仮想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ここ では、CD を使用したインストールの手順を説明します。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストールすることもで きます。

Solaris9オペレーティングシステムをインストールする前に、次の要件を満たす必要 があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Solaris9オペレーティングシステムのサポートおよび構成に関する次の問題について 検討してください。

 仮想マシンで SCSI ハード ディスクを使用する場合、仮想マシンが LSI Logic アダ プタを使用するように構成し、Solaris 9 9/04 以降のリリースを使用してくださ い。Solaris 9 9/04 以降のリリースには、LSI Logic ドライバが含まれています。そ れ以前のリリースの Solaris 9 を使用する仮想マシンに SCSI ハード ディスクを構 成する場合は、LSI Logic ドライバを入手し、インストール時のアップデートとし てインストールする必要があります。ドライバをダウンロードするには、LSI Logic 社のダウンロードのページ (www.lsi.com/support/download_center/) で [Select a Specific Product] ドロップダウン リストから [LSI53C1030] を選択してく ださい。

インストールの手順

ほとんどの場合、インストール手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じ です。

- CD-ROM ドライブに Solaris 9 x86 プラットフォーム版インストール CD を挿入し ます。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Solaris9のインストールを開始します。
- 3 [Boot Solaris] 画面が表示されたら、<F4> キーを押します。

- 4 [Boot Tasks] 画面で、カーソルキーを使用して [View/Edit Property Settings] を選択し、<Enter>キーを押してその項目を選択してから、<F2>キーを押して処理 を続行します。
- 5 カーソルキーを使用してプロパティ [ata-dma-enabled] を選択します。<Enter> キーを押してその項目を選択してから、<F3>キーを押して値を変更します。
- 6 [Specify Value] プロンプトで1 と入力してから <Enter> キーを押し、DMA を有効 にします。
- 7 [View/Edit Property Settings] 画面で <F2> キーを押し、[Boot Tasks] 画面で <F3> キーを押します。
- 8 CD-ROM セットからインストールする場合は、[Boot Solaris] 画面で CD を選択し、 インストールを続行します。

Xサーバを構成するには

最初の2回のタイミングでは、KDMXサーバの構成を省略します。ソフトウェアがす べてインストールされた時点で3回目のタイミングが訪れますので、その時点までX サーバの構成を待ってください。

インストール中に [kdmconfig - Introduction] 画面が表示されたら <F4> キーを押し、X サーバの構成を省略してインストールを続行します。

ソフトウェアのインストールが完了すると、X Server を構成するための root パス ワードが求められます ([Windows System Configuration])。

- root パスワードを入力します。[kdmconfig Mismatch Detected] 画面が表示され ます。<F2> キーを押して構成します。
- デフォルトのオプション ([Change Video Device/Monitor]) を選択し、<F2> キーを押して処理を続行します。
- 4 <Enter> キーを押して [16 color Standard VGA 640x480 (256K)] を選択してから、
 <F2> キーを押して処理を続行します。
- 5 カーソル キーを使用して [Multifrequency 100KHz (up to 1600x1200@80Hz)] を選 択します。<Enter> キーを押し、<F2> キーを押して処理を続行します。
- 6 デフォルトのスクリーンサイズ (17 インチ)を変更せずに使用します。<F2> キーを押して処理を続行します。
- 7 デフォルトのオプション(640x480)を変更せずに使用します。[Virtual Screen Resolution Selection] 画面で <F2> キーを押します。
- デフォルトの [No changes needed Test/Save and Exit] を変更せずに使用します。
 <F2> キーを押して処理を続行します。
- 9 <F4> キーを押して Windows System Configuration テストを省略します。

10 プロンプトに従ってインストールを完了します。

これで、Solaris 9 ゲスト OS および KDM X サーバの基本的なインストールが完了です。

VMware Tools

Solaris 9をサポートしている VMware Tools のバージョンはありません。

Solaris 8 オペレーティング システム x86 プラットフォーム版

このゲスト OS をインストールする前に、「VMware 製品すべてに共通する一般的なインストール手順(P.19)」とこのセクションに必ず目を通してください。

VMware 製品は x86 プラットフォーム版のみをサポートしています。VMware 仮想マシンに SPARC プラットフォーム版をインストールすることはできません。

Solaris 8 x86 は、標準の Solaris x86 プラットフォーム版インストール CD を使用して仮 想マシンにインストールするのが最も簡単な方法です。ご使用の VMware 製品で PXE サーバがサポートされている場合は、PXE サーバからインストールすることもできま す。

Solaris 8 オペレーティング システムをインストールする前に、次の要件を満たす必要 があります。

■ 新規仮想マシンを作成し、構成する。

Solaris 8 オペレーティング システムのサポートおよび構成に関する次の問題について 検討してください。

- Solaris 8 インストール CD には、Solaris 8 SCSI (LSI/LSISAS) ドライバは含まれて いません。仮想マシンにゲスト OS をインストールするときに LSI/LSISAS ドライ バを選択する場合、Solaris 8 のインストール中にドライバをインストールしてい ないと、SCSI ハード ディスクを検出しません。結果として、ITU (Install Time Update) ドライバ ディスクを作成する必要があります。
- SCSI ハード ドライブを使用する場合は、「SCSI ドライバの追加(P.235)」を参照 してください。
- IDE コントローラを選択した場合は、「インストールの手順(P.233)」の手順に 従って Solaris 8 のインストールを開始します。

インストールの手順

ほとんどの場合、インストール手順は、物理マシンでインストールを行う場合と同じ です。

- CD-ROM ドライブに Solaris 8 x86 プラットフォーム版インストール CD を挿入し ます。
- 2 仮想マシンをパワーオンして、Solaris 8 のインストールを開始します。
- 3 [Boot Solaris] 画面が表示されたら、<F4> キーを押します。

- 4 [Boot Tasks] 画面で、カーソルキーを使用して [View/Edit Property Settings] を選択し、<Enter>キーを押してその項目を選択してから、<F2>キーを押して処理 を続行します。
- 5 カーソルキーを使用してプロパティ [ata-dma-enabled] を選択します。<Enter> キーを押してその項目を選択してから、<F3>キーを押して値を変更します。
- 6 [Specify Value] プロンプトで1 と入力してから <Enter> キーを押し、DMA を有効 にします。
- 7 [View/Edit Property Settings] 画面で <F2> キーを押し、[Boot Tasks] 画面で <F3> キーを押します。
- 8 CD-ROM セットからインストールする場合は、[Boot Solaris] 画面で CD を選択し、 インストールを続行します。

Xサーバを構成するには

最初の2回のタイミングでは、KDMXサーバの構成を省略します。ソフトウェアがす べてインストールされた時点で3回目のタイミングが訪れますので、その時点までX サーバの構成を待ってください。

インストール中に [kdmconfig - Introduction] 画面が表示されたら <F4> キーを押し、X サーバの構成を省略してインストールを続行します。

ソフトウェアのインストールが完了すると、X Server を構成するための root パス ワードが求められます ([Windows System Configuration])。

- root パスワードを入力します。[kdmconfig Mismatch Detected] 画面が表示され ます。<F2> キーを押して構成します。
- デフォルトのオプション ([Change Video Device/Monitor]) を選択し、<F2> キーを押して処理を続行します。
- 4 <Enter> キーを押して [16 color Standard VGA 640x480 (256K)] を選択してから、
 <F2> キーを押して処理を続行します。
- 5 カーソル キーを使用して [Multifrequency 100KHz (up to 1600x1200@80Hz)] を選 択します。<Enter> キーを押し、<F2> キーを押して処理を続行します。
- 6 デフォルトのスクリーンサイズ (17インチ)を変更せずに使用します。<F2> キーを押して処理を続行します。
- 7 デフォルトのオプション(640x480)を変更せずに使用します。[Virtual Screen Resolution Selection] 画面で <F2> キーを押します。
- デフォルトの [No changes needed Test/Save and Exit] を変更せずに使用します。
 <F2> キーを押して処理を続行します。
- 9 <F4> キーを押して Windows System Configuration テストを省略します。

10 プロンプトに従ってインストールを完了します。

これで、Solaris 8 ゲスト OS および KDM X サーバの基本的なインストールが完了です。

SCSI ドライバの追加

SCSI ドライバを追加するには、Solaris 8 ドライバでドライバ ディスクを作成します。 ドライバをインストールすると、インストール中にドライバが SCSI ハード ドライブ を検出します。

次の LSI Web サイトから、Solaris 8 の SCSI ドライバをダウンロードしてください。

http://www.lsi.com/DistributionSystem/AssetDocument/itmpt_x86_5.07.04.zip

Solaris を使用した ITU ドライバ ディスクの作成

zip ファイル内の既存の dd イメージ **itmpt-x86-50704-itu-s9.dd** ファイルを使用 して、ドライバ ディスクを作成します。

次のコマンドを入力して、ドライバディスクを作成します。

dd if=itmpt-x86-50704-itu-s9.dd of=/vol/dev/aliases/floppy0 bs=32768

注意 Windows を使用してディスクを作成する場合は、zip ファイル内の itmpt_x86_5.07.04.txtの説明を参照してください。

SCSI ハード ドライブの検出

ここでの説明は、SCSIおよび LSI/LSI SAS の両方に対応しています。

- 1 インストールを開始する場合は、[Solaris Device Configuration Assistant] 画面で <F4> キーを押し、ドライバを追加します。
- ITU ディスクを挿入し(フロッピードライブを仮想マシンの A: に接続)、<F2> キーを押して処理を続行します。

ディスクが仮想マシンにソフトウェアをロードします。

- [Continue Supplement Driver Installation] 画面でディスクを切断し、<F4> キーを 押します。
- 4 [Identified Device Drivers] 画面で <F2> キーを押し、インストールを続行します。 「インストールの手順(P.233)」の「手順3」に従い、残りのインストール処理を 行います。

VMware Tools

Solaris 8 をサポートしている VMware Tools のバージョンはありません。

ゲスト OS インストール ガイド

インデックス

А

Asianux 3.0 47 ゲスト OS のインストール 47

С

CentOS 4 51 ゲスト OS のインストール 51 CentOS 5 49 ゲスト OS のインストール 49 CPU アイドル プログラム MS-DOS 6.22 46 NetWare 4.2 Server 227 NetWare 5.1 Server 223 NetWare 6.0 Server 220 NetWare 6.5 Server 217

D

Debian 4.0 54 ゲスト OS のインストール 54 Debian 5.0 53 ゲスト OS のインストール 53 DMA Windows 95 ゲストでの有効化 42 Windows NT ゲストでの有効化 34

F

FreeBSD 4.0、4.1、4.2、4.3 212 ゲスト OS のインストール 212 FreeBSD 4.0、4.1、4.2、4.3 ゲストの SCSI 仮想ディスク 212 FreeBSD 4.0、4.1、4.2、4.3 ゲストのディ スク ジオメトリ 212

FreeBSD 4.10 209 ゲスト OS のインストール 209 FreeBSD 4.11 208 ゲスト OS のインストール 208 FreeBSD 4.4、 4.5、 4.6.2、 4.8 211 ゲスト OS のインストール 211 FreeBSD 4.9 210 ゲスト OS のインストール 210 FreeBSD 5.0 207 ゲスト OS のインストール 207 FreeBSD 5.1 206 ゲスト OS のインストール 206 FreeBSD 5.2 205 ゲスト OS のインストール 205 FreeBSD 5.3 204 ゲスト OS のインストール 204 FreeBSD 54 203 ゲスト OS のインストール 203 FreeBSD 5.5 202 ゲスト OS のインストール 202 FreeBSD 6.0 201 ゲスト OS のインストール 201 FreeBSD 6.1 200 ゲスト OS のインストール 200 FreeBSD 6.2 199 ゲスト OS のインストール 199 FreeBSD 6.3 197 ゲスト OS のインストール 197 FreeBSD 6.4 195 ゲスト OS のインストール 195 FreeBSD 7.0 194

ゲスト OS のインストール 194 FreeBSD 7.1 192 ゲスト OS のインストール 192 FreeBSD 7.2 190 ゲスト OS のインストール 190

G

GSX Server および VMware Server のサウ ンドアダプタ 18 GSX Server のサウンドアダプタ 18

I

IBM OS/2 Warp 4.0 57 起動ディスクの作成 58 ゲスト OS のインストール 57 IBM OS/2 Warp 4.5.2 55 起動ディスクの作成 56 ゲスト OS のインストール 55 ISO イメージ Windows PE 2.1 用に作成 22 ゲスト OS のインストール 20

L

LSI Logic SCSI アダプタ、Solaris 9 230

Μ

Mac OS X Server 10.5 59 ゲスト OS のインストール 59 Mandrake Linux 10 74 Xサーバのインストール 74 ゲスト OS のインストール 74 Mandrake Linux 10.1 72 Xサーバのインストール 72 ゲスト OS のインストール 72 Mandrake Linux 8.0 または 8.1 85 Xサーバのインストール 85 ゲスト OS のインストール 85 ゲスト OS のインストール 85 Mandrake Linux 8.2 83

Xサーバのインストール 83 ゲスト OS のインストール 83 Mandrake Linux 9.0 81 Xサーバのインストール 81 ゲスト OS のインストール 81 Mandrake Linux 9.1 79 Xサーバのインストール 79 ゲスト OS のインストール 79 Mandrake Linux 9.2 76 Xサーバのインストール 76 ゲスト OS のインストール 76 Mandriva Corporate Desktop 4 62 Xサーバのインストール 62 ゲスト OS のインストール 62 Mandriva Corporate Server 4 64 Xサーバのインストール 64 ゲスト OS のインストール 64 Mandriva Linux 2006 70 Xサーバのインストール 70 ゲスト OS のインストール 70 Mandriva Linux 2007 68 Xサーバのインストール 68 ゲスト OS のインストール 68 Mandriva Linux 2008 66 Xサーバのインストール 66 ゲスト OS のインストール 66 Microsoft Windows OEM ディスク、 ゲスト OS のインストール 20 MS-DOS 6.22 44 VMware Tools 未対応 46 ゲスト OS のインストール 44 推奨されるCPUアイドル プログラム 46

Ν

NetWare 4.2 Server 224 ゲスト OS のインストール 224

推奨される CPU アイドル プログラム 227 NetWare 5.1 Server 221 ゲスト OS のインストール 221 推奨されるCPUアイドル プログラム 223 NetWare 6.0 Server 218 ゲスト OS のインストール 218 推奨される CPU アイドル プログラム 220 NetWare 6.5 Server 215 ゲスト OS のインストール 215 推奨される CPU アイドル プログラム 217 Novell Linux Desktop 9 87 ゲスト OS のインストール 87

0

OEM ディスク、Microsoft Windows 20 Open SUSE Linux 10.3 141 ゲスト OS のインストール 141 Open SUSE Linux 11.1 139 ゲスト OS のインストール 139 Oracle Enterprise Linux 4 90 ゲスト OS のインストール 90 Oracle Enterprise Linux 5 88 ゲスト OS のインストール 88 OSMP、SCO UnixWare 7 ゲスト用にイン ストールおよび構成 126

Ρ

PXE サーバを使用したゲスト OS の インストール 20 PXE によるインストール 20

R

Red Hat Enterprise Linux 2.1 100 Xサーバのインストール 100 ゲスト OS のインストール 100

不適切なカーネルのインストールを 回避 101 Red Hat Enterprise Linux 3 97 ゲスト OS のインストール 97 Red Hat Enterprise Linux 4 94 ゲスト OS のインストール 94 Red Hat Enterprise Linux 5 92 ゲスト OS のインストール 92 Red Hat Linux 6.2 117 ゲスト OS のインストール 117 Red Hat Linux 7.0 115 Xサーバのインストール 115 ゲスト OS のインストール 115 Red Hat Linux 7.1 113 Xサーバのインストール 113 ゲスト OS のインストール 113 Red Hat Linux 7.2 111 Xサーバのインストール 111 ゲスト OS のインストール 111 Red Hat Linux 7.3 109 Xサーバのインストール 109 ゲスト OS のインストール 109 Red Hat Linux 8.0 107 Xサーバのインストール 107 ゲスト OS のインストール 107 Red Hat Linux 9.0 104 Xサーバのインストール 104 ゲスト OS のインストール 104 root、有効にして VMware Tools をイン ストール Ubuntu 8.04 | TS 177 Ubuntu 8.10 175 Ubuntu 9.04 173 Ubuntu 9.10 171 Ubuntu Linux 5.04 188 Ubuntu Linux 510, 186 Ubuntu Linux 6.06 184

Ubuntu Linux 6.10 182 Ubuntu Linux 7.04 181 Ubuntu Linux 7.10 179

S

SCO OpenServer 5.0 121 仮想ディスクの推奨 121 ゲスト OS のインストール 121 サポート対象の SCSI 仮想 ディスク 121 ドライバのダウンロード 122 ドライブサイズ 121 SCO OpenServer 5.0 のドライブ サイズ 121 SCO OpenServer 5.0 用のドライバのダウ ンロード 122 SCO UnixWare 7 125 OSMPのインストールと構成 126 ゲスト OS のインストール 125 メンテナンス パックの インストール 125 メンテナンス パックの ダウンロード 125 SCO UnixWare 7 ゲスト用のメンテナン スパックをダウンロード 125 SCSI 仮想ディスク、SCO OpenServer 5.0 ゲストでサポート 121 SCSI ドライバのサポート、Windows XP ゲスト 31 SCSI ハード ドライブ、Solaris 8の 検出 235 Server Core、64 ビット Windows 2008 Server 25 Solaris 10 228 ゲスト OS のインストール 228 Solaris 8 233 SCSIハード ドライブの検出 235 ゲスト OS のインストール 233 Solaris 9 230

SCSI ハード ディスク、LSI Logic ア ダプタを使用 230 ゲスト OS のインストール 230 Solaris 9をサポートする SCSI 230 Sun Java Desktop System 2 120 ゲスト OS のインストール 120 SUSE Linux 10 147 ゲスト OS のインストール 147 SUSE Linux 10.1 145 ゲスト OS のインストール 145 SUSE Linux 7.3 160 Xサーバのインストール 160 ゲスト OS のインストール 160 SUSE Linux 8.0 158 Xサーバのインストール 158 ゲスト OS のインストール 158 SUSE Linux 8.1 156 Xサーバのインストール 156 ゲスト OS のインストール 156 SUSE Linux 8.2 154 Xサーバのインストール 154 ゲスト OS のインストール 154 SUSE Linux 9.0 152 ゲスト OS のインストール 152 SUSE Linux 9.1 151 ゲスト OS のインストール 151 SUSE Linux 9.2 150 ゲスト OS のインストール 150 SUSE Linux 9.3 149 ゲスト OS のインストール 149 SUSE Linux Enterprise Desktop 10 128 ゲスト OS のインストール 128 SUSE Linux Enterprise Server 10 131 ゲスト OS のインストール 131 SUSE Linux Enterprise Server 11 130 ゲスト OS のインストール 130 SUSE Linux Enterprise Server 7 137

Xサーバのインストール 137 ゲスト OS のインストール 137 SUSE Linux Enterprise Server 8 135 ゲスト OS のインストール 135 SUSE Linux Enterprise Server 9 133 ゲスト OS のインストール 133

Т

Turbolinux 10 Desktop 163 ゲスト OS のインストール 163 Turbolinux 10 Server 162 ゲスト OS のインストール 162 Turbolinux 7.0 168 ゲスト OS のインストール 168 Turbolinux Enterprise Server 8 164 ゲスト OS のインストール 164 Turbolinux Workstation 8 166 ゲスト OS のインストール 166

U

Ubuntu 8.04 | TS 176 root、有効にして VMware Tools を インストール 177 ゲスト OS のインストール 176 Ubuntu 8.10 174 root、有効にして VMware Tools を インストール 175 ゲスト OS のインストール 174 Ubuntu 9.04 172 root、有効にして VMware Tools を インストール 173 ゲスト OS のインストール 172 Ubuntu 9.10 170 root、有効にして VMware Tools を インストール 171 ゲスト OS のインストール 170 Ubuntu Linux 5.04 188 root、有効にして VMware Tools を

インストール 188 ゲスト OS のインストール 188 Ubuntu Linux 5.10 186 root、有効にして VMware Tools を インストール 186 ゲスト OS のインストール 186 Ubuntu Linux 6.06 184 root、有効にして VMware Tools を インストール 184 ゲスト OS のインストール 184 Ubuntu Linux 6.10 182 root、有効にして VMware Tools を インストール 182 ゲスト OS のインストール 182 Ubuntu Linux 7.04 180 root、有効にして VMware Tools を インストール 181 ゲスト OS のインストール 180 Ubuntu Linux 7.10 178 root、有効にして VMware Tools を インストール 179 ゲスト OS のインストール 178

۷

VMware Server のサウンド アダプタ 18 VMware Tools MS-DOS 6.22 または Windows 3.1x、 未対応 46 VMware Tools、root を有効にして インストール Ubuntu 8.04 LTS 177 Ubuntu 8.04 LTS 177 Ubuntu 8.10 175 Ubuntu 9.04 173 Ubuntu 9.10 171 Ubuntu 9.10 171 Ubuntu Linux 5.04 188 Ubuntu Linux 5.10 186 Ubuntu Linux 6.06 184 Ubuntu Linux 6.10 182

Ubuntu Linux 7.04 181 Ubuntu Linux 710 179 VMware Tools と X サーバ Mandrake Linux 10.1 ゲスト 72 Mandrake Linux 10 ゲスト 74 Mandrake Linux 8.0 または 8.1 ゲスト 85 Mandrake Linux 8.2 ゲスト 83 Mandrake Linux 9.0 ゲスト 81 Mandrake Linux 9.1 ゲスト 79 Mandrake Linux 9.2 ゲスト 76 Mandriva Corporate Desktop 4 ゲスト 62 Mandriva Corporate Server 4 ゲスト 64 Mandriva Linux 2006 ゲスト 70 Mandriva Linux 2007 ゲスト 68 Mandriva Linux 2008 ゲスト 66 Red Hat Enterprise Linux 2.1 ゲスト 100 Red Hat Linux 7.0 ゲスト 115 Red Hat Linux 7.1 ゲスト 113 Red Hat Linux 7.2 ゲスト 111 Red Hat Linux 7.3 ゲスト 109 Red Hat Linux 8.0 ゲスト 107 Red Hat Linux 9.0 ゲスト 104 SUSE Linux 7.3 ゲスト 160 SUSE Linux 8.0 ゲスト 158 SUSELinux 8.1 ゲスト 156 SUSELinux 8.2 ゲスト 154 SUSE Linux Enterprise Server 7 ゲスト 137

W

Windows 2000 33 ゲスト OS のインストール 33 Windows 3.1x 44

VMware Tools 未対応 46 ゲスト OS のインストール 44 Windows 7 21 ゲスト OS のインストール 21 Windows 95 40 DMA の有効化 42 イーサネット アダプタ用のドライ バのインストール 41 インストール後のネットワークの 有効化.42 ゲスト OS のインストール 40 中断したインストールの レジューム 41 Windows 95 ゲストの中断されたセット アップ 41 Windows 95 のインストール時の MS-DOS プロンプト 41 Windows 98 38 インストール後のネットワークの 有効化 39 ゲスト OS のインストール 38 フロッピー ディスクから起動 38 Windows Me 37 ゲスト OS のインストール 37 Windows NT 34 DMA の有効化 34 インストール後のネットワークの 有効化, 35, 42 ゲスト OS のインストール 34 複数のディスク、使用 34 Windows NT ゲストで複数使用する ディスク 34 Windows Preinstallation Environment 22 PE 2.1 の ISO イメージの作成 22 ゲスト OS のインストール 22 Windows Recovery Environment 24 ゲスト OS のインストール 24 Windows Server 2003 29

ゲスト OS のインストール 29 Windows Server 2008 25 Server Core の機能、64 ビット 25 ゲスト OS のインストール 25 Windows Vista 27 ゲスト OS のインストール 27 Windows XP 31 SCSI ドライバのサポート 31 ゲスト OS のインストール 31 Windows XP 向け SCSI ドライバの サポート 31

Х

Xサーバ、選択 Mandrake Linux 10.1 ゲスト 72 Mandrake Linux 10 ゲスト 74 Mandrake Linux 8.0 または 8.1 ゲスト 85 Mandrake Linux 8.2 ゲスト 83 Mandrake Linux 9.0 ゲスト 81 Mandrake Linux 9.1 ゲスト 79 Mandrake Linux 9.2 ゲスト 76 Mandriva Corporate Desktop 4 ゲスト 62 Mandriva Corporate Server 4 ゲスト 64 Mandriva Linux 2006 ゲスト 70 Mandriva Linux 2007 ゲスト 68 Mandriva Linux 2008 ゲスト 66 Red Hat Enterprise Linux 2.1 ゲスト 100 Red Hat Linux 7.0 ゲスト 115 Red Hat Linux 7.1 ゲスト 113 Red Hat Linux 7.2 ゲスト 111 Red Hat Linux 8.0 ゲスト 107 Red Hat Linux 9.0 ゲスト 104 Red Hat Linux Workstation 7.3 ゲスト 109

SUSE Linux 7.3 ゲスト 160 SUSE Linux 8.0 ゲスト 158 SUSE Linux 8.1 ゲスト 156 SUSE Linux 8.2 ゲスト 154 SUSE Linux Enterprise Server 7 ゲスト 137

か

カーネル、不適切な種類のインストール を回避、Red Hat Enterprise Linux 2.1 101 仮想ディスク パーティショニング 19 フォーマット 19 仮想ディスクの推奨、SCO OpenServer 5.0 121 仮想ディスクのパーティショニング 19 仮想ディスクのフォーマット 19

き

起動ディスクの作成 IBM OS/2.4.0 ゲスト 58 IBM OS/2 Warp 4.5.2 ゲスト 56

け

ゲスト OS のインストール Asianux 3.0 ゲスト 47 CentOS 4 ゲスト 51 CentOS 5 ゲスト 49 Debian 4.0 ゲスト 54 Debian 5.0 53 FreeBSD 4.0、4.1、4.2、4.3 ゲスト 212 FreeBSD 4.10 ゲスト 209 FreeBSD 4.11 ゲスト 208 FreeBSD 4.4、4.5、4.6.2、4.8 ゲスト 211 FreeBSD 4.9 ゲスト 210 FreeBSD 5.0 ゲスト 207

FreeBSD 5.1 ゲスト 206 FreeBSD 5.2 ゲスト 205 FreeBSD 5.3 ゲスト 204 FreeBSD 5.4 ゲスト 203 FreeBSD 5.5 ゲスト 202 FreeBSD 6.0 ゲスト 201 FreeBSD 6.1 ゲスト 200 FreeBSD 6.2 ゲスト 199 FreeBSD 6.3 ゲスト 197 FreeBSD 6.4 ゲスト 195 FreeBSD 7.0 ゲスト 194 FreeBSD 7.1 ゲスト 192 FreeBSD 7.2 ゲスト 190 IBM OS/2 Warp 4.0 ゲスト 57 IBM OS/2 Warp 4.5.2 ゲスト 55 Mac OS X Server 10.5 ゲスト 59 Mandrake Linux 10.1 ゲスト 72 Mandrake Linux 10 ゲスト 74 Mandrake Linux 8.0 または 8.1 ゲスト 85 Mandrake Linux 8.2 ゲスト 83 Mandrake Linux 9.0 ゲスト 81 Mandrake Linux 9.1 ゲスト 79 Mandrake Linux 9.2 ゲスト 76 Mandriva Corporate Desktop 4 ゲスト 62 Mandriva Corporate Server 4 ゲスト 64 Mandriva Linux 2006 ゲスト 70 Mandriva Linux 2007 ゲスト 68 Mandriva Linux 2008 ゲスト 66 MS-DOS 6.22 ゲスト 44 NetWare 4.2 Server ゲスト 224 NetWare 5.1 Server ゲスト 221 NetWare 60 Server ゲスト 218 NetWare 6.5 Server ゲスト 215 Novell Linux Desktop 9 ゲスト 87 Open SUSE Linux 10.3 ゲスト 141 Open SUSE Linux 11.1 ゲスト 139 Oracle Enterprise Linux 4 90 Oracle Enterprise Linux 5 88 Red Hat Enterprise Linux 2.1 ゲスト 100 Red Hat Enterprise Linux 3 ゲスト 97 Red Hat Enterprise Linux 4 ゲスト 94 Red Hat Enterprise Linux 5 ゲスト 92 Red Hat Linux 6.2 ゲスト 117 Red Hat Linux 7.0 ゲスト 115 Red Hat Linux 7.1 ゲスト 113 Red Hat Linux 7.2 ゲスト 111 Red Hat Linux 7.3 ゲスト 109 Red Hat Linux 8.0 ゲスト 107 Red Hat Linux 9.0 ゲスト 104 SCO OpenServer 5.0 ゲスト 121 SCO UnixWare 7 ゲスト 125 Solaris 10 ゲスト 228 Solaris 8 ゲスト 233 Solaris9ゲスト 230 Sun Java Desktop System 2 ゲスト 120 SUSE Linux 10.1 ゲスト 145 SUSE Linux 10 ゲスト 147 SUSE Linux 7.3 ゲスト 160 SUSELinux 80 ゲスト 158 SUSE Linux 8.1 ゲスト 156 SUSE Linux 8.2 ゲスト 154 SUSE Linux 9.0 ゲスト 152 SUSELinux 9.1 ゲスト 151 SUSE Linux 9.2 ゲスト 150 SUSE Linux 9.3 ゲスト 149 SUSE Linux Enterprise Desktop 10 ゲスト 128 SUSE Linux Enterprise Server 10 ゲスト 131

SUSE Linux Enterprise Server 11 ゲスト 130 SUSE Linux Enterprise Server 7 ゲスト 137 SUSE Linux Enterprise Server 8 ゲスト 135 SUSE Linux Enterprise Server 9 ゲスト 133 Turbolinux 10 Desktop ゲスト 163 Turbolinux 10 Server ゲスト 162 Turbolinux 70 ゲスト 168 Turbolinux Enterprise Server 8 ゲスト 164 Turbolinux Workstation 8 ゲスト 166 Ubuntu 8.0.4 LTS ゲスト 176 Ubuntu 8.10 ゲスト 174 Ubuntu 9.04 ゲスト 172 Ubuntu 9.10 ゲスト 170 Ubuntu Linux 5.04 ゲスト 188 Ubuntu Linux 5.10 ゲスト 186 Ubuntu Linux 6.06 ゲスト 184 Ubuntu Linux 6.10 ゲスト 182 Ubuntu Linux 7.04 ゲスト 180 Ubuntu Linux 7.10 ゲスト 178 Windows 2000 ゲスト 33 Windows 3.1x ゲスト 44 Windows7ゲスト 21 Windows 95 ゲスト 40 Windows 98 ゲスト 38 Windows Me ゲスト 37 Windows NT ゲスト 34 Windows Preinstallation Environment のゲスト 22 Windows Recovery Environment \mathcal{O} ゲスト 24 Windows Server 2003 ゲスト 29 Windows Server 2008 ゲスト 25

Windows Vista ゲスト 27 Windows XP ゲスト 31 ゲスト OS のインストール、ISO イメー ジの使用 20 ゲスト OS のライセンス 19

す

スクリーン セーバー、ホストでオフ 19

ね

ネットワーク Windows 95 ゲストへのドライバの インストール 41 Windows 95 ゲスト、有効化 42 Windows 98 ゲスト 39 Windows NT ゲスト 35,42

ふ

フロッピー ディスクと Windows 98 の インストール 38

め

メンテナンス パック、SCO UnixWare 7 ゲスト用にインストール 125

ゲスト OS インストール ガイド